

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号
特許第5693206号
(P5693206)

(45) 発行日 平成27年4月1日(2015.4.1)

(24) 登録日 平成27年2月13日(2015.2.13)

(51) Int.Cl.

G09C 1/00 (2006.01)

F I

G09C 1/00 620Z

請求項の数 8 (全 69 頁)

(21) 出願番号	特願2010-286511 (P2010-286511)	(73) 特許権者	000006013
(22) 出願日	平成22年12月22日 (2010.12.22)		三菱電機株式会社
(65) 公開番号	特開2012-133214 (P2012-133214A)		東京都千代田区丸の内二丁目7番3号
(43) 公開日	平成24年7月12日 (2012.7.12)	(73) 特許権者	000004226
審査請求日	平成25年11月14日 (2013.11.14)		日本電信電話株式会社
			東京都千代田区大手町一丁目5番1号
		(74) 代理人	100099461
			弁理士 溝井 章司
		(74) 代理人	100151220
			弁理士 八巻 満隆
		(72) 発明者	高島 克幸
			東京都千代田区丸の内二丁目7番3号 三
			菱電機株式会社内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 暗号処理システム、鍵生成装置、暗号化装置、復号装置、暗号処理方法及び暗号処理プログラム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

鍵生成装置と暗号化装置と復号装置とを備え、基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{K^P}$ (d^{K^P} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{K^P}$ 及び基底 $B_t^{*K^P}$ と、 $t = 1, \dots, d^{C^P}$ (d^{C^P} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{C^P}$ 及び基底 $B_t^{*C^P}$ とを用いて暗号処理を実行する暗号処理システムであり、

前記鍵生成装置は、

$i = 1, \dots, L^{K^P}$ (L^{K^P} は 1 以上の整数) の各整数 i についての変数 $^{K^P}(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{K^P}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $v_{i, i}^{K^P} := (v_{i, i'}^{K^P})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{K^P}$, $n_t^{K^P}$ は 1 以上の整数) との肯定形の組 $(t, v_{i, i}^{K^P})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i, i}^{K^P})$ のいずれかである変数 $^{K^P}(i)$ と、 L^{K^P} 行 r^{K^P} 列 (r^{K^P} は 1 以上の整数) の所定の行列 M^{K^P} とを入力する第 1 K^P 情報入力部と、

$t = 1, \dots, d^{C^P}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{t, i}^{C^P} := (x_{t, i'}^{C^P})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$, $n_t^{C^P}$ は 1 以上の整数) とを有する属性集合 $^{C^P}$ を入力する第 1 C^P 情報入力部と、

基底 B_0^* の基底ベクトル $b_{0, p}^*$ (p は所定の値) の係数として値 $-s_0^{K^P}$ ($s_0^{K^P} := h^{K^P} \cdot (f^{K^P})^T$, h^{K^P} 及び f^{K^P} は r^{K^P} 個の要素を有するベクトル) を設定し、基底ベクトル $b_{0, p'}^*$ (p' は前記 p とは異なる所定の値) の係数として乱数 $^{C^P}$ を設定し、基底ベクトル $b_{0, q}^*$ (q は前記 p 及び前記 p' とは

10

20

異なる所定の値)の係数として所定の値を設定して要素 $k^*_{i,1}$ を生成する主復号鍵生成部と、

前記 $f^{K,P}$ と、前記第1KP情報入力部が入力した行列 $M^{K,P}$ に基づき生成される列ベクトル $(s^{K,P})^T := (s^{K,P}_1, \dots, s^{K,P}_i)^T := M^{K,P} \cdot (f^{K,P})^T$ ($i = 1, \dots, L^{K,P}$)と、乱数 $i^{K,P}$ ($i = 1, \dots, L^{K,P}$)とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K,P}$ の各整数 i についての要素 $k^*_{i,1}$ を生成するKP復号鍵生成部であって、 $i = 1, \dots, L^{K,P}$ の各整数 i について、変数 $^{K,P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v^{K,P}_i)$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B^{K,P}_t$ の基底ベクトル $b^{K,P}_{t,1}$ の係数として $s^{K,P}_i + i^{K,P} v^{K,P}_{i,1}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{K,P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b^{K,P}_{t,i'}$ の係数として $i^{K,P} v^{K,P}_{i,i'}$ を設定して要素 $k^*_{i,i'}$ を生成し、変数 $^{K,P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v^{K,P}_i)$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{K,P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b^{K,P}_{t,i'}$ の係数として $s^{K,P}_i v^{K,P}_{i,i'}$ を設定して要素 $k^*_{i,i'}$ を生成するKP復号鍵生成部と、

前記第1CP情報入力部が入力した属性集合 C^P に含まれる各識別情報 t についての要素 $k^*_{t,i}$ を生成するCP復号鍵生成部であって、基底 $B^{C,P}_t$ の基底ベクトル $b^{C,P}_{t,i}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{C,P}$)の係数として前記乱数 C^P 倍した $x_{t,i}$ を設定して要素 $k^*_{t,i}$ を生成するCP復号鍵生成部と

を備え、

前記暗号化装置は、

$t = 1, \dots, d^{K,P}$ の少なくとも1つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x^{K,P}_t := (x_{t,i})^{K,P}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{K,P}$)とを有する属性集合 K^P を入力する第2KP情報入力部と、

$i = 1, \dots, L^{C,P}$ ($L^{C,P}$ は1以上の整数)の各整数 i についての変数 $^{C,P}(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{C,P}$ のいずれかの整数)と、属性ベクトル $v^{C,P}_i := (v_{i,i'})^{C,P}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{C,P}$)との肯定形の組 $(t, v^{C,P}_i)$ 又は否定形の組 $\neg(t, v^{C,P}_i)$ のいずれかである変数 $^{C,P}(i)$ と、 $L^{C,P}$ 行 $r^{C,P}$ 列 ($r^{C,P}$ は1以上の整数)の所定の行列 $M^{C,P}$ とを入力する第2CP情報入力部と、

基底 $B^{C,P}_0$ の基底ベクトル $b^{C,P}_{0,p}$ の係数として乱数 K^P を設定し、基底ベクトル $b^{C,P}_{0,p}$ の係数として値 $-s^{C,P}_0$ ($s^{C,P}_0 := h^{C,P} \cdot (f^{C,P})^T$, $h^{C,P}$ 及び $f^{C,P}$ は $r^{C,P}$ 個の要素を有するベクトル)を設定し、基底ベクトル $b^{C,P}_{0,q}$ の係数として乱数 C,P を設定して要素 $c^{C,P}_0$ を生成する主暗号化データ生成部と、

前記第2KP情報入力部が入力した属性集合 K^P に含まれる各識別情報 t についての要素 $c^{K,P}_t$ を生成するKP暗号化データ生成部であって、基底 $B^{K,P}_t$ の基底ベクトル $b^{K,P}_{t,i}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{K,P}$)の係数として前記乱数 K^P 倍した $x_{t,i}$ を設定して要素 $c^{K,P}_t$ を生成するKP暗号化データ生成部と、

前記 $f^{C,P}$ と、前記第2CP情報入力部が入力した行列 $M^{C,P}$ とに基づき生成される列ベクトル $(s^{C,P})^T := (s^{C,P}_1, \dots, s^{C,P}_i)^T := M^{C,P} \cdot (f^{C,P})^T$ ($i = 1, \dots, L^{C,P}$)と、乱数 $i^{C,P}$ ($i = 1, \dots, L^{C,P}$)とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C,P}$ の各整数 i についての要素 $c^{C,P}_i$ を生成するCP暗号化データ生成部であって、 $i = 1, \dots, L^{C,P}$ の各整数 i について、変数 $^{C,P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v^{C,P}_i)$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B^{C,P}_t$ の基底ベクトル $b^{C,P}_{t,1}$ の係数として $s^{C,P}_i + i^{C,P} v^{C,P}_{i,1}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{C,P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b^{C,P}_{t,i'}$ の係数として $i^{C,P} v^{C,P}_{i,i'}$ を設定して要素 $c^{C,P}_i$ を生成し、変数 $^{C,P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v^{C,P}_i)$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{C,P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b^{C,P}_{t,i'}$ の係数として $s^{C,P}_i v^{C,P}_{i,i'}$ を設定して要素 $c^{C,P}_i$ を生成するCP暗号化データ生成部とを備え、

10

20

30

40

50

前記復号装置は、

前記主暗号化データ生成部が生成した要素 c_0 と、前記 KP 暗号化データ生成部が生成した要素 c_t^{KP} と、前記 CP 暗号化データ生成部が生成した要素 c_i^{CP} と、前記属性集合 K^P と、前記変数 $C^P(i)$ とを含む暗号化データ $ct(K^P, SC^P)$ を取得するデータ取得部と、

前記主復号鍵生成部が生成した要素 k_0^* と、前記 KP 復号鍵生成部が生成した要素 k_i^{KP} と、前記 CP 復号鍵生成部が生成した要素 k_t^{CP} と、前記変数 $K^P(i)$ と、前記属性集合 C^P とを含む復号鍵 $sk(SK^P, CP)$ を取得する復号鍵取得部と、

前記データ取得部が取得した暗号化データ $ct(K^P, SC^P)$ に含まれる属性集合 K^P と、前記復号鍵取得部が取得した復号鍵 $sk(SK^P, CP)$ に含まれる変数 $K^P(i)$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{KP}$ の各整数 i のうち、変数 $K^P(i)$ が肯定形の組 (t, v_i^{KP}) であり、かつ、その組の v_i^{KP} と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる x_t^{KP} との内積が 0 となる i と、変数 $K^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_i^{KP})$ であり、かつ、その組の v_i^{KP} と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる x_t^{KP} との内積が 0 とならない i との集合 I^{KP} を特定するとともに、特定した集合 I^{KP} に含まれる i について、 $i^{KP} M_i^{KP}$ を合計した場合に前記 h_{KP} となる補完係数 i^{KP} を計算する KP 補完係数計算部と、

前記暗号化データ $ct(K^P, SC^P)$ に含まれる $i = 1, \dots, L^{CP}$ の各整数 i についての変数 $C^P(i)$ と、前記復号鍵 $sk(SK^P, CP)$ に含まれる属性集合 C^P とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{CP}$ の各整数 i のうち、変数 $C^P(i)$ が肯定形の組 (t, v_i^{CP}) であり、かつ、その組の v_i^{CP} と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる x_t^{CP} との内積が 0 となる i と、変数 $C^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_i^{CP})$ であり、かつ、その組の v_i^{CP} と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる x_t^{CP} との内積が 0 とならない i との集合 I^{CP} を特定するとともに、特定した集合 I^{CP} に含まれる i について、 $i^{CP} M_i^{CP}$ を合計した場合に前記 h_{CP} となる補完係数 i^{CP} を計算する CP 補完係数計算部と、

前記暗号化データ $ct(K^P, SC^P)$ に含まれる要素 c_0 と要素 c_t^{KP} と要素 c_i^{CP} と、前記復号鍵 $sk(SK^P, CP)$ に含まれる要素 k_0^* と要素 k_i^{KP} と要素 k_t^{CP} とについて、前記 KP 補完係数計算部が特定した集合 I^{KP} と、前記 KP 補完係数計算部が計算した補完係数 i^{KP} と、前記 CP 補完係数計算部が特定した集合 I^{CP} と、前記 CP 補完係数計算部が計算した補完係数 i^{CP} とに基づき、数 1 に示すペアリング演算を行い値 K を計算するペアリング演算部とを備えることを特徴とする暗号処理システム。

【数 1】

$$K := e(c_0, k_0^*) \cdot$$

$$\prod_{i \in I^{KP} \wedge \rho^{KP}(i) = (t, \vec{v}_i^{KP})} e(c_t^{KP}, k_i^{*KP}) \alpha_i^{KP}.$$

$$\prod_{i \in I^{KP} \wedge \rho^{KP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{KP})} e(c_t^{KP}, k_i^{*KP}) \alpha_i^{KP / (\vec{v}_i^{KP} \cdot \vec{x}_i^{KP})}.$$

$$\prod_{i \in I^{CP} \wedge \rho^{CP}(i) = (t, \vec{v}_i^{CP})} e(c_t^{CP}, k_i^{*CP}) \alpha_i^{CP}.$$

$$\prod_{i \in I^{CP} \wedge \rho^{CP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{CP})} e(c_t^{CP}, k_i^{*CP}) \alpha_i^{CP / (\vec{v}_i^{CP} \cdot \vec{x}_i^{CP})}$$

10

20

30

40

50

【請求項 2】

前記暗号処理システムは、

少なくとも基底ベクトル $b_{0,i}$ ($i = 1, 2, \dots, 2 + u_0, 2 + u_0 + 1, \dots, 2 + u_0 + 1 + w_0, \dots, 2 + u_0 + 1 + z_0$) を有する基底 B_0 と、

少なくとも基底ベクトル $b_{0,i}^*$ ($i = 1, 2, \dots, 2 + u_0, 2 + u_0 + 1, \dots, 2 + u_0 + 1 + w_0, \dots, 2 + u_0 + 1 + z_0$) を有する基底 B_0^* と、

少なくとも基底ベクトル $b_{t,i}^{KP}$ ($i = 1, \dots, n_t^{KP}, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP}, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP}, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + z_t^{KP}$) ($u_t^{KP}, w_t^{KP}, z_t^{KP}$ は 1 以上の整数、) を有する基底 B_t^{KP} ($t = 1, \dots, d^{KP}$) と、

少なくとも基底ベクトル $b_{t,i}^{*KP}$ ($i = 1, \dots, n_t^{KP}, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP}, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP}, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + z_t^{KP}$) を有する基底 B_t^{*KP} ($t = 1, \dots, d^{KP}$) と、

少なくとも基底ベクトル $b_{t,i}^{CP}$ ($i = 1, \dots, n_t^{CP}, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP}, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP}, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP} + z_t^{CP}$) ($u_t^{CP}, w_t^{CP}, z_t^{CP}$ は 1 以上の整数、) を有する基底 B_t^{CP} ($t = 1, \dots, d^{CP}$) と、

少なくとも基底ベクトル $b_{t,i}^{*CP}$ ($i = 1, \dots, n_t^{CP}, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP}, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP}, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP} + z_t^{CP}$) を有する基底 B_t^{*CP} ($t = 1, \dots, d^{CP}$) と

を用いて暗号処理を実行し、

前記鍵生成装置では、

前記主復号鍵生成部は、乱数 $c_{0,i}$ ($i = 1, \dots, w_0$) と所定の値とに基づき数 2 に示す要素 $k_{0,i}^*$ を生成し、

前記 KP 復号鍵生成部は、前記変数 v_i^{KP} (i) が肯定形の組 (t, v_i^{KP}) である場合には、乱数 $c_{i,i'}^{KP}$ ($i = 1, \dots, L^{KP}, i' = 1, \dots, w_t^{KP}$) に基づき数 3 に示す要素 $k_{i,i'}^{KP}$ を生成し、変数 v_i^{KP} (i) が否定形の組 $\neg(t, v_i^{KP})$ である場合には、乱数 $c_{i,i'}^{KP}$ ($i = 1, \dots, L^{KP}, i' = 1, \dots, w_t^{KP}$) に基づき数 4 に示す要素 $k_{i,i'}^{KP}$ を生成し、

前記 CP 復号鍵生成部は、前記乱数 $c_{0,i}$ と乱数 $c_{t,i}^{CP}$ ($i = 1, \dots, w_t^{CP}$) に基づき数 5 に示す要素 $k_{t,i}^{CP}$ とを生成し、

前記暗号化装置では、

前記主暗号化データ生成部は、前記乱数 $c_{0,i}$ と乱数 $c_{0,i}$ ($i = 1, \dots, z_0$) とに基づき数 6 に示す要素 $c_{0,i}$ を生成し、

前記 KP 暗号化データ生成部は、前記乱数 $c_{0,i}$ と乱数 $c_{t,i}^{KP}$ ($i = 1, \dots, z_t^{KP}$) に基づき数 7 に示す要素 $c_{t,i}^{KP}$ とを生成し、

前記 CP 暗号化データ生成部は、前記変数 v_i^{CP} (i) が肯定形の組 (t, v_i^{CP}) である場合には、乱数 $c_{i,i'}^{CP}$ ($i = 1, \dots, L^{CP}, i' = 1, \dots, w_t^{CP}$) に基づき数 8 に示す要素 $c_{i,i'}^{CP}$ を生成し、変数 v_i^{CP} (i) が否定形の組 $\neg(t, v_i^{CP})$ である場合には、乱数 $c_{i,i'}^{CP}$ ($i = 1, \dots, L^{CP}, i' = 1, \dots, w_t^{CP}$) に基づき数 9 に示す要素 $c_{i,i'}^{CP}$ を生成する

ことを特徴とする請求項 1 に記載の暗号処理システム。

【数 2】

$$k_0^* := (-s_0^{KP}, \delta^{CP}, \overbrace{0^{u_0}}, \overbrace{1, \eta_{0,1}, \dots, \eta_{0,w_0}}, \overbrace{0^{z_0}})_{\mathbb{B}_0^*}$$

【数 3】

$$k_i^{*KP} := (\overbrace{(s_i^{KP} + \theta_i^{KP} v_{i,1}^{KP}, \theta_i^{KP} v_{i,2}^{KP}, \dots, \theta_i^{KP} v_{i,n_t^{KP}}^{KP},}^{n_t^{KP}} \\ \underbrace{0u_t^{KP}}_{u_t^{KP}}, \underbrace{\eta_{i,1}^{KP}, \dots, \eta_{i,w_t^{KP}}^{KP}}_{w_t^{KP}}, \underbrace{0z_t^{KP}}_{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_t^{*KP}})$$

10

【数 4】

$$k_i^{*KP} := (\overbrace{(s_i^{KP} v_{i,1}^{KP}, \dots, s_i^{KP} v_{i,n_t^{KP}}^{KP},}^{n_t^{KP}} \\ \underbrace{0u_t^{KP}}_{u_t^{KP}}, \underbrace{\eta_{i,1}^{KP}, \dots, \eta_{i,w_t^{KP}}^{KP}}_{w_t^{KP}}, \underbrace{0z_t^{KP}}_{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_t^{*KP}})$$

20

【数 5】

$$k_t^{*CP} := (\overbrace{\delta^{CP} \vec{x}_t^{CP}}^{n_t^{CP}}, \underbrace{0u_t^{CP}}_{u_t^{CP}}, \underbrace{\eta_{t,1}^{CP}, \dots, \eta_{t,w_t^{CP}}^{CP}}_{w_t^{CP}}, \underbrace{0z_t^{KP}}_{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_t^{*CP}}$$

【数 6】

$$c_0 := (\omega^{KP}, -s_0^{CP}, \underbrace{0u_0}_{u_0}, \zeta, \underbrace{0w_0}_{w_0}, \underbrace{\varphi_{0,1}, \dots, \varphi_{0,z_0}}_{z_0})_{\mathbb{B}_0}$$

30

【数 7】

$$c_t^{KP} := (\overbrace{\omega^{KP} \vec{x}_t^{KP}}^{n_t^{KP}}, \underbrace{0u_t^{KP}}_{u_t^{KP}}, \underbrace{0w_t^{KP}}_{w_t^{KP}}, \underbrace{\varphi_{t,1}^{KP}, \dots, \varphi_{t,z_t^{KP}}^{KP}}_{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_t^{KP}}$$

40

【数 8】

$$c_i^{\text{CP}} := \overbrace{(s_i^{\text{CP}} + \theta_i^{\text{CP}} v_{i,1}^{\text{CP}}, \theta_i^{\text{CP}} v_{i,2}^{\text{CP}}, \dots, \theta_i^{\text{CP}} v_{i,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}},}^{n_t^{\text{CP}}}$$

$$\underbrace{0 u_t^{\text{CP}}}_{u_t^{\text{CP}}}, \underbrace{0 w_t^{\text{CP}}}_{w_t^{\text{CP}}}, \underbrace{\phi_{i,1}^{\text{CP}}, \dots, \phi_{i,z_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}}_{z_t^{\text{CP}}})_{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}}$$

10

【数 9】

$$c_i^{\text{CP}} := \overbrace{(s_i^{\text{CP}} v_{i,1}^{\text{CP}}, \dots, s_i^{\text{CP}} v_{i,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}},}^{n_t^{\text{CP}}}$$

$$\underbrace{0 u_t^{\text{CP}}}_{u_t^{\text{CP}}}, \underbrace{0 w_t^{\text{CP}}}_{w_t^{\text{CP}}}, \underbrace{\phi_{i,1}^{\text{CP}}, \dots, \phi_{i,z_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}}_{z_t^{\text{CP}}})_{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}}$$

20

【請求項 3】

前記暗号化装置は、さらに、

所定の値 i について $g_T = e(b_{0,i}, b_{0,i}^*)$ であり、 $t = 1, \dots, d^{K_P}$ の各整数 t と所定の値 i について $g_T = e(b_{t,i}, b_{t,i}^*)$ であり、 $t = 1, \dots, d^{C_P}$ の各整数 t と所定の値 i について $g_T = e(b_{t,i}, b_{t,i}^*)$ である値 g_T を用いて、メッセージ m を埋め込んだ要素 $c_{d+1} = g_T \cdot m$ を生成するメッセージ暗号化データ生成部

を備え、

前記復号装置では、

前記データ取得部は、さらに前記要素 c_{d+1} を含む暗号化データ $c_t (K_P, S_{C_P})$ を取得し、

前記復号装置は、さらに、

前記暗号化データ $c_t (K_P, S_{C_P})$ に含まれる前記要素 c_{d+1} を、前記ペアリング演算部が計算した値 K で除して、前記メッセージ m を計算するメッセージ計算部を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の暗号処理システム。

【請求項 4】

基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{K_P}$ (d^{K_P} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{K_P}$ 及び基底 $B_t^{*K_P}$ と、 $t = 1, \dots, d^{C_P}$ (d^{C_P} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{C_P}$ 及び基底 $B_t^{*C_P}$ とを用いて暗号処理を実行する暗号処理システムにおいて、復号鍵 $s_k (S_{K_P}, C_P)$ を生成する鍵生成装置であり、

$i = 1, \dots, L^{K_P}$ (L^{K_P} は 1 以上の整数) の各整数 i についての変数 ${}^{K_P}(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{K_P}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $v_{i'}^{K_P} := (v_{i',i}^{K_P})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{K_P}$, $n_t^{K_P}$ は 1 以上の整数) との肯定形の組 $(t, v_{i'}^{K_P})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i'}^{K_P})$ のいずれかである変数 ${}^{K_P}(i)$ と、 L^{K_P} 行 r^{K_P} 列 (r^{K_P} は 1 以上の整数) の所定の行列 M^{K_P} とを入力する第 1 K_P 情報入力部と、

$t = 1, \dots, d^{C_P}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{i'}^{C_P} := (x_{i',i}^{C_P})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{C_P}$, $n_t^{C_P}$ は

30

40

50

1以上の整数)とを有する属性集合 C^P を入力する第1CP情報入力部と、

基底 B_0^* の基底ベクトル $b_{0,p}^*$ (p は所定の値) の係数として値 $-s_{0,KP}^*$ ($s_{0,KP}^* := h_{KP} \cdot (f_{KP})^T$, h_{KP} 及び f_{KP} は r_{KP} 個の要素を有するベクトル) を設定し、基底ベクトル $b_{0,p'}^*$ (p' は前記 p とは異なる所定の値) の係数として乱数 C^P を設定し、基底ベクトル $b_{0,q}^*$ (q は前記 p 及び前記 p' とは異なる所定の値) の係数として所定の値を設定して復号鍵 $sk(s_{KP}, C_P)$ の要素 k_0^* を生成する主復号鍵生成部と、

前記 f_{KP} と、前記第1KP情報入力部が入力した行列 M^{KP} に基づき生成される列ベクトル $(s_{KP})^T := (s_1^{KP}, \dots, s_i^{KP})^T := M^{KP} \cdot (f_{KP})^T$ ($i = L^{KP}$) と、乱数 i^{KP} ($i = 1, \dots, L^{KP}$) とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{KP}$ の各整数 i についての要素 k_i^{KP} を生成するKP復号鍵生成部であって、 $i = 1, \dots, L^{KP}$ の各整数 i について、変数 $K^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i,KP})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 B_t^{KP} の基底ベクトル $b_{t,1}^{KP}$ の係数として $s_i^{KP} + i^{KP} v_{i,1}^{KP}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{KP}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{KP}$ の係数として $i^{KP} v_{i,i'}^{KP}$ を設定して復号鍵 $sk(s_{KP}, C_P)$ の要素 k_i^{KP} を生成し、変数 $K^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i,KP})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{KP}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{KP}$ の係数として $s_i^{KP} v_{i,i'}^{KP}$ を設定して復号鍵 $sk(s_{KP}, C_P)$ の要素 k_i^{KP} を生成するKP復号鍵生成部と、

前記第1CP情報入力部が入力した属性集合 C^P に含まれる各識別情報 t についての要素 k_t^{CP} を生成するCP復号鍵生成部であって、基底 B_t^{CP} の基底ベクトル $b_{t,i'}^{CP}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{CP}$) の係数として前記乱数 C^P 倍した $x_{t,i'}^{CP}$ を設定して復号鍵 $sk(s_{KP}, C_P)$ の要素 k_t^{CP} を生成するCP復号鍵生成部と

を備えることを特徴とする鍵生成装置。

【請求項5】

基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ (d^{KP} は1以上の整数) の各整数 t についての基底 B_t^{KP} 及び基底 B_t^{*KP} と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ (d^{CP} は1以上の整数) の各整数 t についての基底 B_t^{CP} 及び基底 B_t^{*CP} とを用いて暗号処理を実行する暗号処理システムにおいて、暗号化データ $c_t(K_P, S_{CP})$ を生成する暗号化装置であり、

$t = 1, \dots, d^{KP}$ の少なくとも1つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_t^{KP} := (x_{t,i'}^{KP})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{KP}$) とを有する属性集合 K^P を入力する第2KP情報入力部と、

$i = 1, \dots, L^{CP}$ (L^{CP} は1以上の整数) の各整数 i についての変数 $C^P(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{CP}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $v_i^{CP} := (v_{i,i'}^{CP})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{CP}$) との肯定形の組 (t, v_i^{CP}) 又は否定形の組 $\neg(t, v_i^{CP})$ のいずれかである変数 $C^P(i)$ と、 L^{CP} 行 r^{CP} 列 (r^{CP} は1以上の整数) の所定の行列 M^{CP} とを入力する第2CP情報入力部と、

基底 B_0 の基底ベクトル $b_{0,p}$ の係数として乱数 K^P を設定し、基底ベクトル $b_{0,p'}$ の係数として値 $-s_{0,CP}$ ($s_{0,CP} := h_{CP} \cdot (f_{CP})^T$, h_{CP} 及び f_{CP} は r_{CP} 個の要素を有するベクトル) を設定し、基底ベクトル $b_{0,q}$ の係数として乱数 C^P を設定して暗号化データ $c_t(K_P, S_{CP})$ の要素 c_0 を生成する主暗号化データ生成部と、

前記第2KP情報入力部が入力した属性集合 K^P に含まれる各識別情報 t についての要素 c_t^{KP} を生成するKP暗号化データ生成部であって、基底 B_t^{KP} の基底ベクトル $b_{t,i'}^{KP}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{KP}$) の係数として前記乱数 K^P 倍した $x_{t,i'}^{KP}$ を設定して暗号化データ $c_t(K_P, S_{CP})$ の要素 c_t^{KP} を生成するK

10

20

30

40

50

P暗号化データ生成部と、

前記 f^{C^P} と、前記第2 C^P 情報入力部が入力した行列 M^{C^P} とに基づき生成される列ベクトル $(s^{C^P})^T := (s_1^{C^P}, \dots, s_i^{C^P})^T := M^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$ ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) と、乱数 i^{C^P} ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての要素 $c_i^{C^P}$ を生成する C^P 暗号化データ生成部であって、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i について、変数 $i^{C^P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i,1}^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_t^{C^P}$ の基底ベクトル $b_{t,1}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} + i^{C^P} v_{i,1}^{C^P}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ を設定して暗号化データ $c_t(K^P, s^{C^P})$ の要素 $c_i^{C^P}$ を生成し、変数 $i^{C^P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i,1}^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ を設定して暗号化データ $c_t(K^P, s^{C^P})$ の要素 $c_i^{C^P}$ を生成する C^P 暗号化データ生成部とを備えることを特徴とする暗号化装置。

10

【請求項6】

基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{K^P}$ (d^{K^P} は1以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{K^P}$ 及び基底 $B_t^{*K^P}$ と、 $t = 1, \dots, d^{C^P}$ (d^{C^P} は1以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{C^P}$ 及び基底 $B_t^{*C^P}$ とを用いて暗号処理を実行する暗号処理システムにおいて、暗号化データ $c_t(K^P, s^{C^P})$ を復号鍵 $s^k(s^{K^P}, c^P)$ で復号する復号装置であり、

20

$t = 1, \dots, d^{K^P}$ の少なくとも1つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_t^{K^P} := (x_{t,i'}^{K^P})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{K^P}$, $n_t^{K^P}$ は1以上の整数) とを有する属性集合 K^P と、

$i = 1, \dots, L^{C^P}$ (L^{C^P} は1以上の整数) の各整数 i についての変数 $i^{C^P}(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{C^P}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $v_{i,i'}^{C^P} := (v_{i,i'}^{C^P})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$, $n_t^{C^P}$ は1以上の整数) との肯定形の組 $(t, v_{i,i'}^{C^P})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i,i'}^{C^P})$ のいずれかである変数 $i^{C^P}(i)$ と、

30

L^{C^P} 行 r^{C^P} 列 (r^{C^P} は1以上の整数) の所定の行列 M^{C^P} と、

基底 B_0 の基底ベクトル $b_{0,p}$ の係数として乱数 K^P が設定され、基底ベクトル $b_{0,p}$ の係数として値 $-s_0^{C^P}$ ($s_0^{C^P} := h^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$, h^{C^P} 及び f^{C^P} は r^{C^P} 個の要素を有するベクトル) が設定され、基底ベクトル $b_{0,q}$ の係数として乱数 q が設定された要素 c_0 と、

前記属性集合 K^P に含まれる各識別情報 t について、基底 $B_t^{K^P}$ の基底ベクトル $b_{t,i'}^{K^P}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{K^P}$) の係数として前記乱数 K^P 倍した $x_{t,i'}^{K^P}$ が設定された要素 $c_t^{K^P}$ と、

前記 f^{C^P} と、前記行列 M^{C^P} とに基づき生成される列ベクトル $(s^{C^P})^T := (s_1^{C^P}, \dots, s_i^{C^P})^T := M^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$ ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) と、乱数 i^{C^P} ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i について生成された要素 $c_i^{C^P}$ であって、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i について、変数 $i^{C^P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i,1}^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_t^{C^P}$ の基底ベクトル $b_{t,1}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} + i^{C^P} v_{i,1}^{C^P}$ が設定されるとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ が設定され、変数 $i^{C^P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i,1}^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ が設定された要素 $c_i^{C^P}$ と

40

を含む暗号化データ $c_t(K^P, s^{C^P})$ を取得するデータ取得部と、

$i = 1, \dots, L^{K^P}$ (L^{K^P} は1以上の整数) の各整数 i についての変数 $K^P(i)$

50

i)であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{K^P}$ のいずれかの整数)と、属性ベクトル $v_{i^{K^P}} = (v_{i', i^{K^P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{K^P})$ との肯定形の組 $(t, v_{i^{K^P}})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K^P}})$ のいずれかである変数 $K^P(i)$ と、

L^{K^P} 行 r^{K^P} 列 (r^{K^P} は 1 以上の整数) の所定の行列 M^{K^P} と、

$t = 1, \dots, d^{C^P}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{t^{C^P}} = (x_{t', i^{C^P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{C^P})$ とを有する属性集合 C^P と

基底 $B_{0^{K^P}}^*$ の基底ベクトル $b_{0', p}^{*K^P}$ (p は所定の値) の係数として値 $-s_{0^{K^P}} (s_{0^{K^P}} := h^{K^P} \cdot (f^{K^P})^T, h^{K^P}$ 及び f^{K^P} は r^{K^P} 個の要素を有するベクトル) が設定され、基底ベクトル $b_{0', p'}^{*K^P}$ (p' は前記 p とは異なる所定の値) の係数として乱数 C^P が設定され、基底ベクトル $b_{0', q}^{*K^P}$ (q は前記 p 及び前記 p' とは異なる所定の値) の係数として所定の値 $k_{0^{K^P}}^*$ が設定された要素 $k_{0^{K^P}}^*$ と、

前記 f^{K^P} と、行列 M^{K^P} に基づき生成される列ベクトル $(s_{1^{K^P}}, \dots, s_{i^{K^P}})^T := M^{K^P} \cdot (f^{K^P})^T (i = L^{K^P})$ と、乱数 $i^{K^P} (i = 1, \dots, L^{K^P})$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i について生成された要素 $k_{i^{K^P}}^*$ であって、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i について、変数 $K^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{K^P}})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_{t^{K^P}}^*$ の基底ベクトル $b_{t', 1}^{*K^P}$ の係数として $s_{i^{K^P}} + i^{K^P} v_{i', i^{K^P}}$ が設定されるとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{K^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t', i'}^{*K^P}$ の係数として $i^{K^P} v_{i', i^{K^P}}$ が設定され、変数 $K^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K^P}})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{K^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t', i'}^{*K^P}$ の係数として $s_{i^{K^P}} v_{i', i^{K^P}}$ が設定された要素 $k_{i^{K^P}}^*$ と、

前記属性集合 C^P に含まれる各識別情報 t について、基底 $B_{t^{C^P}}^*$ の基底ベクトル $b_{t', i'}^{*C^P} (i' = 1, \dots, n_t^{C^P})$ の係数として前記乱数 C^P 倍した $x_{t', i'}^{C^P}$ が設定された要素 $k_{t^{C^P}}^*$ と

を含む復号鍵 $s_{k(s^{K^P}, C^P)}$ を取得する復号鍵取得部と、

前記データ取得部が取得した暗号化データ $c_{t(s^{K^P}, s^{C^P})}$ に含まれる属性集合 K^P と、前記復号鍵取得部が取得した復号鍵 $s_{k(s^{K^P}, C^P)}$ に含まれる変数 $K^P(i)$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i のうち、変数 $K^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{K^P}})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{K^P}}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_{t^{K^P}}$ との内積が 0 となる i と、変数 $K^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K^P}})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{K^P}}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_{t^{K^P}}$ との内積が 0 とならない i との集合 I^{K^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{K^P} に含まれる i について、 $i^{K^P} M_{i^{K^P}}$ を合計した場合に前記 h_{K^P} となる補完係数 i^{K^P} を計算する K^P 補完係数計算部と、

前記暗号化データ $c_{t(s^{K^P}, s^{C^P})}$ に含まれる $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての変数 $C^P(i)$ と、前記復号鍵 $s_{k(s^{K^P}, C^P)}$ に含まれる属性集合 C^P とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i のうち、変数 $C^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{C^P}})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{C^P}}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_{t^{C^P}}$ との内積が 0 となる i と、変数 $C^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{C^P}})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{C^P}}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_{t^{C^P}}$ との内積が 0 とならない i との集合 I^{C^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{C^P} に含まれる i について、 $i^{C^P} M_{i^{C^P}}$ を合計した場合に前記 h_{C^P} となる補完係数 i^{C^P} を計算する C^P 補完係数計算部と、

前記暗号化データ $c_{t(s^{K^P}, s^{C^P})}$ に含まれる要素 $c_{0^{K^P}}$ と要素 $c_{t^{K^P}}$ と要素 $c_{i^{C^P}}$ と、前記復号鍵 $s_{k(s^{K^P}, C^P)}$ に含まれる要素 $k_{0^{K^P}}^*$ と要素 $k_{i^{K^P}}^*$ と要素 $k_{t^{C^P}}^*$ について、前記 K^P 補完係数計算部が特定した集合 I^{K^P} と、前記 K^P 補完係数計算部が計算した補完係数 i^{K^P} と、前記 C^P 補完係数計算部が特定した集合

10

20

30

40

50

I^{CP} と、前記 CP 補完係数計算部が計算した補完係数 α_i^{CP} とに基づき、数 10 に示すペアリング演算を行い値 K を計算するペアリング演算部とを備えることを特徴とする復号装置。

【数 10】

$$K := e(c_0, k_0^*).$$

$$\prod_{i \in I^{KP} \wedge \rho^{KP}(i) = (t, \vec{v}_i^{KP})} e(c_t^{KP}, k_i^{*KP}) \alpha_i^{KP} \cdot$$

$$\prod_{i \in I^{KP} \wedge \rho^{KP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{KP})} e(c_t^{KP}, k_i^{*KP}) \alpha_i^{KP} / (\vec{v}_i^{KP} \cdot \vec{x}_t^{KP}).$$

$$\prod_{i \in I^{CP} \wedge \rho^{CP}(i) = (t, \vec{v}_i^{CP})} e(c_t^{CP}, k_i^{*CP}) \alpha_i^{CP} \cdot$$

$$\prod_{i \in I^{CP} \wedge \rho^{CP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{CP})} e(c_t^{CP}, k_i^{*CP}) \alpha_i^{CP} / (\vec{v}_i^{CP} \cdot \vec{x}_t^{CP})$$

10

20

【請求項 7】

基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ (d^{KP} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 B_t^{KP} 及び基底 B_t^{*KP} と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ (d^{CP} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 B_t^{CP} 及び基底 B_t^{*CP} とを用いた暗号処理方法であり、

鍵生成装置が、 $i = 1, \dots, L^{KP}$ (L^{KP} は 1 以上の整数) の各整数 i についての変数 α_i^{KP} (i) であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{KP}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $\vec{v}_{i'}^{KP} := (v_{i',1}^{KP}, \dots, v_{i',n_t^{KP}}^{KP})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{KP}$, n_t^{KP} は 1 以上の整数) との肯定形の組 $(t, \vec{v}_{i'}^{KP})$ 又は否定形の組 $\neg(t, \vec{v}_{i'}^{KP})$ のいずれかである変数 α_i^{KP} (i) と、 L^{KP} 行 r^{KP} 列 (r^{KP} は 1 以上の整数) の所定の行列 M^{KP} とを入力する第 1 KP 情報入力工程と、

30

前記鍵生成装置が、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $\vec{x}_{i'}^{CP} := (x_{i',1}^{CP}, \dots, x_{i',n_t^{CP}}^{CP})$ ($i' = 1, \dots, n_t^{CP}$, n_t^{CP} は 1 以上の整数) とを有する属性集合 ρ^{CP} を入力する第 1 CP 情報入力工程と、

前記鍵生成装置が、基底 B_0^* の基底ベクトル $b_{0,p}^*$ (p は所定の値) の係数として値 $-s_0^{KP}$ ($s_0^{KP} := h^{KP} \cdot (f^{KP})^T$, h^{KP} 及び f^{KP} は r^{KP} 個の要素を有するベクトル) を設定し、基底ベクトル $b_{0,p'}^*$ (p' は前記 p とは異なる所定の値) の係数として乱数 α_i^{CP} を設定し、基底ベクトル $b_{0,q}^*$ (q は前記 p 及び前記 p' とは異なる所定の値) の係数として所定の値 k_0^* を生成する主復号鍵生成工程と、

40

前記鍵生成装置が、前記 f^{KP} と、前記第 1 KP 情報入力工程で入力した行列 M^{KP} に基づき生成される列ベクトル $(s^{KP})^T := (s_1^{KP}, \dots, s_{L^{KP}}^{KP})^T := M^{KP} \cdot (f^{KP})^T$ ($i = L^{KP}$) と、乱数 α_i^{KP} ($i = 1, \dots, L^{KP}$) とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{KP}$ の各整数 i についての要素 $k_{i'}^{*KP}$ を生成する KP 復号鍵生成工程であって、 $i = 1, \dots, L^{KP}$ の各整数 i について、変数 α_i^{KP} (i) が肯定形の組 $(t, \vec{v}_{i'}^{KP})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 B_t^{*KP} の基底ベクトル $b_{t,1}^{*KP}$ の係数として $s_i^{KP} + \alpha_i^{KP} v_{i',1}^{KP}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{KP}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{*KP}$ の係数として $\alpha_i^{KP} v_{i',i'}^{KP}$ を設定して要素 $k_{i'}^*$

50

i^{K^P} を生成し、変数 $K^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K^P}})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{K^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t, i'}^{K^P}$ の係数として $s_{i^{K^P}} v_{i, i'}^{K^P}$ を設定して要素 $k_{i^{K^P}}^*$ を生成する K^P 復号鍵生成工程と、

前記鍵生成装置が、前記第1 C^P 情報入力工程で入力した属性集合 C^P に含まれる各識別情報 t についての要素 $k_{t^{C^P}}^*$ を生成する C^P 復号鍵生成工程であって、基底 $B_{t^{C^P}}$ の基底ベクトル $b_{t, i'}^{C^P}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$) の係数として前記乱数 C^P 倍した $x_{t, i'}^{C^P}$ を設定して要素 $k_{t^{C^P}}^*$ を生成する C^P 復号鍵生成工程と、

暗号化装置が、 $t = 1, \dots, d^{K^P}$ の少なくとも1つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{t^{K^P}} := (x_{t, i'}^{K^P}) (i' = 1, \dots, n_t^{K^P})$ とを有する属性集合 K^P を入力する第2 K^P 情報入力工程と、

前記暗号化装置が、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ (L^{C^P} は1以上の整数) の各整数 i についての変数 $C^P(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{C^P}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $v_{i^{C^P}} := (v_{i, i'}^{C^P}) (i' = 1, \dots, n_t^{C^P})$ との肯定形の組 $(t, v_{i^{C^P}})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i^{C^P}})$ のいずれかである変数 $C^P(i)$ と、 L^{C^P} 行 r^{C^P} 列 (r^{C^P} は1以上の整数) の所定の行列 M^{C^P} とを入力する第2 C^P 情報入力工程と、

前記暗号化装置が、基底 B_0 の基底ベクトル $b_{0, p}$ の係数として乱数 K^P を設定し、基底ベクトル $b_{0, p}$ の係数として値 $-s_0^{C^P}$ ($s_0^{C^P} := h^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$, h^{C^P} 及び f^{C^P} は r^{C^P} 個の要素を有するベクトル) を設定し、基底ベクトル $b_{0, q}$ の係数として乱数 C^P を設定して要素 c_0 を生成する主暗号化データ生成工程と、

前記暗号化装置が、前記第2 K^P 情報入力工程で入力した属性集合 K^P に含まれる各識別情報 t についての要素 $c_{t^{K^P}}$ を生成する K^P 暗号化データ生成工程であって、基底 $B_{t^{K^P}}$ の基底ベクトル $b_{t, i'}^{K^P}$ ($i' = 1, \dots, n_t^{K^P}$) の係数として前記乱数 K^P 倍した $x_{t, i'}^{K^P}$ を設定して要素 $c_{t^{K^P}}$ を生成する K^P 暗号化データ生成工程と、

前記暗号化装置が、前記 f^{C^P} と、前記第2 C^P 情報入力工程で入力した行列 M^{C^P} とに基づき生成される列ベクトル $(s^{C^P})^T := (s_1^{C^P}, \dots, s_{L^{C^P}}^{C^P})^T := M^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$ ($i = L^{C^P}$) と、乱数 i^{C^P} ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての要素 $c_{i^{C^P}}$ を生成する C^P 暗号化データ生成工程であって、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i について、変数 $C^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{C^P}})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_{t^{C^P}}$ の基底ベクトル $b_{t, 1}^{C^P}$ の係数として $s_{i^{C^P}} + i^{C^P} v_{i, 1}^{C^P}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t, i'}^{C^P}$ の係数として $i^{C^P} v_{i, i'}^{C^P}$ を設定して要素 $c_{i^{C^P}}$ を生成し、変数 $C^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{C^P}})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t, i'}^{C^P}$ の係数として $s_{i^{C^P}} v_{i, i'}^{C^P}$ を設定して要素 $c_{i^{C^P}}$ を生成する C^P 暗号化データ生成工程と、

復号装置が、前記主暗号化データ生成工程で生成した要素 c_0 と、前記 K^P 暗号化データ生成工程で生成した要素 $c_{t^{K^P}}$ と、前記 C^P 暗号化データ生成工程で生成した要素 $c_{i^{C^P}}$ と、前記属性集合 K^P と、前記変数 $C^P(i)$ とを含む暗号化データ $c_t(K^P, s_{C^P})$ を取得するデータ取得工程と、

前記復号装置が、前記主復号鍵生成工程で生成した要素 k_0^* と、前記 K^P 復号鍵生成工程で生成した要素 $k_{i^{K^P}}^*$ と、前記 C^P 復号鍵生成工程で生成した要素 $k_{t^{C^P}}^*$ と、前記変数 $K^P(i)$ と、前記属性集合 C^P とを含む復号鍵 $s_k(s_{K^P}, s_{C^P})$ を取得する復号鍵取得工程と、

前記復号装置が、前記データ取得工程で取得した暗号化データ $c_t(K^P, s_{C^P})$

10

20

30

40

50

に含まれる属性集合 K^P と、前記復号鍵取得工程で取得した復号鍵 $s_k(s_{K^P}, c_p)$ に含まれる変数 $K^P(i)$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i のうち、変数 $K^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_i^{K^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{K^P}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_t^{K^P}$ との内積が 0 となる i と、変数 $K^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_i^{K^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{K^P}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_t^{K^P}$ との内積が 0 とならない i との集合 I^{K^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{K^P} に含まれる i について、 $i^{K^P} M_{i^{K^P}}$ を合計した場合に前記 h_{K^P} となる補完係数 i^{K^P} を計算する K^P 補完係数計算工程と、

前記復号装置が、前記暗号化データ $c_t(K^P, s_{C^P})$ に含まれる $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての変数 $C^P(i)$ と、前記復号鍵 $s_k(s_{K^P}, c_p)$ に含まれる属性集合 C^P とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i のうち、変数 $C^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_i^{C^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{C^P}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_t^{C^P}$ との内積が 0 となる i と、変数 $C^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_i^{C^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{C^P}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_t^{C^P}$ との内積が 0 とならない i との集合 I^{C^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{C^P} に含まれる i について、 $i^{C^P} M_{i^{C^P}}$ を合計した場合に前記 h_{C^P} となる補完係数 i^{C^P} を計算する C^P 補完係数計算工程と、

前記復号装置が、前記暗号化データ $c_t(K^P, s_{C^P})$ に含まれる要素 c_0 と要素 $c_t^{K^P}$ と要素 $c_i^{C^P}$ と、前記復号鍵 $s_k(s_{K^P}, c_p)$ に含まれる要素 k_0^* と要素 $k_i^{K^P}$ と要素 $k_t^{C^P}$ とについて、前記 K^P 補完係数計算工程で特定した集合 I^{K^P} と、前記 K^P 補完係数計算工程で計算した補完係数 i^{K^P} と、前記 C^P 補完係数計算工程で特定した集合 I^{C^P} と、前記 C^P 補完係数計算工程で計算した補完係数 i^{C^P} とに基づき、数 11 に示すペアリング演算を行い値 K を計算するペアリング演算工程とを備えることを特徴とする暗号処理方法。

【数 11】

$$K := e(c_0, k_0^*).$$

$$\prod_{i \in I^{K^P} \wedge \rho^{K^P}(i) = (t, \vec{v}_i^{K^P})} e(c_t^{K^P}, k_i^{*K^P}) \alpha_i^{K^P} \cdot \prod_{i \in I^{K^P} \wedge \rho^{K^P}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{K^P})} e(c_t^{K^P}, k_i^{*K^P}) \alpha_i^{K^P} / (\vec{v}_i^{K^P} \cdot \vec{x}_i^{K^P}).$$

$$\prod_{i \in I^{C^P} \wedge \rho^{C^P}(i) = (t, \vec{v}_i^{C^P})} e(c_t^{C^P}, k_i^{*C^P}) \alpha_i^{C^P} \cdot \prod_{i \in I^{C^P} \wedge \rho^{C^P}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{C^P})} e(c_t^{C^P}, k_i^{*C^P}) \alpha_i^{C^P} / (\vec{v}_i^{C^P} \cdot \vec{x}_i^{C^P})$$

【請求項 8】

鍵生成プログラムと暗号化プログラムと復号プログラムとを備え、基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{K^P}$ (d^{K^P} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{K^P}$ 及び基底 $B_t^{*K^P}$ と、 $t = 1, \dots, d^{C^P}$ (d^{C^P} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 $B_t^{C^P}$ 及び基底 $B_t^{*C^P}$ とを用いて暗号処理を実行する暗号処理プログラムであり、

前記鍵生成プログラムは、

$i = 1, \dots, L^{K^P}$ (L^{K^P} は 1 以上の整数) の各整数 i についての変数 $K^P(i)$ (

10

20

30

40

50

i)であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{K P}$ のいずれかの整数)と、属性ベクトル $v_{i^{K P}} := (v_{i', i^{K P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{K P}, n_t^{K P}$ は 1 以上の整数)との肯定形の組 $(t, v_{i^{K P}})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K P}})$ のいずれかである変数 $^{K P}(i)$ と、 $L^{K P}$ 行 $r^{K P}$ 列 ($r^{K P}$ は 1 以上の整数)の所定の行列 $M^{K P}$ とを入力する第 1 $K P$ 情報入力処理と、

$t = 1, \dots, d^{C P}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{t^{C P}} := (x_{t', i^{C P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{C P}, n_t^{C P}$ は 1 以上の整数)とを有する属性集合 $^{C P}$ を入力する第 1 $C P$ 情報入力処理と、

基底 B_0^* の基底ベクトル $b_{0, p}^*$ (p は所定の値)の係数として値 $-s_{0^{K P}} (s_{0^{K P}} := h^{K P} \cdot (f^{K P})^T, h^{K P}$ 及び $f^{K P}$ は $r^{K P}$ 個の要素を有するベクトル)を設定し、基底ベクトル $b_{0, p'}^*$ (p' は前記 p とは異なる所定の値)の係数として乱数 $^{C P}$ を設定し、基底ベクトル $b_{0, q}^*$ (q は前記 p 及び前記 p' とは異なる所定の値)の係数として所定の値 $^{C P}$ を設定して要素 $k_{0, q}^*$ を生成する主復号鍵生成処理と、

前記 $f^{K P}$ と、前記第 1 $K P$ 情報入力処理で入力した行列 $M^{K P}$ に基づき生成される列ベクトル $(s^{K P})^T := (s_1^{K P}, \dots, s_i^{K P})^T := M^{K P} \cdot (f^{K P})^T (i = L^{K P})$ と、乱数 $^{K P}(i = 1, \dots, L^{K P})$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K P}$ の各整数 i についての要素 $k_{i^{K P}}^*$ を生成する $K P$ 復号鍵生成処理であって、 $i = 1, \dots, L^{K P}$ の各整数 i について、変数 $^{K P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{K P}})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_{t^{K P}}^*$ の基底ベクトル $b_{t, 1}^{K P}$ の係数として $s_i^{K P} + v_{i, 1}^{K P}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{K P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t, i'}^{K P}$ の係数として $v_{i, i'}^{K P}$ を設定して要素 $k_{i^{K P}}^*$ を生成し、変数 $^{K P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K P}})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{K P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t, i'}^{K P}$ の係数として $s_i^{K P} v_{i, i'}^{K P}$ を設定して要素 $k_{i^{K P}}^*$ を生成する $K P$ 復号鍵生成処理と、

前記第 1 $C P$ 情報入力処理で入力した属性集合 $^{C P}$ に含まれる各識別情報 t についての要素 $k_{t^{C P}}^*$ を生成する $C P$ 復号鍵生成処理であって、基底 $B_{t^{C P}}^*$ の基底ベクトル $b_{t, i'}^{C P} (i' = 1, \dots, n_t^{C P})$ の係数として前記乱数 $^{C P}$ 倍した $x_{t, i'}^{C P}$ を設定して要素 $k_{t^{C P}}^*$ を生成する $C P$ 復号鍵生成処理とをコンピュータに実行させ、

前記暗号化プログラムは、

$t = 1, \dots, d^{K P}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{t^{K P}} := (x_{t', i^{K P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{K P})$ とを有する属性集合 $^{K P}$ を入力する第 2 $K P$ 情報入力処理と、

$i = 1, \dots, L^{C P}$ ($L^{C P}$ は 1 以上の整数)の各整数 i についての変数 $^{C P}(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{C P}$ のいずれかの整数)と、属性ベクトル $v_{i^{C P}} := (v_{i', i^{C P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{C P})$ との肯定形の組 $(t, v_{i^{C P}})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i^{C P}})$ のいずれかである変数 $^{C P}(i)$ と、 $L^{C P}$ 行 $r^{C P}$ 列 ($r^{C P}$ は 1 以上の整数)の所定の行列 $M^{C P}$ とを入力する第 2 $C P$ 情報入力処理と、

基底 B_0 の基底ベクトル $b_{0, p}$ の係数として乱数 $^{K P}$ を設定し、基底ベクトル $b_{0, p'}$ の係数として値 $-s_{0^{C P}} (s_{0^{C P}} := h^{C P} \cdot (f^{C P})^T, h^{C P}$ 及び $f^{C P}$ は $r^{C P}$ 個の要素を有するベクトル)を設定し、基底ベクトル $b_{0, q}$ の係数として乱数 $^{C P}$ を設定して要素 $c_{0, q}$ を生成する主暗号化データ生成処理と、

前記第 2 $K P$ 情報入力処理で入力した属性集合 $^{K P}$ に含まれる各識別情報 t についての要素 $c_{t^{K P}}$ を生成する $K P$ 暗号化データ生成処理であって、基底 $B_{t^{K P}}$ の基底ベクトル $b_{t, i'}^{K P} (i' = 1, \dots, n_t^{K P})$ の係数として前記乱数 $^{K P}$ 倍した $x_{t, i'}^{K P}$ を設定して要素 $c_{t^{K P}}$ を生成する $K P$ 暗号化データ生成処理と、

10

20

30

40

50

前記 f^{C^P} と、前記第2 C^P 情報入力処理で入力した行列 M^{C^P} とに基づき生成される列ベクトル $(s^{C^P})^T := (s_1^{C^P}, \dots, s_i^{C^P})^T := M^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$ ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) と、乱数 i^{C^P} ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての要素 $c_i^{C^P}$ を生成する C^P 暗号化データ生成処理であって、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i について、変数 $C^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_i^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_t^{C^P}$ の基底ベクトル $b_{t,1}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} + i^{C^P} v_{i,1}^{C^P}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ を設定して要素 $c_i^{C^P}$ を生成し、変数 $C^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_i^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ を設定して要素 $c_i^{C^P}$ を生成する C^P 暗号化データ生成処理と

10

をコンピュータに実行させ、

前記復号プログラムは、

前記主暗号化データ生成処理で生成した要素 c_0 と、前記 K^P 暗号化データ生成処理で生成した要素 $c_t^{K^P}$ と、前記 C^P 暗号化データ生成処理で生成した要素 $c_i^{C^P}$ と、前記属性集合 K^P と、前記変数 $C^P(i)$ とを含む暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ を取得するデータ取得処理と、

前記主復号鍵生成処理で生成した要素 k^*_0 と、前記 K^P 復号鍵生成処理で生成した要素 $k^*_{i^{K^P}}$ と、前記 C^P 復号鍵生成処理で生成した要素 $k^*_{t^{C^P}}$ と、前記変数 $K^P(i)$ と、前記属性集合 C^P とを含む復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ を取得する復号鍵取得処理と、

20

前記データ取得処理で取得した暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ に含まれる属性集合 K^P と、前記復号鍵取得処理で取得した復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ に含まれる変数 $K^P(i)$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i のうち、変数 $K^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_i^{K^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{K^P}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_t^{K^P}$ との内積が0となる i と、変数 $K^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_i^{K^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{K^P}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_t^{K^P}$ との内積が0とならない i との集合 I^{K^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{K^P} に含まれる i について、 $i^{K^P} M_i^{K^P}$ を合計した場合に前記 h^{K^P} となる補完係数 i^{K^P} を計算する K^P 補完係数計算処理と、

30

前記暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ に含まれる $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての変数 $C^P(i)$ と、前記復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ に含まれる属性集合 C^P とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i のうち、変数 $C^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_i^{C^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{C^P}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_t^{C^P}$ との内積が0となる i と、変数 $C^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_i^{C^P})$ であり、かつ、その組の $v_i^{C^P}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_t^{C^P}$ との内積が0とならない i との集合 I^{C^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{C^P} に含まれる i について、 $i^{C^P} M_i^{C^P}$ を合計した場合に前記 h^{C^P} となる補完係数 i^{C^P} を計算する C^P 補完係数計算処理と、

40

前記暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ に含まれる要素 c_0 と要素 $c_t^{K^P}$ と要素 $c_i^{C^P}$ と、前記復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ に含まれる要素 k^*_0 と要素 $k^*_{i^{K^P}}$ と要素 $k^*_{t^{C^P}}$ について、前記 K^P 補完係数計算処理で特定した集合 I^{K^P} と、前記 K^P 補完係数計算処理で計算した補完係数 i^{K^P} と、前記 C^P 補完係数計算処理で特定した集合 I^{C^P} と、前記 C^P 補完係数計算処理で計算した補完係数 i^{C^P} とに基づき、数12に示すペアリング演算を行い値 K を計算するペアリング演算処理とをコンピュータに実行させることを特徴とする暗号処理プログラム。

【数 1 2】

$$K := e(c_0, k_0^*).$$

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{*\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}}.$$

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{*\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}} / (\vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_i^{\text{KP}}).$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{*\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}}.$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{*\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}} / (\vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_i^{\text{CP}})$$

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

20

この発明は、関数型暗号 (Functional Encryption, FE) 方式に関するものである。

【背景技術】

【0002】

非特許文献 3 - 6, 10, 12, 13, 15, 18 には、関数型暗号方式の 1 つのクラスである ID ベース暗号 (Identity-Based Encryption, IBE) 方式についての記載がある。

【先行技術文献】

【非特許文献】

【0003】

30

【非特許文献 1】Beimel, A., Secure schemes for secret sharing and key distribution. PhD Thesis, Israel Institute of Technology, Technion, Haifa, Israel, 1996

【非特許文献 2】Bethencourt, J., Sahai, A., Waters, B.: Ciphertext policy attribute-based encryption. In: 2007 IEEE Symposium on Security and Privacy, pp. 321-34. IEEE Press (2007)

【非特許文献 3】Boneh, D., Boyen, X.: Efficient selective-ID secure identity based encryption without random oracles. In: Cachin, C., Camenisch, J. (eds.) EUROCRYPT 2004. LNCS, vol. 3027, pp. 223-38. Springer Heidelberg (2004)

40

【非特許文献 4】Boneh, D., Boyen, X.: Secure identity based encryption without random oracles. In: Franklin, M.K. (ed.) CRYPTO 2004. LNCS, vol. 3152, pp. 443-59. Springer Heidelberg (2004)

50

- 【非特許文献5】Boneh, D., Boyen, X., Goh, E.: Hierarchical identity based encryption with constant size ciphertext. In: Cramer, R. (ed.) EUROCRYPT 2005. LNCS, vol. 3494, pp. 440-56. Springer Heidelberg (2005)
- 【非特許文献6】Boneh, D., Franklin, M.: Identity-based encryption from the Weil pairing. In: Kilian, J. (ed.) CRYPTO2001. LNCS, vol. 2139, pp. 213-29. Springer Heidelberg (2001) 10
- 【非特許文献7】Boneh, D., Hamburg, M.: Generalized identity based and broadcast encryption scheme. In: Pieprzyk, J. (ed.) ASIACRYPT 2008. LNCS, vol. 5350, pp. 455-70. Springer Heidelberg (2008)
- 【非特許文献8】Boneh, D., Katz, J., Improved efficiency for CCA-secure cryptosystems built using identity based encryption. RSA-CT 2005, LNCS, Springer Verlag (2005)
- 【非特許文献9】Boneh, D., Waters, B.: Conjunctive, subset, and range queries on encrypted data. In: Vadhan, S.P. (ed.) TCC 2007. LNCS, vol. 4392, pp. 535-54. Springer Heidelberg (2007) 20
- 【非特許文献10】Boyen, X., Waters, B.: Anonymous hierarchical identity-based encryption (without random oracles). In: Dwork, C. (ed.) CRYPTO 2006. LNCS, vol. 4117, pp. 290-07. Springer Heidelberg (2006)
- 【非特許文献11】Canetti, R., Halevi S., Katz J., Chosen-ciphertext security from identity-based encryption. EUROCRYPT2004, LNCS, Springer-Verlag (2004) 30
- 【非特許文献12】Cocks, C.: An identity based encryption scheme based on quadratic residues. In: Honary, B. (ed.) IMA Int. Conf. LNCS, vol. 2260, pp. 360-63. Springer Heidelberg (2001)
- 【非特許文献13】Gentry, C.: Practical identity-based encryption without random oracles. In: Vaudenay, S. (ed.) EUROCRYPT 2006. LNCS, vol. 4004, pp. 445-64. Springer Heidelberg (2006) 40
- 【非特許文献14】Gentry, C., Halevi, S.: Hierarchical identity-based encryption with polynomially many levels. In: Reingold, O. (ed.) TCC 2009. LNCS, vol. 5444, pp. 437-56. Springer Heidelberg (2009)
- 【非特許文献15】Gentry, C., Silverberg, A.: Hierarchical ID-based cryptography. In: Zhe 50

ng, Y. (ed.) ASIACRYPT 2002. LNCS, vol. 2501, pp. 548-66. Springer Heidelberg (2002)

【非特許文献16】Goyal, V., Pandey, O., Sahai, A., Waters, B.: Attribute-based encryption for fine-grained access control of encrypted data. In: ACM Conference on Computer and Communication Security 2006, pp. 89-8, ACM (2006)

【非特許文献17】Groth, J., Sahai, A.: Efficient non-interactive proof systems for bilinear groups. In: Smart, N.P. (ed.) EUROCRYPT 2008. LNCS, vol. 4965, pp. 415-32. Springer Heidelberg (2008)

10

【非特許文献18】Horwitz, J., Lynn, B.: Towards hierarchical identity-based encryption. In: Knudsen, L.R. (ed.) EUROCRYPT 2002. LNCS, vol. 2332, pp. 466-81. Springer Heidelberg (2002)

【非特許文献19】Katz, J., Sahai, A., Waters, B.: Predicate encryption supporting disjunctions, polynomial equations, and inner products. In: Smart, N.P. (ed.) EUROCRYPT 2008. LNCS, vol. 4965, pp. 146-62. Springer Heidelberg (2008)

20

【非特許文献20】Lewko, A., Okamoto, T., Sahai, A., Takashima, K., Waters, B.: Fully secure functional encryption: Attribute-based encryption and (hierarchical) inner product encryption, In: Gilbert, H. (ed.) EUROCRYPT 2010. LNCS, vol. 6110, pp. 62-91. Springer, Heidelberg (2010)

30

【非特許文献21】Lewko, A.B., Waters, B.: Fully secure HIBE with short ciphertexts. ePrint, IACR, <http://eprint.iacr.org/2009/482>

【非特許文献22】Okamoto, T., Takashima, K.: Homomorphic encryption and signatures from vector decomposition. In: Galbraith, S.D., Paterson, K.G. (eds.) Pairing 2008. LNCS, vol. 5209, pp. 57-4. Springer Heidelberg (2008)

40

【非特許文献23】Okamoto, T., Takashima, K.: Hierarchical predicate encryption for Inner-Products, In: ASIACRYPT 2009, Springer Heidelberg (2009)

【非特許文献24】Okamoto, T., Takashima, K.: Fully Secure Functional Encryption with General Relations from the Decisional Linear Assumption, In: CRYPTO 2010, LNCS vol.

50

6223, pp. 191-208. Springer Heidelberg (2010)

【非特許文献25】Ostrovsky, R., Sahai, A., Waters, B.: Attribute-based encryption with non-monotonic access structures. In: ACM Conference on Computer and Communication Security 2007, pp. 195-203, ACM (2007)

【非特許文献26】Pirretti, M., Traynor, P., McDaniel, P., Waters, B.: Secure attribute-based systems. In: ACM Conference on Computer and Communication Security 2006, pp. 99-112, ACM, (2006)

【非特許文献27】Sahai, A., Waters, B.: Fuzzy identity-based encryption. In: Cramer, R. (ed.) EUROCRYPT 2005. LNCS, vol. 3494, pp. 457-73. Springer Heidelberg (2005)

【非特許文献28】Shi, E., Waters, B.: Delegating capability in predicate encryption systems. In: Aceto, L., Damgard, I., Goldberg, L.A., Halldosson, M.M., Ingolfsson, A., Walukiewicz, I. (eds.) ICALP (2) 2008. LNCS, vol. 5126, pp. 560-78. Springer Heidelberg (2008)

【非特許文献29】Waters, B.: Efficient identity based encryption without random oracles. Eurocrypt 2005, LNCS No. 3152, pp. 443-59. Springer Verlag, 2005.

【非特許文献30】Waters, B.: Ciphertext-policy attribute-based encryption: an expressive, efficient, and provably secure realization. ePrint, IACR, <http://eprint.iacr.org/2008/290>

【非特許文献31】Waters, B.: Dual system encryption: Realizing fully secure IBE and HIBE under simple assumptions. In: Halevi, S. (ed.) CRYPTO 2009. LNCS, vol. 5677, pp. 619-36. Springer Heidelberg (2009)

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

この発明は、多機能な暗号機能を有する安全な関数型暗号方式を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

この発明に係る暗号処理システムは、

鍵生成装置と暗号化装置と復号装置とを備え、基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ (d^{KP} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 B_t^{KP} 及び基底 B_t^{*KP} と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ (d^{CP} は 1 以上の整数) の各整数 t についての基底 B_t^{CP} 及び基底 B_t^{*CP} とを用いて暗号処理を実行する暗号処理システムであり、

前記鍵生成装置は、

10

20

30

40

50

$i = 1, \dots, L^{K^P}$ (L^{K^P} は 1 以上の整数) の各整数 i についての変数 $^{K^P}(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{K^P}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $v_{i^{K^P}} := (v_{i, i^{K^P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{K^P}, n_t^{K^P}$ は 1 以上の整数) との肯定形の組 $(t, v_{i^{K^P}})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K^P}})$ のいずれかである変数 $^{K^P}(i)$ と、 L^{K^P} 行 r^{K^P} 列 (r^{K^P} は 1 以上の整数) の所定の行列 M^{K^P} とを入力する第 1 K^P 情報入力部と、

$t = 1, \dots, d^{C^P}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{t^{C^P}} := (x_{t, i^{C^P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{C^P}, n_t^{C^P}$ は 1 以上の整数) とを有する属性集合 $^{C^P}$ を入力する第 1 C^P 情報入力部と、

基底 B_0^* の基底ベクトル $b_{0, p}^*$ (p は所定の値) の係数として値 $-s_{0^{K^P}} (s_{0^{K^P}} := h^{K^P} \cdot (f^{K^P})^T, h^{K^P}$ 及び f^{K^P} は r^{K^P} 個の要素を有するベクトル) を設定し、基底ベクトル $b_{0, p'}^*$ (p' は前記 p とは異なる所定の値) の係数として乱数 $^{C^P}$ を設定し、基底ベクトル $b_{0, q}^*$ (q は前記 p 及び前記 p' とは異なる所定の値) の係数として所定の値 $k_{0, q}^*$ を生成する主復号鍵生成部と、

前記 f^{K^P} と、前記第 1 K^P 情報入力部が入力した行列 M^{K^P} に基づき生成される列ベクトル $(s^{K^P})^T := (s_1^{K^P}, \dots, s_{i^{K^P}}^{K^P})^T := M^{K^P} \cdot (f^{K^P})^T (i = L^{K^P})$ と、乱数 $_{i^{K^P}} (i = 1, \dots, L^{K^P})$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i についての要素 $k_{i^{K^P}}^*$ を生成する K^P 復号鍵生成部であって、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i について、変数 $^{K^P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{K^P}})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_{t^{K^P}}^*$ の基底ベクトル $b_{t, 1}^{K^P}$ の係数として $s_{i^{K^P}} + _{i^{K^P}} v_{i, 1}^{K^P}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{K^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t, i'}^{K^P}$ の係数として $_{i^{K^P}} v_{i, i'}^{K^P}$ を設定して要素 $k_{i^{K^P}}^*$ を生成し、変数 $^{K^P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K^P}})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{K^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t, i'}^{K^P}$ の係数として $s_{i^{K^P}} v_{i, i'}^{K^P}$ を設定して要素 $k_{i^{K^P}}^*$ を生成する K^P 復号鍵生成部と、

前記第 1 C^P 情報入力部が入力した属性集合 $^{C^P}$ に含まれる各識別情報 t についての要素 $k_{t^{C^P}}^*$ を生成する C^P 復号鍵生成部であって、基底 $B_{t^{C^P}}^*$ の基底ベクトル $b_{t, i'}^{C^P} (i' = 1, \dots, n_t^{C^P})$ の係数として前記乱数 $^{C^P}$ 倍した $x_{t, i'}^{C^P}$ を設定して要素 $k_{t^{C^P}}^*$ を生成する C^P 復号鍵生成部とを備え、

前記暗号化装置は、

$t = 1, \dots, d^{K^P}$ の少なくとも 1 つ以上の整数 t について、識別情報 t と、属性ベクトル $x_{t^{K^P}} := (x_{t, i^{K^P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{K^P})$ とを有する属性集合 $^{K^P}$ を入力する第 2 K^P 情報入力部と、

$i = 1, \dots, L^{C^P}$ (L^{C^P} は 1 以上の整数) の各整数 i についての変数 $^{C^P}(i)$ であって、識別情報 t ($t = 1, \dots, d^{C^P}$ のいずれかの整数) と、属性ベクトル $v_{i^{C^P}} := (v_{i, i^{C^P}}) (i' = 1, \dots, n_t^{C^P})$ との肯定形の組 $(t, v_{i^{C^P}})$ 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i^{C^P}})$ のいずれかである変数 $^{C^P}(i)$ と、 L^{C^P} 行 r^{C^P} 列 (r^{C^P} は 1 以上の整数) の所定の行列 M^{C^P} とを入力する第 2 C^P 情報入力部と、

基底 B_0 の基底ベクトル $b_{0, p}$ の係数として乱数 $^{K^P}$ を設定し、基底ベクトル $b_{0, p'}$ の係数として値 $-s_{0^{C^P}} (s_{0^{C^P}} := h^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T, h^{C^P}$ 及び f^{C^P} は r^{C^P} 個の要素を有するベクトル) を設定し、基底ベクトル $b_{0, q}$ の係数として乱数 $^{C^P}$ を設定して要素 $c_{0, q}$ を生成する主暗号化データ生成部と、

前記第 2 K^P 情報入力部が入力した属性集合 $^{K^P}$ に含まれる各識別情報 t についての要素 $c_{t^{K^P}}$ を生成する K^P 暗号化データ生成部であって、基底 $B_{t^{K^P}}$ の基底ベクトル $b_{t, i'}^{K^P} (i' = 1, \dots, n_t^{K^P})$ の係数として前記乱数 $^{K^P}$ 倍した $x_{t, i'}^{K^P}$ を設定して要素 $c_{t^{K^P}}$ を生成する K^P 暗号化データ生成部と、

10

20

30

40

50

前記 f^{C^P} と、前記第2 C^P 情報入力部が入力した行列 M^{C^P} とに基づき生成される列ベクトル $(s^{C^P})^T := (s_1^{C^P}, \dots, s_{i^{C^P}}^{C^P})^T := M^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$ ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) と、乱数 i^{C^P} ($i = 1, \dots, L^{C^P}$) とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての要素 $c_i^{C^P}$ を生成する C^P 暗号化データ生成部であって、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i について、変数 $i^{C^P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{C^P}}^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t が示す基底 $B_t^{C^P}$ の基底ベクトル $b_{t,1}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} + i^{C^P} v_{i,1}^{C^P}$ を設定するとともに、前記識別情報 t と $i' = 2, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ を設定して要素 $c_i^{C^P}$ を生成し、変数 $i^{C^P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{C^P}}^{C^P})$ である場合には、その組の識別情報 t と $i' = 1, \dots, n_t^{C^P}$ の各整数 i' とが示す基底ベクトル $b_{t,i'}^{C^P}$ の係数として $s_i^{C^P} v_{i,i'}^{C^P}$ を設定して要素 $c_i^{C^P}$ を生成する C^P 暗号化データ生成部とを備え、

10

前記復号装置は、

前記主暗号化データ生成部が生成した要素 c_0 と、前記 K^P 暗号化データ生成部が生成した要素 $c_t^{K^P}$ と、前記 C^P 暗号化データ生成部が生成した要素 $c_i^{C^P}$ と、前記属性集合 K^P と、前記変数 $i^{C^P}(i)$ とを含む暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ を取得するデータ取得部と、

前記主復号鍵生成部が生成した要素 k_0^* と、前記 K^P 復号鍵生成部が生成した要素 $k_{i^{K^P}}^*$ と、前記 C^P 復号鍵生成部が生成した要素 $k_t^{C^P}$ と、前記変数 $i^{K^P}(i)$ と、前記属性集合 C^P とを含む復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ を取得する復号鍵取得部と、

20

前記データ取得部が取得した暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ に含まれる属性集合 K^P と、前記復号鍵取得部が取得した復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ に含まれる変数 $i^{K^P}(i)$ とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i のうち、変数 $i^{K^P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{K^P}}^{K^P})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{K^P}}^{K^P}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_t^{K^P}$ との内積が0となる i と、変数 $i^{K^P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{K^P}}^{K^P})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{K^P}}^{K^P}$ と、その組の識別情報 t が示す K^P に含まれる $x_t^{K^P}$ との内積が0とならない i との集合 I^{K^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{K^P} に含まれる i について、 $i^{K^P} M_i^{K^P}$ を合計した場合に前記 h^{K^P} となる補完係数 i^{K^P} を計算する K^P 補完係数計算部と、

30

前記暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ に含まれる $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての変数 $i^{C^P}(i)$ と、前記復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ に含まれる属性集合 C^P とに基づき、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i のうち、変数 $i^{C^P}(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i^{C^P}}^{C^P})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{C^P}}^{C^P}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_t^{C^P}$ との内積が0となる i と、変数 $i^{C^P}(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i^{C^P}}^{C^P})$ であり、かつ、その組の $v_{i^{C^P}}^{C^P}$ と、その組の識別情報 t が示す C^P に含まれる $x_t^{C^P}$ との内積が0とならない i との集合 I^{C^P} を特定するとともに、特定した集合 I^{C^P} に含まれる i について、 $i^{C^P} M_i^{C^P}$ を合計した場合に前記 h^{C^P} となる補完係数 i^{C^P} を計算する C^P 補完係数計算部と、

40

前記暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ に含まれる要素 c_0 と要素 $c_t^{K^P}$ と要素 $c_i^{C^P}$ と、前記復号鍵 $sk(s_{K^P}, c_P)$ に含まれる要素 k_0^* と要素 $k_{i^{K^P}}^*$ と要素 $k_t^{C^P}$ とについて、前記 K^P 補完係数計算部が特定した集合 I^{K^P} と、前記 K^P 補完係数計算部が計算した補完係数 i^{K^P} と、前記 C^P 補完係数計算部が特定した集合 I^{C^P} と、前記 C^P 補完係数計算部が計算した補完係数 i^{C^P} とに基づき、数1に示すペアリング演算を行い値 K を計算するペアリング演算部とを備えることを特徴とする。

【数 1】

$$K := e(c_0, k_0^*).$$

$$\prod_{i \in I^{KP} \wedge \rho^{KP}(i) = (t, \vec{v}_i^{KP})} e(c_t^{KP}, k_i^{*KP}) \alpha_i^{KP}.$$

$$\prod_{i \in I^{KP} \wedge \rho^{KP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{KP})} e(c_t^{KP}, k_i^{*KP}) \alpha_i^{KP} / (\vec{v}_i^{KP} \cdot \vec{x}_i^{KP}).$$

$$\prod_{i \in I^{CP} \wedge \rho^{CP}(i) = (t, \vec{v}_i^{CP})} e(c_t^{CP}, k_i^{*CP}) \alpha_i^{CP}.$$

$$\prod_{i \in I^{CP} \wedge \rho^{CP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{CP})} e(c_t^{CP}, k_i^{*CP}) \alpha_i^{CP} / (\vec{v}_i^{CP} \cdot \vec{x}_i^{CP})$$

10

【発明の効果】

【0006】

この発明に係る暗号処理システムは、復号鍵と暗号文との両方にアクセスストラクチャが埋め込まれており、多機能な暗号機能を実現している。

20

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】行列 M^{\wedge} の説明図。【図2】行列 M の説明図。【図3】 s_0 の説明図。【図4】 s^T の説明図。

【図5】Unified - Policy 関数型暗号方式を実行する暗号処理システム 10 の構成図。

【図6】鍵生成装置 100 の機能を示す機能ブロック図。

【図7】暗号化装置 200 の機能を示す機能ブロック図。

【図8】復号装置 300 の機能を示す機能ブロック図。

【図9】Setup アルゴリズムの処理を示すフローチャート。

【図10】Key Gen アルゴリズムの処理を示すフローチャート。

【図11】Enc アルゴリズムの処理を示すフローチャート。

【図12】Dec アルゴリズムの処理を示すフローチャート。

【図13】鍵生成装置 100、暗号化装置 200、復号装置 300 のハードウェア構成の一例を示す図。

【発明を実施するための形態】

【0008】

以下、図に基づき、発明の実施の形態を説明する。

40

以下の説明において、処理装置は後述する CPU 911 等である。記憶装置は後述する ROM 913、RAM 914、磁気ディスク 920 等である。通信装置は後述する通信ボード 915 等である。入力装置は後述するキーボード 902、通信ボード 915 等である。つまり、処理装置、記憶装置、通信装置、入力装置はハードウェアである。

【0009】

以下の説明における記法について説明する。

A がランダムな変数または分布であるとき、数 101 は、A の分布に従い A から y をランダムに選択することを表す。つまり、数 101 において、y は乱数である。

【数 1 0 1】

$$y \xleftarrow{R} A$$

A が集合であるとき、数 1 0 2 は、A から y を一様に選択することを表す。つまり、数 1 0 2 において、y は一様乱数である。

【数 1 0 2】

$$y \xleftarrow{U} A$$

10

数 1 0 3 は、y が z により定義された集合であること、又は y が z を代入された集合であることを表す。

【数 1 0 3】

$$y := z$$

a が定数であるとき、数 1 0 4 は、機械（アルゴリズム）A が入力 x に対し a を出力することを表す。

20

【数 1 0 4】

$$A(x) \rightarrow a$$

例えば、

$$A(x) \rightarrow 1$$

数 1 0 5、つまり \mathbb{F}_q は、位数 q の有限体を示す。

【数 1 0 5】

$$\mathbb{F}_q$$

30

ベクトル表記は、有限体 \mathbb{F}_q におけるベクトル表示を表す。つまり、数 1 0 6 である。

【数 1 0 6】

\vec{x} は、

$$(x_1, \dots, x_n) \in \mathbb{F}_q^n$$

を示す。

40

数 1 0 7 は、数 1 0 8 に示す 2 つのベクトル \vec{x} と \vec{v} との数 1 0 9 に示す内積を表す。

【数 1 0 7】

$$\vec{x} \cdot \vec{v}$$

【数 1 0 8】

$$\vec{x} = (x_1, \dots, x_n),$$

$$\vec{v} = (v_1, \dots, v_n)$$

【数 1 0 9】

$$\sum_{i=1}^n x_i v_i$$

10

X^T は、行列 X の転置行列を表す。

数 1 1 0 に示す基底 B と基底 B^* とに対して、数 1 1 1 である。

【数 1 1 0】

$$\mathbb{B} := (b_1, \dots, b_N),$$

$$\mathbb{B}^* := (b_1^*, \dots, b_N^*)$$

【数 1 1 1】

20

$$(x_1, \dots, x_N)_{\mathbb{B}} := \sum_{i=1}^N x_i b_i,$$

$$(y_1, \dots, y_N)_{\mathbb{B}^*} := \sum_{i=1}^N y_i b_i^*$$

$e_{t,j}^{KP}, e_{t,j}^{CP}$ は、それぞれ数 1 1 2 に示す正規基底ベクトルを示す。

【数 1 1 2】

$$e_{t,j}^{KP} : (\overbrace{0 \cdots 0}^{j-1}, 1, \overbrace{0 \cdots 0}^{n_t-j}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{KP}} \text{ for } j=1, \dots, n_t^{KP},$$

30

$$e_{t,j}^{CP} : (\overbrace{0 \cdots 0}^{j-1}, 1, \overbrace{0 \cdots 0}^{n_t-j}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{CP}} \text{ for } j=1, \dots, n_t^{CP}$$

【0 0 1 0】

また、以下の説明において、 $\mathbb{F}_q^{n_t^{CP}}$ における n_t^{CP} は n_t^{CP} のことである。

同様に、復号鍵 $sk_{(SKP, CP)}$ における SKP は SKP のことであり、 CP は CP のことである。暗号化データ $ct_{(KP, SCP)}$ における KP は KP のことであり、 SCP は SCP のことである。

40

同様に、 $param_{V_0}$ における V_0 は V_0 のことである。 $param_{V_t^{KP}}$ における V_t^{KP} は V_t^{KP} のことである。 $param_{V_t^{CP}}$ における V_t^{CP} は V_t^{CP} のことである。

同様に、“ i, j ” が上付きで示されている場合、この i, j は、 i, j を意味する。

また、ベクトルを意味する“ ” が下付き文字又は上付き文字に付されている場合、この“ ” は下付き文字又は上付き文字に上付きで付されていることを意味する。

【0 0 1 1】

また、以下の説明において、暗号処理とは、鍵生成処理、暗号化処理、復号処理を含む

50

ものである。

【0012】

実施の形態1.

この実施の形態では、「関数型暗号 (Functional Encryption) 方式」を実現する基礎となる概念と、関数型暗号の構成について説明する。

第1に、関数型暗号について簡単に説明する。

第2に、関数型暗号を実現するための空間である「双対ペアリングベクトル空間 (Dual Pairing Vector Spaces, DPVS)」という豊かな数学的構造を有する空間を説明する。

第3に、関数型暗号を実現するための概念を説明する。ここでは、「スパンプログラム (Span Program)」、「属性ベクトルの内積とアクセスストラクチャ」、「秘密分散方式 (秘密共有方式)」について説明する。

第4に、この実施の形態に係る「関数型暗号方式」を説明する。この実施の形態では、「Unified-Policy 関数型暗号 (Unified-Policy Functional Encryption, UP-FE) 方式」について説明する。そこで、まず、「Unified-Policy 関数型暗号方式」の基本構成について説明する。次に、この「Unified-Policy 関数型暗号方式」を実現する「暗号処理システム10」の基本構成について説明する。そして、この実施の形態に係る「Unified-Policy 関数型暗号方式」及び「暗号処理システム10」について詳細に説明する。

【0013】

< 第1. 関数型暗号方式 >

関数型暗号方式は、暗号化鍵 (encryption-key, e_k) と、復号鍵 (decryption-key, d_k) との間の関係をより高度化し、より柔軟にした暗号方式である。

関数型暗号方式において、暗号化鍵と復号鍵とは、それぞれ、属性 x と属性 v とが設定されている。そして、関係 R に対して $R(x, v)$ が成立する場合に限り、復号鍵 $d_{k_v} := (d_k, v)$ は暗号化鍵 $e_{k_x} := (e_k, x)$ で暗号化された暗号文を復号することができる。

関数型暗号方式には、データベースのアクセスコントロール、メールサービス、コンテンツ配布等の様々なアプリケーションが存在する (非特許文献2, 7, 9, 16, 19, 25-28, 30 参照)。

【0014】

R が等号関係である場合、つまり、 $x = v$ である場合に限り $R(x, v)$ が成立する場合、関数型暗号方式はIDベース暗号方式である。

【0015】

IDベース暗号方式よりも一般化された関数型暗号方式として、属性ベース暗号方式がある。

属性ベース暗号方式では、暗号化鍵と復号鍵とに設定される属性が属性の組である。例えば、暗号化鍵と復号鍵とに設定される属性が、それぞれ、 $X := (x_1, \dots, x_d)$ と、 $V := (v_1, \dots, v_d)$ とである。

そして、属性のコンポーネントについて、コンポーネント毎の等号関係 (例えば、 $\{x_t = v_t\}_{t \in \{1, \dots, d\}}$) がアクセスストラクチャ S に入力される。そして、アクセスストラクチャ S が入力を受理した場合にのみ、 $R(X, V)$ が成立する。つまり、暗号化鍵で暗号化された暗号文を復号鍵で復号することができる。

アクセスストラクチャ S が復号鍵 d_{k_v} に埋め込まれている場合、属性ベース暗号 (ABE) 方式は、Key-Policy ABE (KP-ABE) と呼ばれる。一方、アクセスストラクチャ S が暗号文に埋め込まれている場合、属性ベース暗号 (ABE) 方式は、Ciphertext-Policy ABE (CP-ABE) と呼ばれる。そして、アクセスストラクチャ S が復号鍵 d_{k_v} と暗号文との両方に埋め込まれている場合、属性

ベース暗号 (A B E) 方式は、 U n i f i e d - P o l i c y A B E (U P - A B E) と呼ばれる。

【 0 0 1 6 】

非特許文献 1 9 に記載された内積述語暗号 (I n n e r - P r o d u c t E n c r y p t i o n , I P E) も関数型暗号の 1 つのクラスである。ここでは、暗号化鍵と復号鍵とに設定される属性がそれぞれ体又は環上のベクトルである。例えば、 $x := (x_1, \dots, x_n) \in F_q^n$ と $v := (v_1, \dots, v_n) \in F_q^n$ とがそれぞれ暗号化鍵と復号鍵とに設定される。そして、 $x \cdot v = 0$ である場合に限り、 $R(x, v)$ が成立する。

【 0 0 1 7 】

< 第 2 . 双対ペアリングベクトル空間 >

まず、対称双線形ペアリング群 (S y m m e t r i c B i l i n e a r P a i r i n g G r o u p s) について説明する。

対称双線形ペアリング群 (q, G, G^T, g, e) は、素数 q と、位数 q の巡回加法群 G と、位数 q の巡回乗法群 G^T と、 $g \in G$ と、多項式時間で計算可能な非退化双線形ペアリング (N o n d e g e n e r a t e B i l i n e a r P a i r i n g) $e : G \times G \rightarrow G^T$ との組である。非退化双線形ペアリングは、 $e(sg, tg) = e(g, g)^{s \cdot t}$ であり、 $e(g, g) \neq 1$ である。

以下の説明において、数 1 1 3 を、1 を入力として、セキュリティパラメータを λ とする双線形ペアリング群のパラメータ $param_G := (q, G, G^T, g, e)$ の値を出力するアルゴリズムとする。

【数 1 1 3 】

G_{bpg}

【 0 0 1 8 】

次に、双対ペアリングベクトル空間について説明する。

双対ペアリングベクトル空間 (q, V, G^T, A, e) は、対称双線形ペアリング群 $(param_G := (q, G, G^T, g, e))$ の直積によって構成することができる。双対ペアリングベクトル空間 (q, V, G^T, A, e) は、素数 q 、数 1 1 4 に示す F_q 上の N 次元ベクトル空間 V 、位数 q の巡回群 G^T 、空間 V の標準基底 $A := (a_1, \dots, a_N)$ の組であり、以下の演算 (1) (2) を有する。ここで、 a_i は、数 1 1 5 に示す通りである。

【数 1 1 4 】

$$V := \overbrace{G \times \dots \times G}^N$$

【数 1 1 5 】

$$a_i := (\overbrace{0, \dots, 0}^{i-1}, g, \overbrace{0, \dots, 0}^{N-i})$$

【 0 0 1 9 】

演算 (1) : 非退化双線形ペアリング

空間 V におけるペアリングは、数 1 1 6 によって定義される。

10

20

30

40

【数 1 1 6】

$$e(x, y) := \prod_{i=1}^N e(G_i, H_i) \in \mathbb{G}_T$$

ここで、

$$(G_1, \dots, G_N) := x \in \mathbb{V},$$

$$(H_1, \dots, H_N) := y \in \mathbb{V}$$

である。

10

これは、非退化双線形である。つまり、 $e(sx, ty) = e(x, y)^{s \cdot t}$ であり、全ての $y \in \mathbb{V}$ に対して、 $e(x, y) = 1$ の場合、 $x = 0$ である。また、全ての i と j に対して、 $e(a_i, a_j) = e(g, g)^{i \cdot j}$ である。ここで、 $i = j$ であれば、 $i \cdot j = 1$ であり、 $i \neq j$ であれば、 $i \cdot j = 0$ である。また、 $e(g, g) \neq 1$ \mathbb{G}_T である。

【0 0 2 0】

演算 (2) : ディストーション写像

数 1 17 に示す空間 \mathbb{V} における線形変換 $\phi_{i, j}$ は、数 1 18 を行うことができる。

20

【数 1 1 7】

$$\phi_{i, j}(a_j) = a_i \text{ であり、}$$

$$k \neq j \text{ なら、} \phi_{i, j}(a_k) = 0 \text{ である。}$$

【数 1 1 8】

$$\phi_{i, j}(x) := (\overbrace{0, \dots, 0}^{i-1}, g_j, \overbrace{0, \dots, 0}^{N-i})$$

30

ここで、

$$(g_1, \dots, g_N) := x$$

である。

ここで、線形変換 $\phi_{i, j}$ をディストーション写像と呼ぶ。

40

【0 0 2 1】

以下の説明において、数 1 19 を、 $1 \leq i \leq N$ (i : 自然数)、 N : 自然数、双線形ペアリング群のパラメータ $\text{param}_G := (q, G, G_T, g, e)$ の値を入力として、セキュリティパラメータ γ であり、 N 次元の空間 \mathbb{V} とする双対ペアリングベクトル空間のパラメータ $\text{param}_V := (q, V, G_T, A, e)$ の値を出力するアルゴリズムとする。

【数 1 1 9】

$$\mathcal{G}_{\text{dpvs}}$$

【0 0 2 2】

50

なお、ここでは、上述した対称双線形ペアリング群により、双対ペアリングベクトル空間を構成した場合について説明する。なお、非対称双線形ペアリング群により双対ペアリングベクトル空間を構成することも可能である。以下の説明を、非対称双線形ペアリング群により双対ペアリングベクトル空間を構成した場合に応用することは容易である。

【0023】

<第3．関数型暗号を実現するための概念>

<第3-1．スパンプログラム>

図1は、行列 M^\wedge の説明図である。

$\{p_1, \dots, p_n\}$ を変数の集合とする。 $M^\wedge := (M, \quad)$ は、ラベル付けされた行列である。ここで、行列 M は、 F_q 上の $(L \text{ 行} \times r \text{ 列})$ の行列である。また、 \quad は、
10 行列 M の各列に付されたラベルであり、 $\{p_1, \dots, p_n, \neg p_1, \dots, \neg p_n\}$ のいずれか1つのリテラルへ対応付けられる。なお、 M の全ての行に付されたラベル i ($i = 1, \dots, L$)がいずれか1つのリテラルへ対応付けられる。つまり、 $\quad : \{1, \dots, L\} \rightarrow \{p_1, \dots, p_n, \neg p_1, \dots, \neg p_n\}$ である。

【0024】

全ての入力列 $\{0, 1\}^n$ に対して、行列 M の部分行列 M_\quad は定義される。行列 M_\quad は、入力列 \quad によってラベル \quad に値“1”が対応付けられた行列 M の行から構成される部分行列である。つまり、行列 M_\quad は、 $\quad_i = 1$ であるような p_i に対応付けられた行列 M の行と、 $\quad_i = 0$ であるような $\neg p_i$ に対応付けられた行列 M の行とからなる部分行列である。
20

図2は、行列 M の説明図である。なお、図2では、 $n = 7$ 、 $L = 6$ 、 $r = 5$ としている。つまり、変数の集合は、 $\{p_1, \dots, p_7\}$ であり、行列 M は $(6 \text{ 行} \times 5 \text{ 列})$ の行列である。また、図2において、ラベル \quad_1 が $\neg p_2$ に、 \quad_2 が p_1 に、 \quad_3 が p_4 に、 \quad_4 が $\neg p_5$ に、 \quad_5 が $\neg p_3$ に、 \quad_6 が p_5 にそれぞれ対応付けられているとする。

ここで、入力列 $\{0, 1\}^7$ が、 $\quad_1 = 1$ 、 $\quad_2 = 0$ 、 $\quad_3 = 1$ 、 $\quad_4 = 0$ 、 $\quad_5 = 0$ 、 $\quad_6 = 1$ 、 $\quad_7 = 1$ であるとする。この場合、破線で囲んだリテラル $(p_1, p_3, p_6, p_7, \neg p_2, \neg p_4, \neg p_5)$ に対応付けられている行列 M の行からなる部分行列が行列 M_\quad である。つまり、行列 M の1行目 (M_1) 、2行目 (M_2) 、4行目 (M_4) からなる部分行列が行列 M_\quad である。
30

【0025】

言い替えると、写像 $\quad : \{1, \dots, L\} \rightarrow \{0, 1\}$ が、 $[\quad(j) = p_i] \quad [\quad_i = 1]$ 又は $[\quad(j) = \neg p_i] \quad [\quad_i = 0]$ である場合、 $\quad(j) = 1$ であり、他の場合、 $\quad(j) = 0$ であるとする。この場合に、 $M_\quad := (M_j) \quad (\quad(j) = 1)$ である。ここで、 M_j は、行列 M の j 番目の行である。

つまり、図2では、写像 $\quad(j) = 1$ ($j = 1, 2, 4$)であり、写像 $\quad(j) = 0$ ($j = 3, 5, 6$)である。したがって、 $(M_j) \quad (\quad(j) = 1)$ は、 M_1, M_2, M_4 であり、行列 M_\quad である。

すなわち、写像 $\quad(j)$ の値が“0”であるか“1”であるかによって、行列 M の j 番目の行が行列 M_\quad に含まれるか否かが決定される。
40

【0026】

1 $\text{span} < M >$ である場合に限り、スパンプログラム M^\wedge は入力列 \quad を受理し、他の場合には入力列 \quad を拒絶する。つまり、入力列 \quad によって行列 M^\wedge から得られる行列 M_\quad の行を線形結合して1 \quad が得られる場合に限り、スパンプログラム M^\wedge は入力列 \quad を受理する。なお、1 \quad とは、各要素が値“1”である行ベクトルである。

例えば、図2の例であれば、行列 M の1, 2, 4行目からなる行列 M_\quad の各行を線形結合して1 \quad が得られる場合に限り、スパンプログラム M^\wedge は入力列 \quad を受理する。つまり、 $\quad_1(M_1) + \quad_2(M_2) + \quad_4(M_4) = 1$ となる $\quad_1, \quad_2, \quad_4$ が存在する場合には、スパンプログラム M^\wedge は入力列 \quad を受理する。

【0027】

10

20

30

40

50

ここで、ラベル ℓ が正のリテラル $\{p_1, \dots, p_n\}$ にのみ対応付けられている場合、スパンプログラムはモノトーンと呼ばれる。一方、ラベル ℓ がリテラル $\{p_1, \dots, p_n, \neg p_1, \dots, \neg p_n\}$ に対応付けられている場合、スパンプログラムはノンモノトーンと呼ばれる。ここでは、スパンプログラムはノンモノトーンとする。そして、ノンモノトーンスパンプログラムを用いて、アクセスストラクチャ（ノンモノトーンアクセスストラクチャ）を構成する。アクセスストラクチャとは、簡単に言うと暗号へのアクセス制御を行うものである。つまり、暗号文を復号できるか否かの制御を行うものである。

詳しくは後述するが、スパンプログラムがモノトーンではなく、ノンモノトーンであることにより、スパンプログラムを利用して構成する関数型暗号方式の利用範囲が広がる。

10

【0028】

<第3-2. 属性ベクトルの内積とアクセスストラクチャ>

ここでは、属性ベクトルの内積を用いて上述した写像 ϕ_j を計算する。つまり、属性ベクトルの内積を用いて、行列 M のどの行を行列 M に含めるかを決定する。

【0029】

U_t ($t = 1, \dots, d$ であり $U_t \subseteq \{0, 1\}^*$) は、部分全集合 (sub-universe) であり、属性の集合である。そして、 U_t は、それぞれ部分全集合の識別情報 (t) と、 n_t 次元ベクトル (v_t) とを含む。つまり、 U_t は、 (t, v_t) である。ここで、 $t \in \{1, \dots, d\}$ であり、 $v_t \in F_q^{n_t}$ である。

【0030】

20

$U_t := (t, v_t)$ をスパンプログラム $M^\wedge := (M, \dots)$ における変数 p とする。つまり、 $p := (t, v_t)$ である。そして、変数 $(p := (t, v_t), (t', v_{t'}), \dots)$ としたスパンプログラム $M^\wedge := (M, \dots)$ をアクセスストラクチャ S とする。

つまり、アクセスストラクチャ $S := (M, \dots)$ であり、 $\phi_j := \{(t, v_t) \mid (t, v_t) \in U_t, (t', v_{t'}) \in U_{t'}, \dots, \neg(t, v_t), \neg(t', v_{t'}), \dots\}$ である。

【0031】

次に、 ϕ_j を属性の集合とする。つまり、 $\phi_j := \{(t, x_t) \mid x_t \in F_q^{n_t}, 1 \leq t \leq d\}$ である。

30

アクセスストラクチャ S に ϕ_j が与えられた場合、スパンプログラム $M^\wedge := (M, \dots)$ に対する写像 $\phi_j : \{1, \dots, L\} \rightarrow \{0, 1\}$ は、以下のように定義される。 $i = 1, \dots, L$ の各整数 i について、 $[\phi_j(i) = (t, v_t)] \iff [(t, x_t) \in U_t] \iff [v_t \cdot x_t = 0]$ 、又は、 $[\phi_j(i) = \neg(t, v_t)] \iff [(t, x_t) \in U_t] \iff [v_t \cdot x_t \neq 0]$ である場合、 $\phi_j(j) = 1$ であり、他の場合、 $\phi_j(j) = 0$ とする。

つまり、属性ベクトル v_t と x_t との内積に基づき、写像 ϕ_j が計算される。そして、上述したように、写像 ϕ_j により、行列 M のどの行を行列 M に含めるかが決定される。すなわち、属性ベクトル v_t と x_t との内積により、行列 M のどの行を行列 M に含めるかが決定され、 $1 \leq \text{span} < (M_i) \iff \phi_j(i) = 1$ である場合に限り、アクセスストラクチャ $S := (M, \dots)$ は ϕ_j を受理する。

40

【0032】

<第3-3. 秘密分散方式>

アクセスストラクチャ $S := (M, \dots)$ に対する秘密分散方式について説明する。

なお、秘密分散方式とは、秘密情報を分散させ、意味のない分散情報にすることである。例えば、秘密情報 s を 10 個に分散させ、10 個の分散情報を生成する。ここで、10 個の分散情報それぞれは、秘密情報 s の情報を有していない。したがって、ある 1 個の分散情報を手に入れても秘密情報 s に関して何ら情報を得ることはできない。一方、10 個の分散情報を全て手に入れば、秘密情報 s を復元できる。

また、10 個の分散情報を全て手に入れなくても、一部だけ（例えば、8 個）手に入れ

50

れば秘密情報 s を復元できる秘密分散方式もある。このように、10個の分散情報のうち8個で秘密情報 s を復元できる場合を、8 - o u t - o f - 10 と呼ぶ。つまり、 n 個の分散情報のうち t 個で秘密情報 s を復元できる場合を、 t - o u t - o f - n と呼ぶ。この t を閾値と呼ぶ。

また、 d_1, \dots, d_{10} の10個の分散情報を生成した場合に、 d_1, \dots, d_8 までの8個の分散情報であれば秘密情報 s を復元できるが、 d_3, \dots, d_{10} までの8個の分散情報であれば秘密情報 s を復元できないというような秘密分散方式もある。つまり、手に入れた分散情報の数だけでなく、分散情報の組合せに応じて秘密情報 s を復元できるか否かを制御する秘密分散方式もある。

【0033】

10

図3は、 s_0 の説明図である。図4は、 s^T の説明図である。

行列 M を (L 行 \times r 列) の行列とする。 f^T を数120に示す列ベクトルとする。

【数120】

$$\vec{f}^T := (f_1, \dots, f_r)^T \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^r$$

数121に示す s_0 を共有される秘密情報とする。

【数121】

20

$$s_0 := \vec{1} \cdot \vec{f}^T := \sum_{k=1}^r f_k$$

また、数122に示す s^T を s_0 の L 個の分散情報のベクトルとする。

【数122】

$$\vec{s}^T := (s_1, \dots, s_L)^T := M \cdot \vec{f}^T$$

そして、分散情報 s_i を (i) に属するものとする。

30

【0034】

アクセスストラクチャ $S := (M, \quad)$ が \quad を受理する場合、つまり $\quad : \{1, \dots, L\} \rightarrow \{0, 1\}$ について $1 \leq \text{span} < (M_i)_{(i)=1} >$ である場合、 $I = \{i \in \{1, \dots, L\} \mid (i) = 1\}$ である定数 $\{ \alpha_i \in \mathbb{F}_q \mid i \in I \}$ が存在する。

これは、図2の例で、 $\alpha_1 (M_1) + \alpha_2 (M_2) + \alpha_4 (M_4) = 1$ となる $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_4$ が存在する場合には、スパンプログラム M^\wedge は入力列 \quad を受理すると説明したことからも明らかである。つまり、 $\alpha_1 (M_1) + \alpha_2 (M_2) + \alpha_4 (M_4) = 1$ となる $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_4$ が存在する場合には、スパンプログラム M^\wedge が入力列 \quad を受理するのであれば、 $\alpha_1 (M_1) + \alpha_2 (M_2) + \alpha_4 (M_4) = 1$ となる $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_4$ が存在する。

40

そして、数123である。

【数123】

$$\sum_{i \in I} \alpha_i s_i := s_0$$

なお、定数 $\{ \alpha_i \}$ は、行列 M のサイズにおける多項式時間で計算可能である。

【0035】

この実施の形態及び以下の実施の形態に係る関数型暗号方式は、上述したように、スバ

50

ンプログラムに内積述語と秘密分散方式とを適用してアクセスストラクチャを構成する。そのため、スパンプログラムにおける行列Mや、内積述語における属性情報 x 及び属性情報 v （述語情報）を設計するにより、アクセス制御を自由に設計することができる。つまり、非常に高い自由度でアクセス制御の設計を行うことができる。なお、行列Mの設計は、秘密分散方式の閾値等の条件設計に相当する。

例えば、上述した属性ベース暗号方式は、この実施の形態及び以下の実施の形態に係る関数型暗号方式におけるアクセスストラクチャにおいて、内積述語の設計をある条件に限定した場合に相当する。つまり、この実施の形態及び以下の実施の形態に係る関数型暗号方式におけるアクセスストラクチャに比べ、属性ベース暗号方式におけるアクセスストラクチャは、内積述語における属性情報 x 及び属性情報 v （述語情報）を設計の自由度がない分、アクセス制御の設計の自由度が低い。なお、具体的には、属性ベース暗号方式は、属性情報 $\{x_t\}_{t=1, \dots, d}$ と $\{v_t\}_{t=1, \dots, d}$ とを、等号関係に対する2次元ベクトル、例えば $x_t := (1, x_t)$ と $v_t := (v_t, -1)$ とに限定した場合に相当する。

10

また、上述した内積述語暗号方式は、この実施の形態及び以下の実施の形態に係る関数型暗号方式におけるアクセスストラクチャにおいて、スパンプログラムにおける行列Mの設計をある条件に限定した場合に相当する。つまり、この実施の形態及び以下の実施の形態に係る関数型暗号方式におけるアクセスストラクチャに比べ、内積述語暗号方式におけるアクセスストラクチャは、スパンプログラムにおける行列Mの設計の自由度がない分、アクセス制御の設計の自由度が低い。なお、具体的には、内積述語暗号方式は、秘密分散方式を1 - o u t - o f - 1（あるいは、d - o u t - o f - d）に限定した場合である。

20

【0036】

特に、この実施の形態及び以下の実施の形態に係る関数型暗号方式におけるアクセスストラクチャは、ノンモノトーンスパンプログラムを用いたノンモノトーンアクセスストラクチャを構成する。そのため、アクセス制御の設計の自由度がより高くなる。

具体的には、ノンモノトーンスパンプログラムには、否定形のリテラル($\neg p$)を含むため、否定形の条件を設定できる。例えば、第1会社には、A部とB部とC部とD部との4つの部署があったとする。ここで、第1会社のB部以外の部署の属するユーザにのみアクセス可能（復号可能）というアクセス制御をしたいとする。この場合に、否定形の条件の設定ができないとすると、「第1会社のA部とC部とD部とのいずれかに属すること」という条件を設定する必要がある。一方、否定形の条件の設定ができるとすると、「第1会社の社員であって、B部以外に属すること」という条件を設定することができる。つまり、否定形の条件が設定できることで、自然な条件設定が可能となる。なお、ここでは部署の数が少ないが、部署の数が多の場合等は非常に有効であることが分かる。

30

【0037】

< 第4．関数型暗号方式の基本構成 >

< 第4 - 1．Unified - Policy 関数型暗号方式の基本構成 >

Unified - Policy 関数型暗号方式の構成を簡単に説明する。なお、Unified - Policy とは、復号鍵及び暗号文にPolicy が埋め込まれること、つまりアクセスストラクチャが埋め込まれることを意味する。

40

Unified - Policy 関数型暗号方式は、Setup、Key Gen、Enc、Decの4つのアルゴリズムを備える。

(Setup)

Setup アルゴリズムは、セキュリティパラメータ と、属性のフォーマット $n := ((d^{K^P}; n_t^{K^P}, u_t^{K^P}, w_t^{K^P}, z_t^{K^P} (t = 1, \dots, d^{K^P})) , (d^{C^P}; n_t^{C^P}, u_t^{C^P}, w_t^{C^P}, z_t^{C^P} (t = 1, \dots, d^{C^P})))$ とが入力され、公開パラメータ p_k と、マスター鍵 s_k とを出力する確率的アルゴリズムである。

(Key Gen)

50

KeyGenアルゴリズムは、アクセスストラクチャ $S^{K^P} := (M^{K^P}, \Gamma^{K^P})$ と、属性の集合である $\Gamma^{C^P} := \{(t, x_t^{C^P}) \mid x_t^{C^P} \in F_q^{n_t^{C^P}} \setminus \{0\}, 1 \leq t \leq d^{C^P}\}$ と、公開パラメータ pk と、マスター鍵 sk とを入力として、復号鍵 $sk_{(S^{K^P}, \Gamma^{C^P})}$ を出力する確率的アルゴリズムである。

(Enc)

Encアルゴリズムは、メッセージ m と、属性の集合である $\Gamma^{K^P} := \{(t, x_t^{K^P}) \mid x_t^{K^P} \in F_q^{n_t^{K^P}} \setminus \{0\}, 1 \leq t \leq d^{K^P}\}$ と、アクセスストラクチャ $S^{C^P} := (M^{C^P}, \Gamma^{C^P})$ と、公開パラメータ pk とを入力として、暗号化データ $ct_{(S^{K^P}, S^{C^P})}$ を出力する確率的アルゴリズムである。

(Dec)

Decアルゴリズムは、属性の集合及びアクセスストラクチャ (Γ^{K^P}, S^{C^P}) の下で暗号化された暗号化データ $ct_{(S^{K^P}, S^{C^P})}$ と、アクセスストラクチャ及び属性の集合 (S^{K^P}, Γ^{C^P}) に対する復号鍵 $sk_{(S^{K^P}, \Gamma^{C^P})}$ と、公開パラメータ pk とを入力として、メッセージ m (平文情報)、又は、識別情報 を出力するアルゴリズムである。

【0038】

Unified-Policy関数型暗号方式は、数124に示す全ての公開パラメータ pk 及びマスター鍵 sk と、全てのアクセスストラクチャ S^{K^P} と、全ての属性の集合 Γ^{C^P} と、数125に示す全ての復号鍵 $sk_{(S^{K^P}, \Gamma^{C^P})}$ と、全てのメッセージ m と、全ての属性の集合 Γ^{K^P} と、全てのアクセスストラクチャ S^{C^P} と、数126に示す全ての暗号化データ $ct_{(S^{K^P}, S^{C^P})}$ とに対して、アクセスストラクチャ S^{K^P} が属性の集合 Γ^{K^P} を受理し、かつ、アクセスストラクチャ S^{C^P} が属性の集合 Γ^{C^P} を受理する場合、圧倒的な確率で $m = Dec(pk, sk_{(S^{K^P}, \Gamma^{C^P})}, ct_{(S^{K^P}, S^{C^P})})$ である。つまり、公開パラメータ pk と、復号鍵 $sk_{(S^{K^P}, \Gamma^{C^P})}$ と、暗号化データ $ct_{(S^{K^P}, S^{C^P})}$ とを入力としてDecアルゴリズムを実行することで、メッセージ m を得ることができる。

【数124】

$$(pk, sk) \xleftarrow{R} \text{Setup}(1^\lambda, \vec{n})$$

【数125】

$$sk_{(S^{K^P}, \Gamma^{C^P})} \xleftarrow{R} \text{KeyGen}(pk, sk, S^{K^P}, \Gamma^{C^P})$$

【数126】

$$ct_{(\Gamma^{K^P}, S^{C^P})} \xleftarrow{R} \text{Enc}(pk, m, \Gamma^{K^P}, S^{C^P})$$

【0039】

<第4-2. 暗号処理システム10>

上述したUnified-Policy関数型暗号方式のアルゴリズムを実行する暗号処理システム10について説明する。

図5は、Unified-Policy関数型暗号方式を実行する暗号処理システム10の構成図である。

暗号処理システム10は、鍵生成装置100、暗号化装置200、復号装置300を備える。

鍵生成装置100は、セキュリティパラメータ と、属性のフォーマット $n := (($

10

20

30

40

50

$d^{K^P}; n_t^{K^P}, u_t^{K^P}, w_t^{K^P}, z_t^{K^P} (t = 1, \dots, d^{K^P})$, $(d^{C^P}; n_t^{C^P}, u_t^{C^P}, w_t^{C^P}, z_t^{C^P} (t = 1, \dots, d^{C^P}))$ とを入力としてSetupアルゴリズムを実行して、公開パラメータ p_k とマスター鍵 s_k とを生成する。そして、鍵生成装置100は、生成した公開パラメータ p_k を公開する。また、鍵生成装置100は、アクセスストラクチャ S^{K^P} と、属性の集合 C^P と、公開パラメータ p_k と、マスター鍵 s_k とを入力としてKeyGenアルゴリズムを実行して、復号鍵 $s_k(s_{K^P}, s_{C^P})$ を生成して復号装置300へ秘密裡に配布する。

暗号化装置200は、メッセージ m と、属性の集合 K^P と、アクセスストラクチャ S^{C^P} と、公開パラメータ p_k とを入力としてEncアルゴリズムを実行して、暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ を生成する。暗号化装置200は、生成した暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ を復号装置300へ送信する。

復号装置300は、公開パラメータ p_k と、復号鍵 $s_k(s_{K^P}, s_{C^P})$ と、暗号化データ $ct(K^P, s_{C^P})$ とを入力としてDecアルゴリズムを実行して、メッセージ m 又は識別情報 id を出力する。

【0040】

<第4-3. Unified-Policy 関数型暗号方式及び暗号処理システム10の詳細>

図6から図12に基づき、Unified-Policy 関数型暗号方式、及び、Unified-Policy 関数型暗号方式を実行する暗号処理システム10の機能と動作とについて説明する。

図6は、鍵生成装置100の機能を示す機能ブロック図である。図7は、暗号化装置200の機能を示す機能ブロック図である。図8は、復号装置300の機能を示す機能ブロック図である。

図9と図10とは、鍵生成装置100の動作を示すフローチャートである。なお、図9はSetupアルゴリズムの処理を示すフローチャートであり、図10はKeyGenアルゴリズムの処理を示すフローチャートである。図11は、暗号化装置200の動作を示すフローチャートであり、Encアルゴリズムの処理を示すフローチャートである。図12は、復号装置300の動作を示すフローチャートであり、Decアルゴリズムの処理を示すフローチャートである。

なお、ここでは、 $x_{t,1}^{K^P} := 1$, $x_{t,1}^{C^P} := 1$ に正規化する。なお、 $x_{t,1}^{K^P}$ 及び $x_{t,1}^{C^P}$ が正規化されていない場合、 $(1/x_{t,1}^{K^P}) \cdot x_{t,1}^{K^P}$ 、及び、 $(1/x_{t,1}^{C^P}) \cdot x_{t,1}^{C^P}$ として正規化すればよい。この場合、 $x_{t,i}^{K^P}$ 及び $x_{t,i}^{C^P}$ は0でないものとする。

【0041】

鍵生成装置100の機能と動作とについて説明する。

図6に示すように、鍵生成装置100は、マスター鍵生成部110、マスター鍵記憶部120、情報入力部130（第1情報入力部）、復号鍵生成部140、鍵配布部150を備える。

また、情報入力部130は、 K^P 情報入力部131（第1 K^P 情報入力部）、 C^P 情報入力部132（第1 C^P 情報入力部）を備える。また、復号鍵生成部140は、 f ベクトル生成部141、 s ベクトル生成部142、乱数生成部143、主復号鍵生成部144、 K^P 復号鍵生成部145、 C^P 復号鍵生成部146を備える。

【0042】

まず、図9に基づき、Setupアルゴリズムの処理について説明する。

（S101：正規直交基底生成ステップ）

マスター鍵生成部110は、処理装置により、数127を計算して、 $param_n$ と、基底 B_0 及び基底 B_0^* と、 $t = 1, \dots, d^{K^P}$ の各整数 t について基底 $B_t^{K^P}$ 及び基底 $B_t^{*K^P}$ と、 $t = 1, \dots, d^{C^P}$ の各整数 t について基底 $B_t^{C^P}$ 及び基底 $B_t^{*C^P}$ とをランダムに生成する。

【 数 1 2 7 】

$$\begin{aligned}
& \mathcal{G}_{\text{ob}}^{\text{up}}(1^\lambda, \vec{n} := ((d^{\text{KP}}; n_t^{\text{KP}}, u_t^{\text{KP}}, w_t^{\text{KP}}, z_t^{\text{KP}} (t=1, \dots, d^{\text{KP}})), \\
& \quad (d^{\text{CP}}; n_t^{\text{CP}}, u_t^{\text{CP}}, w_t^{\text{CP}}, z_t^{\text{CP}} (t=1, \dots, d^{\text{CP}}))) : \\
& \text{param}_{\mathbb{G}} := (q, \mathbb{G}, \mathbb{G}_T, g, e) \xleftarrow{\text{R}} \mathcal{G}_{\text{bpg}}(1^\lambda), \quad \psi \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^X, \\
& N_0 := 2 + u_0 + 1 + w_0 + z_0, \\
& N_t^{\text{KP}} := n_t^{\text{KP}} + u_t^{\text{KP}} + w_t^{\text{KP}} + z_t^{\text{KP}} \text{ for } t=1, \dots, d^{\text{KP}}, \\
& N_t^{\text{CP}} := n_t^{\text{CP}} + u_t^{\text{CP}} + w_t^{\text{CP}} + z_t^{\text{CP}} \text{ for } t=1, \dots, d^{\text{CP}}, \\
& \text{param}_{\mathbb{V}_0} := (q, \mathbb{V}_0, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_0, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_0, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& X_0 := (\chi_{0,i,j})_{i,j} \xleftarrow{\text{U}} \text{GL}(N_0, \mathbb{F}_q), \quad (v_{0,i,j})_{i,j} := \psi \cdot (X_0^T)^{-1}, \\
& b_{0,i} := (\chi_{0,i,1}, \dots, \chi_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0 := (b_{0,1}, \dots, b_{0,N_0}), \\
& b_{0,i}^* := (v_{0,i,1}, \dots, v_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0^* := (b_{0,1}^*, \dots, b_{0,N_0}^*), \\
& \text{for } t=1, \dots, d^{\text{KP}}, \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{KP}}} := (q, \mathbb{V}_t^{\text{KP}}, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_t^{\text{KP}}, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_t^{\text{KP}}, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& \quad X_t^{\text{KP}} := (\chi_{t,i,j}^{\text{KP}})_{i,j} \xleftarrow{\text{U}} \text{GL}(N_t^{\text{KP}}, \mathbb{F}_q), \quad (v_{t,i,j}^{\text{KP}})_{i,j} := \psi \cdot ((X_t^{\text{KP}})^T)^{-1}, \\
& \quad b_{t,i}^{\text{KP}} := (\chi_{t,i,1}^{\text{KP}}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{KP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{\text{KP}} := (b_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}), \\
& \quad b_{t,i}^{*\text{KP}} := (v_{t,i,1}^{\text{KP}}, \dots, v_{t,i,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{KP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{*\text{KP}} := (b_{t,1}^{*\text{KP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}), \\
& \text{for } t=1, \dots, d^{\text{CP}}, \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{CP}}} := (q, \mathbb{V}_t^{\text{CP}}, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_t^{\text{CP}}, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_t^{\text{CP}}, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& \quad X_t^{\text{CP}} := (\chi_{t,i,j}^{\text{CP}})_{i,j} \xleftarrow{\text{U}} \text{GL}(N_t^{\text{CP}}, \mathbb{F}_q), \quad (v_{t,i,j}^{\text{CP}})_{i,j} := \psi \cdot ((X_t^{\text{CP}})^T)^{-1}, \\
& \quad b_{t,i}^{\text{CP}} := (\chi_{t,i,1}^{\text{CP}}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{CP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{\text{CP}} := (b_{t,1}^{\text{CP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}), \\
& \quad b_{t,i}^{*\text{CP}} := (v_{t,i,1}^{\text{CP}}, \dots, v_{t,i,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{CP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{*\text{CP}} := (b_{t,1}^{*\text{CP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{CP}}}^{*\text{CP}}), \\
& g_T := e(g, g)^\psi, \\
& \text{param}_{\vec{n}} := (\text{param}_{\mathbb{V}_0}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{KP}}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{CP}}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}, g_T) \\
& \text{return } (\text{param}_{\vec{n}}, \{\mathbb{B}_0, \mathbb{B}_0^*\}, \{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}).
\end{aligned}$$

【 0 0 4 3 】

つまり、マスター鍵生成部 110 は以下の処理を実行する。

まず、マスター鍵生成部 110 は、入力装置により、セキュリティパラメータ (1) と、属性のフォーマット $n := ((d^{\text{KP}}; n_t^{\text{KP}}, u_t^{\text{KP}}, w_t^{\text{KP}}, z_t^{\text{KP}} (t=1, \dots, d^{\text{KP}})), (d^{\text{CP}}; n_t^{\text{CP}}, u_t^{\text{CP}}, w_t^{\text{CP}}, z_t^{\text{CP}} (t=1, \dots, d^{\text{CP}})))$ とを入力する。ここで、 d^{KP} は 1 以上の整数であり、 $t=1, \dots, d^{\text{KP}}$ までの各整数 t について $n_t^{\text{KP}}, u_t^{\text{KP}}, w_t^{\text{KP}}, z_t^{\text{KP}}$ は 1 以上の整数である。また、 d^{CP} は 1 以上の整数であり、 $t=1, \dots, d^{\text{CP}}$ までの各整数 t について $n_t^{\text{CP}}, u_t^{\text{CP}}, w_t^{\text{CP}}, z_t^{\text{CP}}$ は 1 以上の整数である

。

【 0 0 4 4 】

次に、マスター鍵生成部 1 1 0 は、処理装置により、数 1 2 8 を計算する。

【 数 1 2 8 】

$$\text{param}_{\mathbb{G}} := (q, \mathbb{G}, \mathbb{G}_T, g, e) \xleftarrow{R} \mathcal{G}_{\text{bpg}}(1^\lambda)$$

つまり、マスター鍵生成部 1 1 0 は、セキュリティパラメータ (1) を入力としてアルゴリズム \mathcal{G}_{bpg} を実行して、双線形ペアリング群のパラメータ $\text{param}_{\mathbb{G}} := (q, \mathbb{G}, \mathbb{G}_T, g, e)$ の値を生成する。

10

【 0 0 4 5 】

次に、マスター鍵生成部 1 1 0 は、処理装置により、数 1 2 9 を計算する。

【 数 1 2 9 】

$$\psi \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^X,$$

$$N_0 := 2 + u_0 + 1 + w_0 + z_0,$$

$$N_t^{\text{KP}} := n_t^{\text{KP}} + u_t^{\text{KP}} + w_t^{\text{KP}} + z_t^{\text{KP}} \text{ for } t = 1, \dots, d^{\text{KP}},$$

$$N_t^{\text{CP}} := n_t^{\text{CP}} + u_t^{\text{CP}} + w_t^{\text{CP}} + z_t^{\text{CP}} \text{ for } t = 1, \dots, d^{\text{CP}}$$

20

つまり、マスター鍵生成部 1 1 0 は、乱数 を生成する。また、マスター鍵生成部 1 1 0 は、 N_0 に $2 + u_0 + 1 + w_0 + z_0$ を設定し、 $t = 1, \dots, d^{\text{KP}}$ の各整数 t について N_t^{KP} に $n_t^{\text{KP}} + u_t^{\text{KP}} + w_t^{\text{KP}} + z_t^{\text{KP}}$ を設定し、 $t = 1, \dots, d^{\text{CP}}$ の各整数 t について N_t^{CP} に $n_t^{\text{CP}} + u_t^{\text{CP}} + w_t^{\text{CP}} + z_t^{\text{CP}}$ を設定する。ここで、 u_0, w_0, z_0 は 1 以上の整数である。

【 0 0 4 6 】

次に、マスター鍵生成部 1 1 0 は、処理装置により、数 1 3 0 を計算する。

【 数 1 3 0 】

30

$$\text{param}_{\mathbb{V}_0} := (q, \mathbb{V}_0, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_0, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_0, \text{param}_{\mathbb{G}}),$$

$$X_0 := (\chi_{0,i,j})_{i,j} \xleftarrow{U} GL(N_0, \mathbb{F}_q),$$

$$(\nu_{0,i,j})_{i,j} := \psi \cdot (X_0^T)^{-1},$$

$$b_{0,i} := (\chi_{0,i,1}, \dots, \chi_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0 := (b_{0,1}, \dots, b_{0,N_0}),$$

$$b_{0,i}^* := (\nu_{0,i,1}, \dots, \nu_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0^* := (b_{0,i}^*, \dots, b_{0,N_0}^*)$$

40

つまり、マスター鍵生成部 1 1 0 は、入力したセキュリティパラメータ (1) と、設定した N_0 と、生成した $\text{param}_{\mathbb{G}} := (q, \mathbb{G}, \mathbb{G}_T, g, e)$ の値とを入力としてアルゴリズム $\mathcal{G}_{\text{dpvs}}$ を実行して、双対ペアリングベクトル空間のパラメータ $\text{param}_{\mathbb{V}_0} := (q, \mathbb{V}_0, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_0, e)$ の値を生成する。

また、マスター鍵生成部 1 1 0 は、設定した N_0 と、 \mathbb{F}_q とを入力として、線形変換 $X_0 := (\chi_{0,i,j})_{i,j}$ をランダムに生成する。なお、 GL は、 $General Linear$ の略である。つまり、 GL は、一般線形群であり、行列式が 0 でない正方行列の集合であり、乗法に関し群である。また、 $(\chi_{0,i,j})_{i,j}$ は、行列 $\chi_{0,i}$

50

i, j の添え字 i, j に関する行列という意味であり、ここでは、 $i, j = 1, \dots, N_0$ である。

また、マスター鍵生成部 110 は、乱数 r と線形変換 X_0 とに基づき、 $(X_0^{KP})_{i,j} := r \cdot (X_0^T)^{-1}$ を生成する。なお、 $(X_0^{KP})_{i,j}$ も $(X_0^{KP})_{i,j}$ と同様に、行列 X_0^{KP} の添え字 i, j に関する行列という意味であり、ここでは、 $i, j = 1, \dots, N_0$ である。

そして、マスター鍵生成部 110 は、線形変換 X_0 に基づき、標準基底 A_0 から基底 B_0 を生成する。同様に、マスター鍵生成部 110 は、 $(X_0^{KP})_{i,j}$ に基づき、標準基底 A_0 から基底 B_0^* を生成する。

【0047】

10

次に、マスター鍵生成部 110 は、処理装置により、数 131 を計算する。

【数 131】

for $t = 1, \dots, d^{KP}$,

$\text{param}_{V_t^{KP}} := (q, V_t^{KP}, G_T, A_t^{KP}, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_t^{KP}, \text{param}_G),$

$X_t^{KP} := (\chi_{t,i,j}^{KP})_{i,j} \xleftarrow{U} GL(N_t^{KP}, \mathbb{F}_q),$

$(v_{t,i,j}^{KP})_{i,j} := \psi \cdot ((X_t^{KP})^T)^{-1},$

20

$b_{t,i}^{KP} := (\chi_{t,i,1}^{KP}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{KP}}^{KP})_{A_t^{KP}}, \mathbb{B}_t^{KP} := (b_{t,1}^{KP}, \dots, b_{t,N_t^{KP}}^{KP}),$

$b_{t,i}^{*KP} := (v_{t,i,1}^{KP}, \dots, v_{t,i,N_t^{KP}}^{KP})_{A_t^{KP}}, \mathbb{B}_t^{*KP} := (b_{t,1}^{*KP}, \dots, b_{t,N_t^{KP}}^{*KP})$

つまり、マスター鍵生成部 110 は、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ の各整数 t について以下の処理を実行する。

マスター鍵生成部 110 は、入力したセキュリティパラメータ (1^λ) と、設定した N_t^{KP} と、生成した $\text{param}_G := (q, G, G_T, g, e)$ の値とを入力としてアルゴリズム $\mathcal{G}_{\text{dpvs}}$ を実行して、双対ペアリングベクトル空間のパラメータ $\text{param}_{V_t^{KP}} := (q, V_t^{KP}, G_T, A_t^{KP}, e)$ の値を生成する。

30

また、マスター鍵生成部 110 は、設定した N_t^{KP} と、 \mathbb{F}_q とを入力として、線形変換 $X_t^{KP} := (X_t^{KP})_{i,j}$ をランダムに生成する。 $(X_t^{KP})_{i,j}$ は、行列 X_t^{KP} の添え字 i, j に関する行列という意味であり、ここでは、 $i, j = 1, \dots, N_t^{KP}$ である。

また、マスター鍵生成部 110 は、乱数 r と線形変換 X_t^{KP} とに基づき、 $(X_t^{KP})_{i,j} := r \cdot ((X_t^{KP})^T)^{-1}$ を生成する。なお、 $(X_t^{KP})_{i,j}$ も $(X_t^{KP})_{i,j}$ と同様に、行列 X_t^{KP} の添え字 i, j に関する行列という意味であり、ここでは、 $i, j = 1, \dots, N_t^{KP}$ である。

40

そして、マスター鍵生成部 110 は、線形変換 X_t^{KP} に基づき、標準基底 A_t^{KP} から基底 B_t^{KP} を生成する。同様に、マスター鍵生成部 110 は、 $(X_t^{KP})_{i,j}$ に基づき、標準基底 A_t^{KP} から基底 B_t^{*KP} を生成する。

【0048】

次に、マスター鍵生成部 110 は、処理装置により、数 132 を計算する。

【数 1 3 2】

for $t=1, \dots, d^{CP}$,

$$\text{param}_{\mathbb{V}_t^{CP}} := (q, \mathbb{V}_t^{CP}, G_T, A_t^{CP}, e) := \mathcal{G}_{dpvs}(1^\lambda, N_t^{CP}, \text{param}_G),$$

$$X_t^{CP} := (\chi_{t,i,j}^{CP})_{i,j} \xleftarrow{U} GL(N_t^{CP}, \mathbb{F}_q),$$

$$(\nu_{t,i,j}^{CP})_{i,j} := \psi \cdot ((X_t^{CP})^T)^{-1},$$

$$b_{t,i}^{CP} := (\chi_{t,i,1}^{CP}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{CP}}^{CP})_{A_t^{CP}}, \quad \mathbb{B}_t^{CP} := (b_{t,1}^{CP}, \dots, b_{t,N_t^{CP}}^{CP}),$$

$$b_{t,i}^{*CP} := (\nu_{t,i,1}^{CP}, \dots, \nu_{t,i,N_t^{CP}}^{CP})_{A_t^{CP}}, \quad \mathbb{B}_t^{*CP} := (b_{t,1}^{*CP}, \dots, b_{t,N_t^{CP}}^{*CP})$$

10

つまり、マスター鍵生成部 110 は、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ の各整数 t について以下の処理を実行する。

マスター鍵生成部 110 は、入力したセキュリティパラメータ (1) と、設定した N_t^{CP} と、生成した $\text{param}_G := (q, G, G_T, g, e)$ の値とを入力としてアルゴリズム \mathcal{G}_{dpvs} を実行して、双対ペアリングベクトル空間のパラメータ $\text{param}_{\mathbb{V}_t^{CP}} := (q, \mathbb{V}_t^{CP}, G_T, A_t^{CP}, e)$ の値を生成する。

20

また、マスター鍵生成部 110 は、設定した N_t^{CP} と、 \mathbb{F}_q とを入力として、線形変換 $X_t^{CP} := (\chi_{t,i,j}^{CP})_{i,j}$ をランダムに生成する。 $(\chi_{t,i,j}^{CP})_{i,j}$ は、行列 $\chi_{t,i,j}^{CP}$ の添え字 i, j に関する行列という意味であり、ここでは、 $i, j = 1, \dots, N_t^{CP}$ である。

また、マスター鍵生成部 110 は、乱数 と線形変換 X_t^{CP} とに基づき、 $(\nu_{t,i,j}^{CP})_{i,j} := \psi \cdot ((X_t^{CP})^T)^{-1}$ を生成する。なお、 $(\chi_{t,i,j}^{CP})_{i,j}$ も $(\nu_{t,i,j}^{CP})_{i,j}$ と同様に、行列 $\chi_{t,i,j}^{CP}$ の添え字 i, j に関する行列という意味であり、ここでは、 $i, j = 1, \dots, N_t^{CP}$ である。

そして、マスター鍵生成部 110 は、線形変換 X_t^{CP} に基づき、標準基底 A_t^{CP} から基底 B_t^{CP} を生成する。同様に、マスター鍵生成部 110 は、 $(\chi_{t,i,j}^{CP})_{i,j}$ に基づき、標準基底 A_t^{CP} から基底 B_t^{*CP} を生成する。

30

【0049】

次に、マスター鍵生成部 110 は、処理装置により、数 133 を計算する。

【数 133】

$$g_T := e(g, g)^\psi,$$

$$\text{param}_{\tilde{n}} := (\text{param}_{\mathbb{V}_0}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{KP}}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{CP}}, g_T)$$

40

つまり、マスター鍵生成部 110 は、 g_T に $e(g, g)$ を設定する。

また、マスター鍵生成部 110 は、 param_n に $\text{param}_{\mathbb{V}_0}$ と、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ の各整数 t についての $\text{param}_{\mathbb{V}_t^{KP}}$ と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ の各整数 t についての $\text{param}_{\mathbb{V}_t^{CP}}$ と、 g_T とを設定する。なお、 $i = 1, \dots, N_0$ の各整数 i について、 $g_T = e(b_0, i, b_{*0}^*, i)$ である。また、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ と $i = 1, \dots, N_t^{KP}$ の各整数 t, i について、 $g_T = e(b_t, i, b_{*t}^*, i)$ である。また、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ と $i = 1, \dots, N_t^{CP}$ の各整数 t, i について、 $g_T = e(b_t, i, b_{*t}^*, i)$ である。

【0050】

そして、マスター鍵生成部 110 は、 param_n と、 $\{B_0, B_{*0}^*\}$ と、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ の各整数 t についての $\{B_t, B_{*t}^*\}$ と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ の各整数 t についての $\{B_t, B_{*t}^*\}$ とを設定する。

50

．．．， d^{KP} の各整数 t についての $\{B_t^{KP}, B_t^{*KP}\}$ と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ の各整数 t についての $\{B_t^{CP}, B_t^{*CP}\}$ とを得る。

【0051】

(S102：公開パラメータ生成ステップ)

マスター鍵生成部110は、処理装置により、基底 B_0 の部分基底 B^{\wedge}_0 と、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ の各整数 t について、基底 B_t^{KP} の部分基底 $B^{\wedge}_t^{KP}$ と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ の各整数 t について、基底 B_t^{CP} の部分基底 $B^{\wedge}_t^{CP}$ とを数134に示すように生成する。

【数134】

$$\begin{aligned} \hat{B}_0 &:= (b_{0,1}^*, b_{0,2}^*, b_{0,2+u_0+1}^*, b_{0,2+u_0+1+w_0+1}^*, \dots, b_{0,2+u_0+1+w_0+z_0}^*), \\ \text{for } t &= 1, \dots, d^{KP}, \\ \hat{B}_t^{KP} &:= (b_{t,1}^{KP}, \dots, b_{t,n_t^{KP}}^{KP}, b_{t,n_t^{KP}+u_t^{KP}+w_t^{KP}+1}^{KP}, \dots, b_{t,n_t^{KP}+u_t^{KP}+w_t^{KP}+z_t^{KP}}^{KP}), \\ \text{for } t &= 1, \dots, d^{CP}, \\ \hat{B}_t^{CP} &:= (b_{t,1}^{CP}, \dots, b_{t,n_t^{CP}}^{CP}, b_{t,n_t^{CP}+u_t^{CP}+w_t^{CP}+1}^{CP}, \dots, b_{t,n_t^{CP}+u_t^{CP}+w_t^{CP}+z_t^{CP}}^{CP}) \end{aligned}$$

10

20

マスター鍵生成部110は、生成した部分基底 B^{\wedge}_0 ，部分基底 $B^{\wedge}_t^{KP}$ ，部分基底 $B^{\wedge}_t^{CP}$ と、(S101)で入力されたセキュリティパラメータ (1) と、(S101)で生成した $param_n$ とを合わせて、公開パラメータ pk とする。

【0052】

(S103：マスター鍵生成ステップ)

マスター鍵生成部110は、処理装置により、基底 B^*_0 の部分基底 $B^{\wedge,*}_0$ と、 $t = 1, \dots, d^{KP}$ の各整数 t について、基底 B_t^{*KP} の部分基底 $B^{\wedge,*}_t^{KP}$ と、 $t = 1, \dots, d^{CP}$ の各整数 t について、基底 B_t^{*CP} の部分基底 $B^{\wedge,*}_t^{CP}$ とを数135に示すように生成する。

【数135】

$$\begin{aligned} \hat{B}_0^* &:= (b_{0,1}^*, b_{0,2}^*, b_{0,2+u_0+1}^*, b_{0,2+u_0+1+1}^*, \dots, b_{0,2+u_0+1+w_0}^*), \\ \text{for } t &= 1, \dots, d^{KP}, \\ \hat{B}_t^{*KP} &:= (b_{t,1}^{*KP}, \dots, b_{t,n_t^{KP}}^{*KP}, b_{t,n_t^{KP}+u_t^{KP}+1}^{*KP}, \dots, b_{t,n_t^{KP}+u_t^{KP}+w_t^{KP}}^{*KP}), \\ \text{for } t &= 1, \dots, d^{CP}, \\ \hat{B}_t^{*CP} &:= (b_{t,1}^{*CP}, \dots, b_{t,n_t^{CP}}^{*CP}, b_{t,n_t^{CP}+u_t^{CP}+1}^{*CP}, \dots, b_{t,n_t^{CP}+u_t^{CP}+w_t^{CP}}^{*CP}) \end{aligned}$$

30

40

マスター鍵生成部110は、生成した部分基底 $B^{\wedge,*}_0$ ，部分基底 $B^{\wedge,*}_t^{KP}$ ，部分基底 $B^{\wedge,*}_t^{CP}$ をマスター鍵 sk とする。

【0053】

(S104：マスター鍵記憶ステップ)

マスター鍵記憶部120は、(S102)で生成した公開パラメータ pk を記憶装置に記憶する。また、マスター鍵記憶部120は、(S103)で生成したマスター鍵 sk を記憶装置に記憶する。

【0054】

つまり、(S101)から(S103)において、鍵生成装置100は数136に示す

50

Setup アルゴリズムを実行して、公開パラメータ p_k とマスター鍵 s_k とを生成する。そして、(S104)で、鍵生成装置100は生成された公開パラメータ p_k とマスター鍵 s_k とを記憶装置に記憶する。

なお、公開パラメータは、例えば、ネットワークを介して公開され、暗号化装置200や復号装置300が取得可能な状態にされる。

【数136】

$$\begin{aligned}
 \text{Setup}(1^\lambda, \vec{n} := ((d^{\text{KP}}; n_t^{\text{KP}}, u_t^{\text{KP}}, w_t^{\text{KP}}, z_t^{\text{KP}} (t=1, \dots, d^{\text{KP}})), \\
 (d^{\text{CP}}; n_t^{\text{CP}}, u_t^{\text{CP}}, w_t^{\text{CP}}, z_t^{\text{CP}} (t=1, \dots, d^{\text{CP}}))) : \\
 (\text{param}_{\vec{n}}, \mathbb{B}_0, \mathbb{B}_0^*, \{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \\
 \{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}) \xleftarrow{R} \mathcal{G}_{\text{ob}}(1^\lambda, \vec{n}), \\
 \hat{\mathbb{B}}_0 := (b_{0,1}^*, b_{0,2}^*, b_{0,2+u_0+1}^*, b_{0,2+u_0+1+w_0+1}^*, \dots, b_{0,2+u_0+1+w_0+z_0}^*), \\
 \hat{\mathbb{B}}_0^* := (b_{0,1}^*, b_{0,2}^*, b_{0,2+u_0+1}^*, b_{0,2+u_0+1+1}^*, \dots, b_{0,2+u_0+1+w_0}^*), \\
 \text{for } t = 1, \dots, d^{\text{KP}}, \\
 \hat{\mathbb{B}}_t^{\text{KP}} := (b_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+w_t^{\text{KP}}+1}^{\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+w_t^{\text{KP}}+z_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}), \\
 \hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{KP}} := (b_{t,1}^{*\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+1}^{*\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+w_t^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}), \\
 \text{for } t = 1, \dots, d^{\text{CP}}, \\
 \hat{\mathbb{B}}_t^{\text{CP}} := (b_{t,1}^{\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+w_t^{\text{CP}}+1}^{\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+w_t^{\text{CP}}+z_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}), \\
 \hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{CP}} := (b_{t,1}^{*\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}}^{*\text{CP}}, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+1}^{*\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+w_t^{\text{CP}}}^{*\text{CP}}), \\
 \text{pk} := (1^\lambda, \text{param}_{\vec{n}}, \hat{\mathbb{B}}_0, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}), \\
 \text{sk} := (\hat{\mathbb{B}}_0^*, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}) \\
 \text{return pk, sk.}
 \end{aligned}$$

【0055】

次に、図10に基づき、Key Gen アルゴリズムの処理について説明する。

(S201: 情報入力ステップ)

第1KP情報入力部131は、入力装置により、アクセスストラクチャ $S^{\text{KP}} := (M^{\text{KP}}, r^{\text{KP}})$ を入力する。なお、行列 M^{KP} は、 L^{KP} 行 $\times r^{\text{KP}}$ 列の行列である。 $L^{\text{KP}}, r^{\text{KP}}$ は、1以上の整数である。

また、第1CP情報入力部132は、入力装置により、属性の集合 $C^{\text{CP}} := \{(t, x_t^{C^{\text{CP}}}) : (x_t^{C^{\text{CP}}}, i^{C^{\text{CP}}}) (i=1, \dots, n_t^{C^{\text{CP}}}) \in F_q^{n_t^{C^{\text{CP}}} \setminus \{0\}} \mid 1 \leq t \leq d^{\text{CP}}\}$ を入力する。 t は、1以上 d^{CP} 以下の全ての整数ではなく、1以上 d^{CP} 以下の少なくとも一部の整数であってもよい。

なお、アクセスストラクチャ S^{KP} の行列 M^{KP} の設定については、実現したいシステムの条件に応じて設定されるものである。また、アクセスストラクチャ S^{KP} の r^{KP} や属性の集合 C^{CP} は、例えば、復号鍵 $s_k (s_k^{\text{KP}}, c^{\text{CP}})$ の使用者の属性情報が設定されている。

【 0 0 5 6 】

(S 2 0 2 : f ベクトル生成ステップ)

f ベクトル生成部 1 4 1 は、処理装置により、 $r^{K \cdot P}$ 個の要素を有するベクトル $f^{K \cdot P}$ を数 1 3 7 に示すようにランダムに生成する。

【数 1 3 7】

$$\vec{f}^{KP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{r^{KP}}$$

【 0 0 5 7 】

10

(S 2 0 3 : s ベクトル生成ステップ)

s ベクトル生成部 1 4 2 は、処理装置により、(S 2 0 1) で入力したアクセスストラクチャ $S^{K \cdot P}$ に含まれる ($L^{K \cdot P}$ 行 \times $r^{K \cdot P}$ 列) の行列 $M^{K \cdot P}$ と、(S 2 0 2) で生成した $r^{K \cdot P}$ 個の要素を有するベクトル $f^{K \cdot P}$ とに基づき、ベクトル $(s^{K \cdot P})^T$ を数 1 3 8 に示すように生成する。

【数 1 3 8】

$$(\vec{s}^{KP})^T := (s_1^{KP}, \dots, s_{L^{KP}}^{KP})^T := M^{KP} \cdot (\vec{f}^{KP})^T$$

20

また、s ベクトル生成部 1 4 2 は、処理装置により、(S 2 0 2) で生成したベクトル $f^{K \cdot P}$ に基づき、値 $s_0^{K \cdot P}$ を数 1 3 9 に示すように生成する。なお、1 は、全ての要素が値 1 のベクトルである。

【数 1 3 9】

$$s_0^{KP} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{KP})^T$$

【 0 0 5 8 】

(S 2 0 4 : 乱数生成ステップ)

30

乱数生成部 1 4 3 は、処理装置により、乱数 c^{CP} と、 c^{CP} に含まれる ($t, x_t^{c^{CP}}$) の各整数 t について乱数 $t^{c^{CP}}$ と、乱数 η_0 とを数 1 4 0 に示すように生成する。

【数 1 4 0】

$$\delta^{CP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q,$$

$$\vec{\eta}_t^{CP} := (\eta_{t,1}^{CP}, \dots, \eta_{t,w_t^{CP}}^{CP}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_t^{CP}} \text{ such that } (t, \vec{x}_t^{CP}) \in \Gamma^{CP},$$

$$\vec{\eta}_0 := (\eta_{0,1}, \dots, \eta_{0,w_0}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_0}$$

40

【 0 0 5 9 】

(S 2 0 5 : 主復号鍵生成ステップ)

主復号鍵生成部 1 4 4 は、処理装置により、復号鍵 s_k ($s_{K \cdot P}, c^{CP}$) の要素である主復号鍵 k^*_0 を数 1 4 1 に示すように生成する。

【数 1 4 1】

$$k_0^* := (-s_0^{KP}, \delta^{CP}, \overbrace{0^{u_0}, 1}^{u_0}, \overbrace{\eta_{0,1}, \dots, \eta_{0,w_0}}^{w_0}, \overbrace{0^{z_0}}^{z_0})_{\mathbb{B}_0^*}$$

なお、上述したように、数 1 1 0 に示す基底 B と基底 B^* とに対して、数 1 1 1 である。したがって、数 1 4 1 は、以下のように、基底 B^*_0 の基底ベクトルの係数が設定されることを意味する。ここでは、表記を簡略化して、基底ベクトル $b^*_{0,i}$ のうち、 i の部分のみで基底ベクトルを特定する。例えば、基底ベクトル 1 であれば、基底ベクトル $b^*_{0,1}$ を意味する。また、基底ベクトル 1, . . . , 3 であれば、基底ベクトル $b^*_{0,1}, b^*_{0,2}, b^*_{0,3}$ を意味する。

10

基底 B^*_0 の基底ベクトル 1 の係数として $-s_0^{KP}$ が設定される。基底ベクトル 2 の係数として乱数 δ^{CP} が設定される。基底ベクトル $2+1, \dots, 2+u_0$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $2+u_0+1$ の係数として 1 が設定される。基底ベクトル $2+u_0+1+1, \dots, 2+u_0+1+w_0$ の係数として乱数 $\eta_{0,1}, \dots, \eta_{0,w_0}$ (ここで、 w_0 は w_0 のことである) が設定される。基底ベクトル $2+u_0+1+w_0+1, \dots, 2+u_0+1+w_0+z_0$ の係数として 0 が設定される。

【0 0 6 0】

(S 2 0 6 : K P 復号鍵生成ステップ)

20

K P 復号鍵生成部 1 4 5 は、処理装置により、 $i = 1, \dots, L^{KP}$ の各整数 i について、復号鍵 $s_k (s_{KP}, \delta^{CP})$ の要素である K P 復号鍵 $k^*_{i,KP}$ を数 1 4 2 に示すように生成する。

【数 1 4 2】

for $i = 1, \dots, L^{KP}$,if $\rho^{KP}(i) = (t, \vec{v}_i^{KP} := (v_{i,1}^{KP}, \dots, v_{i,n_t^{KP}}^{KP}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{KP}} \setminus \{\vec{0}\})$,

$$\theta_i^{KP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q, \quad \vec{\eta}_i^{KP} := (\eta_{i,1}^{KP}, \dots, \eta_{i,w_t^{KP}}^{KP}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_t^{KP}},$$

30

$$k_i^{*KP} := (\overbrace{s_i^{KP} \vec{e}_{t,1}^{KP} + \theta_i^{KP} \vec{v}_i^{KP}}^{n_t^{KP}}, \overbrace{0^{u_t^{KP}}}^{u_t^{KP}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{KP}}^{w_t^{KP}}, \overbrace{0^{z_t^{KP}}}^{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_t^{*KP}},$$

if $\rho^{KP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{KP})$,

$$\vec{\eta}_i^{KP} := (\eta_{i,1}^{KP}, \dots, \eta_{i,w_t^{KP}}^{KP}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_t^{KP}},$$

$$k_i^{*KP} := (\overbrace{s_i^{KP} \vec{v}_i^{KP}}^{n_t^{KP}}, \overbrace{0^{u_t^{KP}}}^{u_t^{KP}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{KP}}^{w_t^{KP}}, \overbrace{0^{z_t^{KP}}}^{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_t^{*KP}}$$

40

つまり、数 1 4 2 は、数 1 4 1 と同様に、以下のように、基底 $B^*_{t,KP}$ の基底ベクトルの係数が設定されることを意味する。なお、ここでは、表記を簡略化して、基底ベクトル $b^*_{t,i,KP}$ のうち、 i の部分のみで基底ベクトルを特定する。例えば、基底ベクトル 1 であれば、基底ベクトル $b^*_{t,1,KP}$ を意味する。また、基底ベクトル 1, . . . , 3 であれば、基底ベクトル $b^*_{t,1,KP}, \dots, b^*_{t,3,KP}$ を意味する。

$KP(i)$ が肯定形の組 (t, \vec{v}_i^{KP}) である場合には、基底ベクトル 1 の係数

50

として $s_{i,j}^{KP} + v_{i,1}^{KP}$ が設定される。なお、上述したように、 $e_{t,j}^{KP}$ は、数 1 1 2 に示す正規基底ベクトルを示す。また、基底ベクトル $2, \dots, n_t^{KP}$ の係数として $v_{i,2}^{KP}, \dots, v_{i,n_t^{KP}}^{KP}$ (ここで、 n_t^{KP} は n_t^{KP} のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP}$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + u_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP}$ の係数として $v_{i,1}^{KP}, \dots, v_{i,w_t^{KP}}^{KP}$ (ここで、 w_t^{KP} は w_t^{KP} のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + z_t^{KP}$ の係数として 0 が設定される。

一方、 (i) が否定形の組 $\neg(t, v_{i,1}^{KP})$ である場合には、基底ベクトル $1, \dots, n_t^{KP}$ の係数として $s_{i,1}^{KP} v_{i,1}^{KP}, \dots, s_{i,n_t^{KP}}^{KP} v_{i,n_t^{KP}}^{KP}$ (ここで、 n_t^{KP} は n_t^{KP} のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP}$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + u_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP}$ の係数として $v_{i,1}^{KP}, \dots, v_{i,w_t^{KP}}^{KP}$ (ここで、 w_t^{KP} は w_t^{KP} のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + z_t^{KP}$ の係数として 0 が設定される。

なお、 i^{KP} 及び i^{KP} は乱数生成部 1 4 3 によって生成される乱数である。

【0061】

(S207: CP 復号鍵生成ステップ)

CP 復号鍵生成部 1 4 6 は、処理装置により、 C^P に含まれる (t, x_t^{CP}) の各整数 t について、復号鍵 $s_k(s_{KP}, c_P)$ の要素である CP 復号鍵 k_t^{*CP} を数 1 4 3 に示すように生成する。

【数 1 4 3】

$$k_t^{*CP} := (\overbrace{\delta_t^{CP} \bar{x}_t^{CP}}^{n_t^{CP}}, \overbrace{0^{u_t^{CP}}}^{u_t^{CP}}, \overbrace{\vec{n}_t^{CP}}^{w_t^{CP}}, \overbrace{0^{z_t^{KP}}}^{z_t^{CP}})_{\mathbb{B}_t^{*CP}} \text{ for } (t, \bar{x}_t^{CP}) \in \Gamma^{CP}$$

つまり、数 1 4 3 は、数 1 4 1 と同様に、以下のように、基底 B_t^{*CP} の基底ベクトルの係数が設定されることを意味する。なお、ここでは、表記を簡略化して、基底ベクトル $b_{t,i}^{*CP}$ のうち、 i の部分のみで基底ベクトルを特定する。例えば、基底ベクトル 1 であれば、基底ベクトル $b_{t,1}^{*CP}$ を意味する。また、基底ベクトル 1, \dots , 3 であれば、基底ベクトル $b_{t,1}^{*CP}, \dots, b_{t,3}^{*CP}$ を意味する。

基底ベクトル $1, \dots, n_t^{CP}$ の係数として $x_{t,1}^{CP}, \dots, x_{t,n_t^{CP}}^{CP}$ (ここで、 n_t^{CP} は n_t^{CP} のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{CP} + 1, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP}$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $n_t^{CP} + u_t^{CP} + 1, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP}$ の係数として $x_{t,1}^{CP}, \dots, x_{t,w_t^{CP}}^{CP}$ (ここで、 w_t^{CP} は w_t^{CP} のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP} + 1, \dots, n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP} + z_t^{CP}$ の係数として 0 が設定される。

【0062】

(S208: 鍵配布ステップ)

鍵配布部 1 5 0 は、主復号鍵 k_0^{*} と、アクセスストラクチャ S^{KP} 及び KP 復号鍵 k_i^{*KP} ($i = 1, \dots, L^{KP}$) と、属性の集合 C^P 及び CP 復号鍵 k_t^{*CP} (t は属性の集合 C^P に含まれる (t, x_t^{CP}) における t) とを要素とする復号鍵 $s_k(s_{KP}, c_P)$ を、例えば通信装置によりネットワークを介して秘密裡に復号装置 3 0 0 へ配布する。もちろん、復号鍵 $s_k(s_{KP}, c_P)$ は、他の方法により復号装置 3 0 0 へ配布されてもよい。

【0063】

10

20

30

40

50

つまり、(S201)から(S207)において、鍵生成装置100は数144に示すKeyGenアルゴリズムを実行して、復号鍵 $sk_{(SKP, CP)}$ を生成する。そして、(S208)で、鍵生成装置100は生成された復号鍵 $sk_{(SKP, CP)}$ を復号装置300へ配布する。

【数144】

KeyGen(pk, sk, $\mathbb{S}^{KP} := (M^{KP}, \rho^{KP})$,

$$\Gamma^{CP} := \{(t, \vec{x}_t^{CP} := (x_{t,1}^{CP}, \dots, x_{t,n_t^{CP}}^{CP}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{CP}} \setminus \{\vec{0}\})$$

10

$$|1 \leq t \leq d^{CP}, x_{t,1}^{CP} := 1\}$$

$$\vec{f}^{KP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{r^{KP}}, (\vec{s}^{KP})^T := (s_1^{KP}, \dots, s_{L^{KP}}^{KP})^T := M^{KP} \cdot (\vec{f}^{KP})^T,$$

$$s_0^{KP} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{KP})^T,$$

$$\delta^{CP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q, \vec{\eta}_t^{CP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_t^{CP}} \text{ such that } (t, \vec{x}_t^{CP}) \in \Gamma^{CP},$$

$$\vec{\eta}_0 \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_0},$$

20

$$k_0^* := (-s_0^{KP}, \delta^{CP}, \overbrace{0^{u_0}}, \overbrace{1}, \overbrace{\eta_{0,1}, \dots, \eta_{0,w_0}}, \overbrace{0^{z_0}})_{\mathbb{B}_0^*},$$

for $i = 1, \dots, L^{KP}$,

$$\text{if } \rho^{KP}(i) = (t, \vec{v}_i^{KP} := (v_{i,1}^{KP}, \dots, v_{i,n_t^{KP}}^{KP}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{KP}} \setminus \{\vec{0}\}),$$

$$\theta_i^{KP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q, \vec{\eta}_i^{KP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_t^{KP}},$$

30

$$k_i^{*KP} := (\overbrace{s_i^{KP} \vec{e}_{t,1}^{KP} + \theta_i^{KP} \vec{v}_i^{KP}}^{n_t^{KP}}, \overbrace{0^{u_t^{KP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{KP}}^{w_t^{KP}}, \overbrace{0^{z_t^{KP}}}^{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_i^{*KP}},$$

$$\text{if } \rho^{KP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{KP}), \vec{\eta}_i^{KP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{w_t^{KP}},$$

$$k_i^{*KP} := (\overbrace{s_i^{KP} \vec{v}_i^{KP}}^{n_t^{KP}}, \overbrace{0^{u_t^{KP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{KP}}^{w_t^{KP}}, \overbrace{0^{z_t^{KP}}}^{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_i^{*KP}},$$

40

for $(t, \vec{x}_t^{CP}) \in \Gamma^{CP}$,

$$k_t^{*CP} := (\overbrace{\delta^{CP} \vec{x}_t^{CP}}^{n_t^{CP}}, \overbrace{0^{u_t^{CP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_t^{CP}}^{w_t^{CP}}, \overbrace{0^{z_t^{CP}}}^{z_t^{CP}})_{\mathbb{B}_t^{*CP}},$$

return $sk_{(\mathbb{S}^{KP}, \Gamma^{CP})} :=$

$$(k_0^*; \mathbb{S}^{KP}, k_1^{*KP}, \dots, k_{L^{KP}}^{*KP}; \Gamma^{CP}, \{k_t^{*CP}\}_{(t, \vec{x}_t^{CP}) \in \Gamma^{CP}}).$$

【0064】

50

暗号化装置 200 の機能と動作とについて説明する。

図 7 に示すように、暗号化装置 200 は、公開パラメータ取得部 210、情報入力部 220（第 2 情報入力部）、暗号化データ生成部 230、データ送信部 240（データ出力部）を備える。

また、情報入力部 220 は、KP 情報入力部 221（第 2 KP 情報入力部）、CP 情報入力部 222（第 2 CP 情報入力部）、メッセージ入力部 223 を備える。また、暗号化データ生成部 230 は、f ベクトル生成部 231、s ベクトル生成部 232、乱数生成部 233、主暗号化データ生成部 234、KP 暗号化データ生成部 235、CP 暗号化データ生成部 236、メッセージ暗号化データ生成部 237 を備える。

【0065】

図 11 に基づき、Enc アルゴリズムの処理について説明する。

（S301：公開パラメータ取得ステップ）

公開パラメータ取得部 210 は、例えば、通信装置によりネットワークを介して、鍵生成装置 100 が生成した公開パラメータ p_k を取得する。

【0066】

（S302：情報入力ステップ）

KP 情報入力部 221 は、入力装置により、属性の集合 $K^P := \{ (t, x_t^{K^P} := (x_{t,i}^{K^P} (i = 1, \dots, n_t^{K^P})) \in F_q^{n_t^{K^P} \setminus \{0\}} | 1 \leq t \leq d^{K^P} \}$ を入力する。 t は、1 以上 d^{K^P} 以下の全ての整数ではなく、1 以上 d^{K^P} 以下の少なくとも一部の整数であってもよい。

また、CP 情報入力部 222 は、入力装置により、アクセスストラクチャ $S^{C^P} := (M^{C^P}, r^{C^P})$ を入力する。なお、行列 M^{C^P} は、 L^{C^P} 行 $\times r^{C^P}$ 列の行列である。 L^{C^P} 、 r^{C^P} は、1 以上の整数である。

また、メッセージ入力部は、入力装置により、復号装置 300 へ送信するメッセージ m を入力する。

なお、アクセスストラクチャ S^{C^P} の行列 M^{C^P} の設定については、実現したいシステムの条件に応じて設定されるものである。アクセスストラクチャ S^{C^P} の r^{C^P} や属性の集合 K^P は、例えば、復号可能なユーザの属性情報が設定されている。

【0067】

（S303：乱数生成ステップ）

乱数生成部 233 は、処理装置により、乱数 ω^{K^P} と、乱数 $\vec{\varphi}_0$ と、 K^P に含まれる $(t, x_t^{K^P})$ の各整数 t について $\vec{\varphi}_t^{K^P}$ と、乱数 $\vec{\varphi}_t^{K^P}$ とを数 145 に示すように生成する。

【数 145】

$$\omega^{K^P}, \zeta \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q,$$

$$\vec{\varphi}_0 := (\varphi_{0,1}, \dots, \varphi_{0,z_0}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{z_0},$$

$$\vec{\varphi}_t^{K^P} := (\varphi_{t,1}^{K^P}, \dots, \varphi_{t,z_t^{K^P}}^{K^P}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{z_t^{K^P}} \text{ for } (t, \vec{x}_t^{K^P}) \in \Gamma$$

【0068】

（S304：f ベクトル生成ステップ）

f ベクトル生成部 231 は、処理装置により、 r^{C^P} 個の要素を有するベクトル f^{C^P} を数 146 に示すようにランダムに生成する。

10

20

30

40

【数 1 4 6】

$$\vec{f}^{\text{CP}} \xleftarrow{R} \mathbb{F}_q^{r^{\text{CP}}}$$

【0 0 6 9】

(S 3 0 5 : s ベクトル生成ステップ)

s ベクトル生成部 2 3 2 は、処理装置により、(S 3 0 2) で入力したアクセスストラクチャ S^{CP} に含まれる (L^{CP} 行 \times r^{CP} 列) の行列 M^{CP} と、(S 3 0 4) で生成した r^{CP} 個の要素を有するベクトル f^{CP} とに基づき、ベクトル $(s^{\text{CP}})^{\text{T}}$ を数 1 4 7 に示すように生成する。

10

【数 1 4 7】

$$(\vec{s}^{\text{CP}})^{\text{T}} := (s_1^{\text{CP}}, \dots, s_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}})^{\text{T}} := M^{\text{CP}} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}}$$

また、s ベクトル生成部 1 4 2 は、処理装置により、(S 3 0 4) で生成したベクトル f^{CP} に基づき、値 s_0^{CP} を数 1 4 8 に示すように生成する。なお、1 は、全ての要素が値 1 のベクトルである。

【数 1 4 8】

20

$$s_0^{\text{CP}} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}}$$

【0 0 7 0】

(S 3 0 6 : 主暗号化データ生成ステップ)

主暗号化データ生成部 2 3 4 は、処理装置により、暗号化データ $c_t (K^{\text{P}}, S^{\text{CP}})$ の要素である主暗号化データ c_0 を数 1 4 9 に示すように生成する。

【数 1 4 9】

30

$$c_0 := (\omega^{\text{KP}}, -s_0^{\text{CP}}, \overbrace{0^{u_0}}, \zeta, \overbrace{0^{w_0}}, \overbrace{\varphi_{0,1}, \dots, \varphi_{0,z_0}}^{z_0})_{\mathbb{B}_0}$$

なお、上述したように、数 1 1 0 に示す基底 B と基底 B^* とに対して、数 1 1 1 である。したがって、数 1 4 9 は、以下のように、基底 B_0 の基底ベクトルの係数が設定されることを意味する。ここでは、表記を簡略化して、基底ベクトル $b_{0,i}$ のうち、 i の部分のみで基底ベクトルを特定する。例えば、基底ベクトル 1 であれば、基底ベクトル $b_{0,1}$ を意味する。また、基底ベクトル 1, . . . , 3 であれば、基底ベクトル $b_{0,1}, \dots, b_{0,3}$ を意味する。

40

基底 B_0 の基底ベクトル 1 の係数として乱数 K^{P} が設定される。基底ベクトル 2 の係数として $-s_0^{\text{CP}}$ が設定される。基底ベクトル $2 + 1, \dots, 2 + u_0$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $2 + u_0 + 1$ の係数として乱数 ζ が設定される。基底ベクトル $2 + u_0 + 1 + 1, \dots, 2 + u_0 + 1 + w_0$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $2 + u_0 + 1 + w_0 + 1, \dots, 2 + u_0 + 1 + w_0 + z_0$ の係数として乱数 $\varphi_{0,1}, \dots, \varphi_{0,z_0}$ (ここで、 z_0 は z_0 のことである) が設定される。

【0 0 7 1】

(S 3 0 7 : K^{P} 暗号化データ生成ステップ)

K^{P} 暗号化データ生成部 2 3 5 は、処理装置により、 K^{P} に含まれる $(t, x_t^{K^{\text{P}}})$ の各整数 t について、暗号化データ $c_t (K^{\text{P}}, S^{\text{CP}})$ の要素である K^{P} 暗号化

50

データ c_t^{KP} を数 150 に示すように生成する。

【数 150】

$$c_t^{KP} := (\overbrace{\omega_t^{KP} \vec{x}_t^{KP}}^{n_t^{KP}}, \overbrace{0u_t^{KP}}^{u_t^{KP}}, \overbrace{0w_t^{KP}}^{w_t^{KP}}, \overbrace{\vec{\phi}_t^{KP}}^{z_t^{KP}})_{\mathbb{B}_t^{KP}}$$

for $(t, \vec{x}_t^{KP}) \in \Gamma^{KP}$

つまり、数 150 は、数 149 と同様に、以下のように、基底 B_t^{KP} の基底ベクトルの係数が設定されることを意味する。なお、ここでは、表記を簡略化して、基底ベクトル $b_{t,i}^{KP}$ のうち、 i の部分のみで基底ベクトルを特定する。例えば、基底ベクトル 1 であれば、基底ベクトル $b_{t,1}^{KP}$ を意味する。また、基底ベクトル 1, ..., 3 であれば、基底ベクトル $b_{t,1}^{KP}, \dots, b_{t,3}^{KP}$ を意味する。

基底ベクトル 1, ..., n_t^{KP} の係数として $x_{t,1}^{KP}, \dots, x_{t,n_t^{KP}}^{KP}$ (ここで、 n_t^{KP} は n_t^{KP} のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP}$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + 1, \dots, n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + z_t^{KP}$ の係数として $\phi_{t,1}^{KP}, \dots, \phi_{t,z_t^{KP}}^{KP}$ (ここで、 z_t^{KP} は z_t^{KP} のことである) が設定される。

【0072】

(S308: CP 暗号化データ生成ステップ)

CP 暗号化データ生成部 236 は、処理装置により、 $i = 1, \dots, L^{CP}$ の各整数 i について、暗号化データ $c_t^{(KP, SCP)}$ の要素である CP 暗号化データ c_i^{CP} を数 151 に示すように生成する。

【数 151】

for $i = 1, \dots, L^{CP}$,

$$\text{if } \rho^{CP}(i) = (t, \vec{v}_i^{CP} := (v_{i,1}^{CP}, \dots, v_{i,n_t^{CP}}^{CP}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{CP}} \setminus \{\vec{0}\}) (v_{i,n_t^{CP}}^{CP} := 1),$$

$$\theta_i^{CP} \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q, \vec{\phi}_i^{CP} := (\phi_{i,0}^{CP}, \dots, \phi_{i,z_t^{CP}}^{CP}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{z_t^{CP}},$$

$$c_i^{CP} := (\overbrace{s_i^{CP} \vec{e}_{t,1}^{CP} + \theta_i^{CP} \vec{v}_i^{CP}}^{n_t^{CP}}, \overbrace{0u_t^{CP}}^{u_t^{CP}}, \overbrace{0w_t^{CP}}^{w_t^{CP}}, \overbrace{\vec{\phi}_i^{CP}}^{z_t^{CP}})_{\mathbb{B}_t^{CP}},$$

$$\text{if } \rho^{CP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{CP}),$$

$$\vec{\phi}_i^{CP} := (\phi_{i,0}^{CP}, \dots, \phi_{i,z_t^{CP}}^{CP}) \xleftarrow{U} \mathbb{F}_q^{z_t^{CP}},$$

$$c_i^{CP} := (\overbrace{s_i^{CP} \vec{v}_i^{CP}}^{n_t^{CP}}, \overbrace{0u_t^{CP}}^{u_t^{CP}}, \overbrace{0w_t^{CP}}^{w_t^{CP}}, \overbrace{\vec{\phi}_i^{CP}}^{z_t^{CP}})_{\mathbb{B}_t^{CP}}$$

つまり、数 151 は、数 150 と同様に、以下のように、基底 B_t^{CP} の基底ベクトルの係数が設定されることを意味する。なお、ここでは、表記を簡略化して、基底ベクトル $b_{t,i}^{CP}$ のうち、 i の部分のみで基底ベクトルを特定する。例えば、基底ベクトル 1 であれば、基底ベクトル $b_{t,1}^{CP}$ を意味する。また、基底ベクトル 1, ..., 3 であれば、基底ベクトル $b_{t,1}^{CP}, \dots, b_{t,3}^{CP}$ を意味する。

$C^P(i)$ が肯定形の組 $(t, v_{i,1}^{C^P})$ である場合には、基底ベクトル 1 の係数として $s_{i,1}^{C^P} + v_{i,1}^{C^P}$ が設定される。なお、上述したように、 $e_{t,j}^{C^P}$ は、数 112 に示す正規基底ベクトルを示す。また、基底ベクトル $2, \dots, n_t^{C^P}$ の係数として $v_{i,2}^{C^P}, \dots, v_{i,n_t^{C^P}}^{C^P}$ (ここで、 $n_t^{C^P}$ は $n_t^{C^P}$ のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{C^P} + 1, \dots, n_t^{C^P} + u_t^{C^P} + w_t^{C^P}$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $n_t^{C^P} + u_t^{C^P} + w_t^{C^P} + 1, \dots, n_t^{C^P} + u_t^{C^P} + w_t^{C^P} + z_t^{C^P}$ の係数として $v_{i,1}^{C^P}, \dots, v_{i,z_t^{C^P}}^{C^P}$ (ここで、 $z_t^{C^P}$ は $z_t^{C^P}$ のことである) が設定される。

一方、 $C^P(i)$ が否定形の組 $\neg(t, v_{i,1}^{C^P})$ である場合には、基底ベクトル $1, \dots, n_t^{C^P}$ の係数として $s_{i,1}^{C^P} v_{i,1}^{C^P}, \dots, s_{i,n_t^{C^P}}^{C^P} v_{i,n_t^{C^P}}^{C^P}$ (ここで、 $n_t^{C^P}$ は $n_t^{C^P}$ のことである) が設定される。基底ベクトル $n_t^{C^P} + 1, \dots, n_t^{C^P} + u_t^{C^P} + w_t^{C^P}$ の係数として 0 が設定される。基底ベクトル $n_t^{C^P} + u_t^{C^P} + w_t^{C^P} + 1, \dots, n_t^{C^P} + u_t^{C^P} + w_t^{C^P} + z_t^{C^P}$ の係数として $v_{i,1}^{C^P}, \dots, v_{i,z_t^{C^P}}^{C^P}$ (ここで、 $z_t^{C^P}$ は $z_t^{C^P}$ のことである) が設定される。

なお、 $s_i^{C^P}$ 及び $v_i^{C^P}$ は乱数生成部 233 によって生成される乱数である。

【0073】

(S309: メッセージ暗号化データ生成ステップ)

メッセージ暗号化データ生成部 237 は、処理装置により、暗号化データ $c_t(K_P, S_{C^P})$ の要素であるメッセージ暗号化データ c_{d+1} を数 152 に示すように生成する。

【数 152】

$$c_{d+1} := g_T^\zeta m$$

なお、上述したように、数 153 である。

【数 153】

$$g_T := e(g, g)^\psi$$

【0074】

(S310: データ送信ステップ)

データ送信部 240 は、主暗号化データ c_0 と、属性の集合 K^P 及び K^P 暗号化データ $c_t(K^P)$ と、アクセスストラクチャ S^{C^P} 及び C^P 暗号化データ $c_i^{C^P}$ と、メッセージ暗号化データ c_{d+1} とを要素とする暗号化データ $c_t(K^P, S_{C^P})$ を、例えば通信装置によりネットワークを介して復号装置 300 へ送信する。もちろん、暗号化データ $c_t(K^P, S_{C^P})$ は、他の方法により復号装置 300 へ送信されてもよい。

【0075】

つまり、(S301) から (S309) において、暗号化装置 200 は、数 154 に示す Enc アルゴリズムを実行して、暗号化データ $c_t(K^P, S_{C^P})$ を生成する。そして、(S310) で、暗号化装置 200 は、生成された暗号化データ $c_t(K^P, S_{C^P})$ を復号装置 300 へ送信する。

【数 1 5 4】

$$\text{Enc}(\text{pk}, m, \Gamma^{\text{KP}} :=$$

$$\{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}} := (x_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, x_{t,n_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{KP}}} \setminus \{\vec{0}\}) \mid 1 \leq t \leq d^{\text{KP}}, x_{t,1}^{\text{KP}} := 1\},$$

$$\mathbb{S}^{\text{CP}} := (M^{\text{CP}}, \rho^{\text{CP}}):$$

$$\omega^{\text{KP}}, \zeta \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q, \vec{\phi}_0 \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{z_0}, \vec{\phi}_t^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{z_t^{\text{KP}}} \text{ for } (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma,$$

$$\vec{f}^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{R}} \mathbb{F}_q^{r^{\text{CP}}}, (\vec{s}^{\text{CP}})^{\text{T}} := (s_1^{\text{CP}}, \dots, s_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}})^{\text{T}} := M^{\text{CP}} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}},$$

$$s_0^{\text{CP}} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}},$$

$$c_0 := (\omega^{\text{KP}}, -s_0^{\text{CP}}, \overbrace{0u_0}^{u_0}, \zeta, \overbrace{0w_0}^{w_0}, \overbrace{\phi_{0,1}, \dots, \phi_{0,z_0}}^{z_0})_{\mathbb{B}_0},$$

$$\text{for } (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}},$$

$$c_t^{\text{KP}} := (\overbrace{\omega^{\text{KP}} \vec{x}_t^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0u_t^{\text{KP}}}^{u_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0w_t^{\text{KP}}}^{w_t^{\text{KP}}}, \overbrace{\vec{\phi}_t^{\text{KP}}}^{z_t^{\text{KP}}})_{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}},$$

$$\text{for } i = 1, \dots, L^{\text{CP}},$$

$$\text{if } \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}} := (v_{i,1}^{\text{CP}}, \dots, v_{i,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{CP}}} \setminus \{\vec{0}\}),$$

$$\theta_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q, \vec{\phi}_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{z_t^{\text{CP}}},$$

$$c_i^{\text{CP}} := (\overbrace{s_i^{\text{CP}} \vec{e}_{t,1}^{\text{CP}} + \theta_i^{\text{CP}} \vec{v}_i^{\text{CP}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0u_t^{\text{CP}}}^{u_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0w_t^{\text{CP}}}^{w_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\vec{\phi}_i^{\text{CP}}}^{z_t^{\text{CP}}})_{\mathbb{B}_i^{\text{CP}}},$$

$$\text{if } \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}}), \vec{\phi}_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{z_t^{\text{CP}}},$$

$$c_i^{\text{CP}} := (\overbrace{s_i^{\text{CP}} \vec{v}_i^{\text{CP}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0u_t^{\text{CP}}}^{u_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0w_t^{\text{CP}}}^{w_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\vec{\phi}_i^{\text{CP}}}^{z_t^{\text{CP}}})_{\mathbb{B}_i^{\text{CP}}},$$

$$c_{d+1} := g_T^{\zeta} m,$$

$$\text{return ct}_{(\Gamma^{\text{KP}}, \mathbb{S}^{\text{CP}})} :=$$

$$(c_0; \Gamma^{\text{KP}}, \{c_t^{\text{KP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}}}; \mathbb{S}^{\text{CP}}, c_1^{\text{CP}}, \dots, c_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}}; c_{d+1}).$$

【0 0 7 6】

復号装置 3 0 0 の機能と動作とについて説明する。

図 8 に示すように、復号装置 3 0 0 は、復号鍵取得部 3 1 0、データ受信部 3 2 0（データ取得部）、スパンププログラム計算部 3 3 0、補完係数計算部 3 4 0、ペアリング演算部 3 5 0、メッセージ計算部 3 6 0 を備える。

また、スパンププログラム計算部 3 3 0 は、K P スパンププログラム計算部 3 3 1、C P ス

10

20

30

40

50

パンププログラム計算部 332 を備える。また、補完係数計算部 340 は、K P 補完係数計算部 341、C P 補完係数計算部 342 を備える。

【0077】

図 12 に基づき、D e c アルゴリズムの処理について説明する。

(S 401: 復号鍵取得ステップ)

復号鍵取得部 310 は、例えば、通信装置によりネットワークを介して、鍵生成装置 100 から配布された復号鍵 $s_k(s_{KP}, c_P)$ を取得する。また、復号鍵取得部 310 は、鍵生成装置 100 が生成した公開パラメータ p_k を取得する。

【0078】

(S 402: データ受信ステップ)

データ受信部 320 は、例えば、通信装置によりネットワークを介して、暗号化装置 200 が送信した暗号化データ $c_t(K_P, s_{C_P})$ を受信する。

【0079】

(S 403: スパンププログラム計算ステップ)

K P スパンププログラム計算部 331 は、処理装置により、(S 401) で取得した復号鍵 $s_k(s_{KP}, c_P)$ に含まれるアクセスストラクチャ S^{KP} が、(S 402) で受信した暗号化データ $c_t(K_P, s_{C_P})$ に含まれる属性の集合 K^P を受理するか否かを判定する。

また、C P スパンププログラム計算部 332 は、処理装置により、(S 402) で受信した暗号化データ $c_t(K_P, s_{C_P})$ に含まれるアクセスストラクチャ S^{C_P} が、(S 401) で取得した復号鍵 $s_k(s_{KP}, c_P)$ に含まれる属性の集合 C^P を受理するか否かを判定する。

なお、アクセスストラクチャが属性の集合を受理するか否かの判定方法は、「第 3 . 関数型暗号を実現するための概念」で説明した通りである。

スパンププログラム計算部 330 は、アクセスストラクチャ S^{KP} が属性の集合 K^P を受理し、かつ、アクセスストラクチャ S^{C_P} が属性の集合 C^P を受理する場合 (S 403 で受理)、処理を (S 404) へ進める。一方、アクセスストラクチャ S^{KP} が属性の集合 K^P を拒絶する場合と、アクセスストラクチャ S^{C_P} が属性の集合 C^P を拒絶する場合との少なくともいずれかの場合 (S 403 で拒絶)、暗号化データ $c_t(K_P, s_{C_P})$ を復号鍵 $s_k(s_{KP}, c_P)$ で復号できないとして、識別情報 を出力して、処理を終了する。

【0080】

(S 404: 補完係数計算ステップ)

K P 補完係数計算部 341 は、処理装置により、数 155 となる I^{KP} と、 I^{KP} に含まれる各整数 i について定数 (補完係数) α_i^{KP} とを計算する。

【数 155】

$$\vec{I} = \sum_{i \in I} \alpha_i^{KP} M_i^{KP}, \text{ where } M_i^{KP} \text{ is the } i\text{-th row of } M^{KP}, \text{ and}$$

$$I^{KP} \subseteq \{i \in \{1, \dots, L^{KP}\}$$

$$| [\rho^{KP}(i) = (t, \vec{v}_i^{KP}) \wedge (t, \vec{x}_t^{KP}) \in \Gamma^{KP} \wedge \vec{v}_i^{KP} \cdot \vec{x}_t^{KP} = 0]$$

$$[\rho^{KP}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{KP}) \wedge (t, \vec{x}_t^{KP}) \in \Gamma^{KP} \wedge \vec{v}_i^{KP} \cdot \vec{x}_t^{KP} \neq 0] \}$$

また、C P 補完係数計算部 342 は、処理装置により、数 156 となる I^{C_P} と、 I^{C_P} に含まれる各整数 i について定数 (補完係数) $\alpha_i^{C_P}$ とを計算する。

10

20

30

40

【数 1 5 6】

$$\vec{1} = \sum_{i \in I} \alpha_i^{\text{CP}} M_i^{\text{CP}}, \text{ where } M_i^{\text{CP}} \text{ is the } i\text{-th row of } M^{\text{CP}}, \text{ and}$$

$$I^{\text{CP}} \subseteq \{i \in \{1, \dots, L^{\text{CP}}\} \mid [\rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}} = 0] \\ [\rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}} \neq 0]\}$$

10

【0 0 8 1】

(S 4 0 5 : ペアリング演算ステップ)

ペアリング演算部 3 5 0 は、処理装置により、数 1 5 7 を計算して、セッション鍵 $K = g_T$ を生成する。

【数 1 5 7】

$$K := e(c_0, k_0^*) \cdot$$

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{*\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}} \cdot$$

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{*\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}} / (\vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}}) \cdot$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{*\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}} \cdot$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{*\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}} / (\vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}})$$

20

30

なお、数 1 5 8 に示すように、数 1 5 7 を計算することにより鍵 $K = g_T$ が得られる。

【数 1 5 8】

$$K := e(c_0, k_0^*).$$

$$\begin{aligned} & \prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{*\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}}. \\ & \prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{*\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}} / (\vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}}). \\ & \prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{*\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}}. \\ & \prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{*\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}} / (\vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}}) \\ & = g_T^{-\varpi^{\text{KP}} s_0^{\text{KP}} - \delta^{\text{CP}} s_0^{\text{CP}} + \zeta}. \end{aligned}$$

10

$$\begin{aligned} & \prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} g_T^{\varpi^{\text{KP}} \alpha_i s_i^{\text{KP}}}. \\ & \prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} g_T^{\varpi^{\text{KP}} \alpha_i s_i^{\text{KP}} (\vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}}) / (\vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}})}. \\ & \prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} g_T^{\delta^{\text{CP}} \alpha_i s_i^{\text{CP}}}. \\ & \prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} g_T^{\delta^{\text{CP}} \alpha_i s_i^{\text{CP}} (\vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}}) / (\vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}})} \\ & = g_T^{-\varpi^{\text{KP}} s_0^{\text{KP}} - \delta^{\text{CP}} s_0^{\text{CP}} + \zeta + \varpi^{\text{KP}} s_0^{\text{KP}} + \delta^{\text{CP}} s_0^{\text{CP}}} \\ & = g_T^{\zeta} \end{aligned}$$

20

30

【0082】

(S406: メッセージ計算ステップ)

メッセージ計算部360は、処理装置により、 $m' = c_{d+1} / K$ を計算して、メッセージ m' ($=m$)を生成する。なお、メッセージ暗号化データ c_{d+1} は数152に示す通り g_T^m であり、 K は g_T であるから、 $m' = c_{d+1} / K$ を計算すればメッセージ m が得られる。

40

【0083】

つまり、(S401)から(S406)において、復号装置300は、数159に示すDecアルゴリズムを実行して、メッセージ m' ($=m$)を生成する。

【数 1 5 9】

Dec(pk,

$$\text{sk}_{(\mathbb{S}^{\text{KP}}, \Gamma^{\text{CP}})} := (k_0^*; \mathbb{S}^{\text{KP}}, k_1^{\text{KP}}, \dots, k_{L^{\text{KP}}}^{\text{KP}}; \Gamma^{\text{CP}}, \{k_t^{\text{CP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}}}),$$

$$\text{ct}_{(\Gamma^{\text{KP}}, \mathbb{S}^{\text{CP}})} := (c_0; \Gamma^{\text{KP}}, \{c_t^{\text{KP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}}}; \mathbb{S}^{\text{CP}}, c_1^{\text{CP}}, \dots, c_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}}; c_{d+1}):$$

If $\mathbb{S}^{\text{KP}} := (M^{\text{KP}}, \rho^{\text{KP}})$ accepts $\Gamma^{\text{KP}} := \{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}})\}$

and $\mathbb{S}^{\text{CP}} := (M^{\text{CP}}, \rho^{\text{CP}})$ accepts $\Gamma^{\text{CP}} := \{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}})\}$,

10

then compute $(I^{\text{KP}}, \{\alpha_i^{\text{KP}}\}_{i \in I^{\text{KP}}})$ and $(I^{\text{CP}}, \{\alpha_i^{\text{CP}}\}_{i \in I^{\text{CP}}})$ such that

$$\vec{1} = \sum_{i \in I} \alpha_i^{\text{KP}} M_i^{\text{KP}}, \text{ where } M_i^{\text{KP}} \text{ is the } i\text{-th row of } M^{\text{KP}}, \text{ and}$$

$$I^{\text{KP}} \subseteq \{i \in \{1, \dots, L^{\text{KP}}\}$$

$$| [\rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}} = 0]$$

$$\vee [\rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}} \neq 0] \}, \text{ and}$$

$$\vec{1} = \sum_{i \in I} \alpha_i^{\text{CP}} M_i^{\text{CP}}, \text{ where } M_i^{\text{CP}} \text{ is the } i\text{-th row of } M^{\text{CP}}, \text{ and}$$

20

$$I^{\text{CP}} \subseteq \{i \in \{1, \dots, L^{\text{CP}}\}$$

$$| [\rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}} = 0]$$

$$\vee [\rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}} \neq 0] \},$$

$$K := e(c_0, k_0^*).$$

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}}.$$

30

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}} / (\vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}}).$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}}.$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}} / (\vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}}),$$

$$\text{return } m' := c_{d+1} / K.$$

40

【0 0 8 4】

以上のように、暗号処理システム 10 は、スパンプログラムと内積述語と秘密分散とを用いて構成したアクセスストラクチャ S^{KP} 及び S^{CP} を用いて、暗号方式（関数型暗号方式）を実現する。したがって、暗号処理システム 10 は、非常に高い自由度でアクセス制御の設計を行うことが可能な暗号方式を実現する。

特に、暗号処理システム 10 は、アクセスストラクチャ S^{KP} を復号鍵に持たせ、アクセスストラクチャ S^{CP} を暗号化データに持たせている。したがって、暗号処理システム 10 は、復号鍵と暗号化データとの両方でアクセスコントロールを行うことができる。

【0 0 8 5】

50

なお、上記説明において、 u_t, w_t, z_t ($t = 0, \dots, d+1$) の次元は、安全性を高めるために設けた次元である。したがって、安全性が低くなってしまうが、 u_t, w_t, z_t ($t = 0, \dots, d+1$) をそれぞれ 0 として、 u_t, w_t, z_t ($t = 0, \dots, d+1$) の次元を設けなくてもよい。

【0086】

また、上記説明では、(S101) で N_0 に $2 + u_0 + 1 + w_0 + z_0$ を設定した。しかし、 $2 + u_0 + 1 + w_0 + z_0$ を $2 + 2 + 1 + 2 + 1$ として、 N_0 に 8 を設定してもよい。

また、上記説明では、(S101) で N_t^{KP} に $n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + z_t^{KP}$ を設定した。しかし、 $n_t^{KP} + u_t^{KP} + w_t^{KP} + z_t^{KP}$ を $n_t^{KP} + n_t^{KP} + n_t^{KP} + 1$ として、 N_t^{KP} に $3n_t^{KP} + 1$ を設定してもよい。 10

同様に、(S101) で N_t^{CP} に $n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP} + z_t^{CP}$ を設定した。しかし、 $n_t^{CP} + u_t^{CP} + w_t^{CP} + z_t^{CP}$ を $n_t^{CP} + n_t^{CP} + n_t^{CP} + 1$ として、 N_t^{CP} に $3n_t^{CP} + 1$ を設定してもよい。

この場合、数136に示すSetupアルゴリズムは、数160のように書き換えられる。なお、 G_{ob}^U は数161のように書き換えられる。

【数160】

Setup($1^\lambda, \vec{n} := ((d^{KP}; n_1^{KP}, \dots, n_{d^{KP}}^{KP}), (d^{CP}; n_1^{CP}, \dots, n_{d^{CP}}^{CP}))$): 20

(param $_{\vec{n}}, \mathbb{B}_0, \mathbb{B}_0^*, \{\mathbb{B}_t^{KP}, \mathbb{B}_t^{*KP}\}_{t=1, \dots, d^{KP}},$
 $\{\mathbb{B}_t^{CP}, \mathbb{B}_t^{*CP}\}_{t=1, \dots, d^{CP}}) \xleftarrow{R} \mathcal{G}_{ob}(1^\lambda, \vec{n}),$
 $\hat{\mathbb{B}}_0 := (b_{0,1}, b_{0,2}, b_{0,5}, b_{0,8}), \hat{\mathbb{B}}_0^* := (b_{0,1}^*, b_{0,2}^*, b_{0,5}^*, b_{0,6}^*, b_{0,7}^*),$
for $t = 1, \dots, d^{KP}$, $\hat{\mathbb{B}}_t^{KP} := (b_{t,1}^{KP}, \dots, b_{t,n_t^{KP}}^{KP}, b_{t,3n_t^{KP}+1}^{KP}),$
 $\hat{\mathbb{B}}_t^{*KP} := (b_{t,1}^{*KP}, \dots, b_{t,n_t^{KP}}^{*KP}, b_{t,2n_t^{KP}+1}^{*KP}, \dots, b_{t,3n_t^{KP}}^{*KP}),$ 30
for $t = 1, \dots, d^{CP}$, $\hat{\mathbb{B}}_t^{CP} := (b_{t,1}^{CP}, \dots, b_{t,n_t^{CP}}^{CP}, b_{t,3n_t^{CP}+1}^{CP}),$
 $\hat{\mathbb{B}}_t^{*CP} := (b_{t,1}^{*CP}, \dots, b_{t,n_t^{CP}}^{*CP}, b_{t,2n_t^{CP}+1}^{*CP}, \dots, b_{t,3n_t^{CP}}^{*CP}),$
pk := ($1^\lambda, \text{param}_{\vec{n}}, \hat{\mathbb{B}}_0, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{KP}\}_{t=1, \dots, d^{KP}}, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{CP}\}_{t=1, \dots, d^{CP}}$),
sk := ($\hat{\mathbb{B}}_0^*, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{*KP}\}_{t=1, \dots, d^{KP}}, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{*CP}\}_{t=1, \dots, d^{CP}}$)
return pk, sk. 40

【数 1 6 1】

$$\begin{aligned}
& \mathcal{G}_{\text{ob}}^{\text{up}}(1^\lambda, \vec{n} := ((d^{\text{KP}}; n_1^{\text{KP}}, \dots, n_{d^{\text{KP}}}^{\text{KP}}), (d^{\text{CP}}; n_1^{\text{CP}}, \dots, n_{d^{\text{CP}}}^{\text{CP}})) : \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{G}} := (q, \mathbb{G}, \mathbb{G}_T, g, e) \xleftarrow{\mathbf{R}} \mathcal{G}_{\text{bpg}}(1^\lambda), \quad \psi \xleftarrow{\mathbf{U}} \mathbb{F}_q^X, \\
& \quad N_0 := 8, \quad N_t^{\text{KP}} := 3n_t^{\text{KP}} + 1 \text{ for } t=1, \dots, d^{\text{KP}}, \\
& \quad N_t^{\text{CP}} := 3n_t^{\text{CP}} + 1 \text{ for } t=1, \dots, d^{\text{CP}}, \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{V}_0} := (q, \mathbb{V}_0, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_0, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_0, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& \quad X_0 := (\chi_{0,i,j})_{i,j} \xleftarrow{\mathbf{U}} GL(N_0, \mathbb{F}_q), \quad (v_{0,i,j})_{i,j} := \psi \cdot (X_0^T)^{-1}, \\
& \quad b_{0,i} := (\chi_{0,i,1}, \dots, \chi_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0 := (b_{0,1}, \dots, b_{0,N_0}), \\
& \quad b_{0,i}^* := (v_{0,i,1}, \dots, v_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0^* := (b_{0,1}^*, \dots, b_{0,N_0}^*), \\
& \quad \text{for } t=1, \dots, d^{\text{KP}}, \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{KP}}} := (q, \mathbb{V}_t^{\text{KP}}, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_t^{\text{KP}}, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_t^{\text{KP}}, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& \quad X_t^{\text{KP}} := (\chi_{t,i,j}^{\text{KP}})_{i,j} \xleftarrow{\mathbf{U}} GL(N_t^{\text{KP}}, \mathbb{F}_q), \quad (v_{t,i,j}^{\text{KP}})_{i,j} := \psi \cdot (X_t^{\text{KP}})^T)^{-1}, \\
& \quad b_{t,i}^{\text{KP}} := (\chi_{t,i,1}^{\text{KP}}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{KP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{\text{KP}} := (b_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}), \\
& \quad b_{t,i}^{*\text{KP}} := (v_{t,i,1}^{\text{KP}}, \dots, v_{t,i,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{KP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{*\text{KP}} := (b_{t,1}^{*\text{KP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}), \\
& \quad \text{for } t=1, \dots, d^{\text{CP}}, \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{CP}}} := (q, \mathbb{V}_t^{\text{CP}}, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_t^{\text{CP}}, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_t^{\text{CP}}, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& \quad X_t^{\text{CP}} := (\chi_{t,i,j}^{\text{CP}})_{i,j} \xleftarrow{\mathbf{U}} GL(N_t^{\text{CP}}, \mathbb{F}_q), \quad (v_{t,i,j}^{\text{CP}})_{i,j} := \psi \cdot (X_t^{\text{CP}})^T)^{-1}, \\
& \quad b_{t,i}^{\text{CP}} := (\chi_{t,i,1}^{\text{CP}}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{CP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{\text{CP}} := (b_{t,1}^{\text{CP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}), \\
& \quad b_{t,i}^{*\text{CP}} := (v_{t,i,1}^{\text{CP}}, \dots, v_{t,i,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{CP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{*\text{CP}} := (b_{t,1}^{*\text{CP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{CP}}}^{*\text{CP}}), \\
& \quad g_T := e(g, g)^\psi, \\
& \quad \text{param}_{\vec{n}} := (\text{param}_{\mathbb{V}_0}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{KP}}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{CP}}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}, g_T) \\
& \quad \text{return } (\text{param}_{\vec{n}}, \{\mathbb{B}_0, \mathbb{B}_0^*\}, \{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}).
\end{aligned}$$

また、数 1 4 4 に示す K e y G e n アルゴリズムは、数 1 6 2 のように書き換えられる

【数 1 6 2】

KeyGen(pk, sk, $\mathbb{S}^{\text{KP}} := (M^{\text{KP}}, \rho^{\text{KP}})$,

$$\Gamma^{\text{CP}} := \{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}} := (x_{t,1}^{\text{CP}}, \dots, x_{t,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}})$$

$$\in \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{CP}}} \setminus \{\vec{0}\} \mid 1 \leq t \leq d^{\text{CP}}, x_{t,1}^{\text{CP}} := 1\}$$

$$\vec{f}^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{r^{\text{KP}}}, (\vec{s}^{\text{KP}})^{\text{T}} := (s_1^{\text{KP}}, \dots, s_{L^{\text{KP}}}^{\text{KP}})^{\text{T}} := M^{\text{KP}} \cdot (\vec{f}^{\text{KP}})^{\text{T}},$$

$$s_0^{\text{KP}} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{\text{KP}})^{\text{T}},$$

$$\delta^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q, \vec{\eta}_t^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{CP}}} \text{ such that } (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}},$$

$$(\eta_{0,1}, \eta_{0,2}) \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^2,$$

$$k_0^* := (-s_0^{\text{KP}}, \delta^{\text{CP}}, 0, 0, 1, \eta_{0,1}, \eta_{0,2}, 0)_{\mathbb{B}_0^*},$$

for $i = 1, \dots, L^{\text{KP}}$,

$$\text{if } \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}} := (v_{i,1}^{\text{KP}}, \dots, v_{i,n_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{KP}}} \setminus \{\vec{0}\}),$$

$$\theta_i^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q, \vec{\eta}_i^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{KP}}},$$

$$k_i^{*\text{KP}} := (\overbrace{s_i^{\text{KP}} \vec{e}_{t,1}^{\text{KP}} + \theta_i^{\text{KP}} \vec{v}_i^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0 n_t^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0}^1)_{\mathbb{B}_i^{*\text{KP}}},$$

$$\text{if } \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}}), \vec{\eta}_i^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{KP}}},$$

$$k_i^{*\text{KP}} := (\overbrace{s_i^{\text{KP}} \vec{v}_i^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0 n_t^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0}^1)_{\mathbb{B}_i^{*\text{KP}}},$$

for $(t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}}$,

$$k_t^{*\text{CP}} := (\overbrace{\delta^{\text{CP}} \vec{x}_t^{\text{CP}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0 n_t^{\text{CP}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_t^{\text{CP}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0}^1)_{\mathbb{B}_t^{*\text{CP}}},$$

return $\text{sk}_{(\mathbb{S}^{\text{KP}}, \Gamma^{\text{CP}})} :=$

$$(k_0^*; \mathbb{S}^{\text{KP}}, k_1^{*\text{KP}}, \dots, k_{L^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}; \Gamma^{\text{CP}}, \{k_t^{*\text{CP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}}}).$$

また、数 1 5 4 に示す E n c アルゴリズムは、数 1 6 3 のように書き換えられる。

【数 1 6 3】

$$\text{Enc}(\text{pk}, m, \Gamma^{\text{KP}} :=$$

$$\{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}} := (x_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, x_{t,n_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{KP}}} \setminus \{\vec{0}\}) \mid 1 \leq t \leq d^{\text{KP}}, x_{t,1}^{\text{KP}} := 1\},$$

$$\mathbb{S}^{\text{CP}} := (M^{\text{CP}}, \rho^{\text{CP}}):$$

$$\omega^{\text{KP}}, \varphi_0, \varphi_t^{\text{KP}}, \zeta \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q \text{ for } (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma,$$

$$\vec{f}^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{R}} \mathbb{F}_q^{r^{\text{CP}}}, (\vec{s}^{\text{CP}})^{\text{T}} := (s_1^{\text{CP}}, \dots, s_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}})^{\text{T}} := M^{\text{CP}} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}},$$

$$s_0^{\text{CP}} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}},$$

$$c_0 := (\omega^{\text{KP}}, -s_0^{\text{CP}}, 0, 0, \zeta, 0, 0, \varphi_0)_{\mathbb{B}_0},$$

$$\text{for } (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}},$$

$$c_t^{\text{KP}} := (\overbrace{\omega^{\text{KP}} \vec{x}_t^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0^{n_t^{\text{KP}}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0^{n_t^{\text{KP}}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{\varphi_t^{\text{KP}}}^1)_{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}},$$

$$\text{for } i = 1, \dots, L^{\text{CP}},$$

$$\text{if } \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}} := (v_{i,1}^{\text{CP}}, \dots, v_{i,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}) \in \mathbb{F}_q^{n_t^{\text{CP}}} \setminus \{\vec{0}\}) (v_{i,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}} := 1),$$

$$\varphi_i^{\text{CP}}, \theta_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q,$$

$$c_i^{\text{CP}} := (\overbrace{s_i^{\text{CP}} \vec{e}_{t,1}^{\text{CP}} + \theta_i^{\text{CP}} \vec{v}_i^{\text{CP}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0^{n_t^{\text{CP}}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0^{n_t^{\text{CP}}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\varphi_i^{\text{CP}}}^1)_{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}},$$

$$\text{if } \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}}), \varphi_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{F}_q,$$

$$c_i^{\text{CP}} := (\overbrace{s_i^{\text{CP}} \vec{v}_i^{\text{CP}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0^{n_t^{\text{CP}}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0^{n_t^{\text{CP}}}}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\varphi_i^{\text{CP}}}^1)_{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}},$$

$$c_{d+1} := g_T^{\zeta} m,$$

$$\text{return ct}_{(\Gamma^{\text{KP}}, \mathbb{S}^{\text{CP}})} :=$$

$$(c_0; \Gamma^{\text{KP}}, \{c_t^{\text{KP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}}}; \mathbb{S}^{\text{CP}}, c_1^{\text{CP}}, \dots, c_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}}; c_{d+1}).$$

なお、数 1 5 9 に示す D e c アルゴリズムには変更はない。

【0 0 8 7】

また、上記説明では、(S 1 0 1) で N_0 に 8 を設定した。しかし、 N_0 は 8 ではなく、3 以上の整数であればよい。 N_0 が 3 であると、基底 B_0 と基底 B_0^* とが 2 次元になる。 N_0 が 3 の場合、Key Gen アルゴリズムにおいて、 $k_0^* := (-s_0^{\text{KP}}, s_0^{\text{CP}}, 1)_{B_0^*}$ とし、Enc アルゴリズムにおいて、 $c_0 := (s_0^{\text{KP}}, -s_0^{\text{CP}}, 0)_{B_0}$ とすればよい。ここで、 B_0^* は B_0^* のことであり、 B_0 は B_0 のことであ

10

20

30

40

50

る。

【0088】

また、上記説明では、Key Gen アルゴリズムにおいて、 $k^*_{0} := (-s_0, \begin{smallmatrix} C \\ P \end{smallmatrix}, 0, 0, 1, 0, 1, 0, 2, 0)_{B^*_{0}}$ とした。しかし、暗号化装置 200 が知れる所定の値を用いて、 $k^*_{0} := (-s_0, \begin{smallmatrix} C \\ P \end{smallmatrix}, 0, 0, \quad, 0, 1, 0, 2, 0)_{B^*_{0}}$ としてもよい。ここで、 B^*_{0} は B^*_{0} のことであり、 B_0 は B_0 のことである。この場合、Dec アルゴリズムで計算される $K := g_{\quad T}$ となるため、Enc アルゴリズムにおいて、 $c_{d+1} := g_{\quad T} m$ とすればよい。

【0089】

また、上記説明では、 $v_{i, ntCP}^{\begin{smallmatrix} C \\ P \end{smallmatrix}}$ (ここで $ntCP$ は $n_t^{\begin{smallmatrix} C \\ P \end{smallmatrix}}$ のことである) の値について特に限定しなかった。しかし、安全性の証明の観点から、 $v_{i, ntCP}^{\begin{smallmatrix} C \\ P \end{smallmatrix}} := 1$ である限定としてもよい。

10

【0090】

また、安全性の証明の観点から、 $i = 1, \dots, L^{K^P}$ の各整数 i についての $K^P(i)$ は、それぞれ異なる識別情報 t についての肯定形の組 (t, v_{i, K^P}) 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i, K^P})$ であると限定してもよい。

言い替えると、 $K^P(i) = (t, v_{i, K^P})$ 又は $K^P(i) = \neg(t, v_{i, K^P})$ である場合に、関数 \sim^{K^P} を、 $\sim^{K^P}(i) = t$ である $\{1, \dots, L\}$ $\{1, \dots, d^{K^P}\}$ の写像であるとする。この場合、 \sim^{K^P} が単射であると限定してもよい。なお、 $K^P(i)$ は、上述したアクセスストラクチャ $S^{K^P} := (M^{K^P}, K^P(i))$ の $K^P(i)$ である。

20

同様に、 $i = 1, \dots, L^{C^P}$ の各整数 i についての $C^P(i)$ は、それぞれ異なる識別情報 t についての肯定形の組 (t, v_{i, C^P}) 又は否定形の組 $\neg(t, v_{i, C^P})$ であると限定してもよい。

言い替えると、 $C^P(i) = (t, v_{i, C^P})$ 又は $C^P(i) = \neg(t, v_{i, C^P})$ である場合に、関数 \sim^{C^P} を、 $\sim^{C^P}(i) = t$ である $\{1, \dots, L\}$ $\{1, \dots, d^{C^P}\}$ の写像であるとする。この場合、 \sim^{C^P} が単射であると限定してもよい。なお、 $C^P(i)$ は、上述したアクセスストラクチャ $S^{C^P} := (M^{C^P}, C^P(i))$ の $C^P(i)$ である。

【0091】

30

また、Setup アルゴリズムは、暗号処理システム 10 のセットアップ時に一度実行すればよく、復号鍵を生成する度に実行する必要はない。また、上記説明では、Setup アルゴリズムと Key Gen アルゴリズムとを鍵生成装置 100 が実行するとしたが、Setup アルゴリズムと Key Gen アルゴリズムとをそれぞれ異なる装置が実行するとしてもよい。

【0092】

また、上記説明では、スパンプログラム M^{\wedge} は、入力列 \quad によって行列 M^{\wedge} から得られる行列 M^{\quad} の行を線形結合して 1^{\quad} が得られる場合に限り、入力列 \quad を受理するとした。しかし、スパンプログラム M^{\wedge} は、 1^{\quad} ではなく、他のベクトル h^{\quad} が得られる場合に限り、入力列 \quad を受理するとしてもよい。

40

この場合、Key Gen アルゴリズムにおいて、 $s_0^{K^P} := 1^{\quad} \cdot (f^{K^P})^T$ ではなく、 $s_0 := h^{K^P} \cdot (f^{K^P})^T$ とすればよい。同様に、Enc アルゴリズムにおいて、 $s_0^{C^P} := 1^{\quad} \cdot (f^{C^P})^T$ ではなく、 $s_0 := h^{C^P} \cdot (f^{C^P})^T$ とすればよい。

【0093】

実施の形態 2 .

以上の実施の形態では、双対ベクトル空間において暗号処理を実現する方法について説明した。この実施の形態では、双対加群において暗号処理を実現する方法について説明する。

【0094】

50

つまり、以上の実施の形態では、素数位数 q の巡回群において暗号処理を実現した。しかし、合成数 M を用いて数 164 のように環 R を表した場合、環 R を係数とする加群においても、上記実施の形態で説明した暗号処理を適用することができる。

【数 164】

$$\mathbb{R} := \mathbb{Z} / M\mathbb{Z}$$

ここで、

\mathbb{Z} : 整数

M : 合成数

である。

10

【0095】

例えば、実施の形態 1 で説明した Unified - Policy 関数型暗号を、環 R を係数とする加群において実現すると数 165 から数 169 のようになる。

【数 1 6 5】

$$\begin{aligned}
& \mathcal{G}_{\text{ob}}^{\text{up}}(1^\lambda, \vec{n} := ((d^{\text{KP}}; n_t^{\text{KP}}, u_t^{\text{KP}}, w_t^{\text{KP}}, z_t^{\text{KP}} (t=1, \dots, d^{\text{KP}})), \\
& \quad (d^{\text{CP}}; n_t^{\text{CP}}, u_t^{\text{CP}}, w_t^{\text{CP}}, z_t^{\text{CP}} (t=1, \dots, d^{\text{CP}}))) : \\
& \text{param}_{\mathbb{G}} := (q, \mathbb{G}, \mathbb{G}_T, g, e) \xleftarrow{\text{R}} \mathcal{G}_{\text{bpg}}(1^\lambda), \quad \psi \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^X, \\
& N_0 := 2 + u_0 + 1 + w_0 + z_0, \\
& N_t^{\text{KP}} := n_t^{\text{KP}} + u_t^{\text{KP}} + w_t^{\text{KP}} + z_t^{\text{KP}} \text{ for } t=1, \dots, d^{\text{KP}}, \\
& N_t^{\text{CP}} := n_t^{\text{CP}} + u_t^{\text{CP}} + w_t^{\text{CP}} + z_t^{\text{CP}} \text{ for } t=1, \dots, d^{\text{CP}}, \\
& \text{param}_{\mathbb{V}_0} := (q, \mathbb{V}_0, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_0, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_0, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& X_0 := (\chi_{0,i,j})_{i,j} \xleftarrow{\text{U}} \text{GL}(N_0, \mathbb{R}), \quad (v_{0,i,j})_{i,j} := \psi \cdot (X_0^T)^{-1}, \\
& b_{0,i} := (\chi_{0,i,1}, \dots, \chi_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0 := (b_{0,1}, \dots, b_{0,N_0}), \\
& b_{0,i}^* := (v_{0,i,1}, \dots, v_{0,i,N_0})_{\mathbb{A}_0}, \quad \mathbb{B}_0^* := (b_{0,1}^*, \dots, b_{0,N_0}^*), \\
& \text{for } t=1, \dots, d^{\text{KP}}, \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{KP}}} := (q, \mathbb{V}_t^{\text{KP}}, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_t^{\text{KP}}, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_t^{\text{KP}}, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& \quad X_t^{\text{KP}} := (\chi_{t,i,j}^{\text{KP}})_{i,j} \xleftarrow{\text{U}} \text{GL}(N_t^{\text{KP}}, \mathbb{F}_q), \quad (v_{t,i,j}^{\text{KP}})_{i,j} := \psi \cdot ((X_t^{\text{KP}})^T)^{-1}, \\
& \quad b_{t,i}^{\text{KP}} := (\chi_{t,i,1}^{\text{KP}}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{KP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{\text{KP}} := (b_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}), \\
& \quad b_{t,i}^{*\text{KP}} := (v_{t,i,1}^{\text{KP}}, \dots, v_{t,i,N_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{KP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{*\text{KP}} := (b_{t,1}^{*\text{KP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}), \\
& \text{for } t=1, \dots, d^{\text{CP}}, \\
& \quad \text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{CP}}} := (q, \mathbb{V}_t^{\text{CP}}, \mathbb{G}_T, \mathbb{A}_t^{\text{CP}}, e) := \mathcal{G}_{\text{dpvs}}(1^\lambda, N_t^{\text{CP}}, \text{param}_{\mathbb{G}}), \\
& \quad X_t^{\text{CP}} := (\chi_{t,i,j}^{\text{CP}})_{i,j} \xleftarrow{\text{U}} \text{GL}(N_t^{\text{CP}}, \mathbb{F}_q), \quad (v_{t,i,j}^{\text{CP}})_{i,j} := \psi \cdot ((X_t^{\text{CP}})^T)^{-1}, \\
& \quad b_{t,i}^{\text{CP}} := (\chi_{t,i,1}^{\text{CP}}, \dots, \chi_{t,i,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{CP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{\text{CP}} := (b_{t,1}^{\text{CP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}), \\
& \quad b_{t,i}^{*\text{CP}} := (v_{t,i,1}^{\text{CP}}, \dots, v_{t,i,N_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}})_{\mathbb{A}_t^{\text{CP}}}, \quad \mathbb{B}_t^{*\text{CP}} := (b_{t,1}^{*\text{CP}}, \dots, b_{t,N_t^{\text{CP}}}^{*\text{CP}}), \\
& g_T := e(g, g)^\psi, \\
& \text{param}_{\vec{n}} := (\text{param}_{\mathbb{V}_0}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{KP}}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\text{param}_{\mathbb{V}_t^{\text{CP}}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}, g_T) \\
& \text{return } (\text{param}_{\vec{n}}, \{\mathbb{B}_0, \mathbb{B}_0^*\}, \{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}).
\end{aligned}$$

【数 1 6 6】

Setup($1^\lambda, \vec{n} := ((d^{\text{KP}}; n_t^{\text{KP}}, u_t^{\text{KP}}, w_t^{\text{KP}}, z_t^{\text{KP}} (t = 1, \dots, d^{\text{KP}})),$
 $(d^{\text{CP}}; n_t^{\text{CP}}, u_t^{\text{CP}}, w_t^{\text{CP}}, z_t^{\text{CP}} (t = 1, \dots, d^{\text{CP}}))) :$

(param $_{\vec{n}}, \mathbb{B}_0, \mathbb{B}_0^*, \{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}},$

$\{\mathbb{B}_t^{\text{CP}}, \mathbb{B}_t^{*\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}) \xleftarrow{\mathcal{R}} \mathcal{G}_{\text{ob}}(1^\lambda, \vec{n}),$

10

$\hat{\mathbb{B}}_0 := (b_{0,1}^*, b_{0,2}^*, b_{0,2+u_0+1}^*, b_{0,2+u_0+1+w_0+1}^*, \dots, b_{0,2+u_0+1+w_0+z_0}^*),$

$\hat{\mathbb{B}}_0^* := (b_{0,1}^*, b_{0,2}^*, b_{0,2+u_0+1}^*, b_{0,2+u_0+1+1}^*, \dots, b_{0,2+u_0+1+w_0}^*),$

for $t = 1, \dots, d^{\text{KP}},$

$\hat{\mathbb{B}}_t^{\text{KP}} := (b_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+w_t^{\text{KP}}+1}^{\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+w_t^{\text{KP}}+z_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}),$

$\hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{KP}} := (b_{t,1}^{*\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+1}^{*\text{KP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{KP}}+u_t^{\text{KP}}+w_t^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}),$

20

for $t = 1, \dots, d^{\text{CP}},$

$\hat{\mathbb{B}}_t^{\text{CP}} := (b_{t,1}^{\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+w_t^{\text{CP}}+1}^{\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+w_t^{\text{CP}}+z_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}),$

$\hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{CP}} := (b_{t,1}^{*\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}}^{*\text{CP}}, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+1}^{*\text{CP}}, \dots, b_{t,n_t^{\text{CP}}+u_t^{\text{CP}}+w_t^{\text{CP}}}^{*\text{CP}}),$

pk := (1^λ , param $_{\vec{n}}, \hat{\mathbb{B}}_0, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}}),$

sk := ($\hat{\mathbb{B}}_0^*, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{KP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{KP}}}, \{\hat{\mathbb{B}}_t^{*\text{CP}}\}_{t=1, \dots, d^{\text{CP}}})$

return pk, sk.

30

【数 1 6 7】

KeyGen(pk, sk, $\mathbb{S}^{\text{KP}} := (M^{\text{KP}}, \rho^{\text{KP}})$,

$$\Gamma^{\text{CP}} := \{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}} := (x_{t,1}^{\text{CP}}, \dots, x_{t,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}) \in \mathbb{R}^{n_t^{\text{CP}}} \setminus \{\vec{0}\})$$

$$|1 \leq t \leq d^{\text{CP}}, x_{t,1}^{\text{CP}} := 1\}$$

$$\vec{f}^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{r^{\text{KP}}}, (\vec{s}^{\text{KP}})^{\text{T}} := (s_1^{\text{KP}}, \dots, s_{L^{\text{KP}}}^{\text{KP}})^{\text{T}} := M^{\text{KP}} \cdot (\vec{f}^{\text{KP}})^{\text{T}},$$

$$s_0^{\text{KP}} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{\text{KP}})^{\text{T}},$$

$$\delta^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}, \vec{\eta}_t^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{w_t^{\text{CP}}} \text{ such that } (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}},$$

$$\vec{\eta}_0 \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{w_0},$$

$$k_0^* := (-s_0^{\text{KP}}, \delta^{\text{CP}}, \overbrace{0^{u_0}}^{u_0}, 1, \overbrace{\eta_{0,1}, \dots, \eta_{0,w_0}}^{w_0}, \overbrace{0^{z_0}}^{z_0})_{\mathbb{B}_0^*},$$

for $i = 1, \dots, L^{\text{KP}}$,

$$\text{if } \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}} := (v_{i,1}^{\text{KP}}, \dots, v_{i,n_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}) \in \mathbb{R}^{n_t^{\text{KP}}} \setminus \{\vec{0}\}),$$

$$\theta_i^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}, \vec{\eta}_i^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{w_t^{\text{KP}}},$$

$$k_i^{*\text{KP}} := (\overbrace{s_i^{\text{KP}} \vec{e}_{t,1}^{\text{KP}} + \theta_i^{\text{KP}} \vec{v}_i^{\text{KP}}}_{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0^{u_t^{\text{KP}}}}^{u_t^{\text{KP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{\text{KP}}}_{w_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0^{z_t^{\text{KP}}}}^{z_t^{\text{KP}}})_{\mathbb{B}_i^{*\text{KP}}},$$

$$\text{if } \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}}), \vec{\eta}_i^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{w_t^{\text{KP}}},$$

$$k_i^{*\text{KP}} := (\overbrace{s_i^{\text{KP}} \vec{v}_i^{\text{KP}}}_{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0^{u_t^{\text{KP}}}}^{u_t^{\text{KP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_i^{\text{KP}}}_{w_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0^{z_t^{\text{KP}}}}^{z_t^{\text{KP}}})_{\mathbb{B}_i^{*\text{KP}}},$$

for $(t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}}$,

$$k_t^{*\text{CP}} := (\overbrace{\delta^{\text{CP}} \vec{x}_t^{\text{CP}}}_{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0^{u_t^{\text{CP}}}}^{u_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\vec{\eta}_t^{\text{CP}}}_{w_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0^{z_t^{\text{CP}}}}^{z_t^{\text{CP}}})_{\mathbb{B}_t^{*\text{CP}}},$$

return $\text{sk}_{(\mathbb{S}^{\text{KP}}, \Gamma^{\text{CP}})} :=$

$$(k_0^*; \mathbb{S}^{\text{KP}}, k_1^{*\text{KP}}, \dots, k_{L^{\text{KP}}}^{*\text{KP}}; \Gamma^{\text{CP}}, \{k_t^{*\text{CP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}}}).$$

10

20

30

40

【数 1 6 8】

$$\text{Enc}(\text{pk}, m, \Gamma^{\text{KP}} :=$$

$$\{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}} := (x_{t,1}^{\text{KP}}, \dots, x_{t,n_t^{\text{KP}}}^{\text{KP}}) \in \mathbb{R}^{n_t^{\text{KP}}} \setminus \{\vec{0}\}) \mid 1 \leq t \leq d^{\text{KP}}, x_{t,1}^{\text{KP}} := 1\},$$

$$\mathbb{S}^{\text{CP}} := (M^{\text{CP}}, \rho^{\text{CP}}):$$

$$\omega^{\text{KP}}, \zeta \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}, \vec{\varphi}_0 \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{z_0}, \vec{\varphi}_t^{\text{KP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{z_t^{\text{KP}}} \text{ for } (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma,$$

$$\vec{f}^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{R}} \mathbb{R}^{r^{\text{CP}}}, (\vec{s}^{\text{CP}})^{\text{T}} := (s_1^{\text{CP}}, \dots, s_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}})^{\text{T}} := M^{\text{CP}} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}},$$

$$s_0^{\text{CP}} := \vec{1} \cdot (\vec{f}^{\text{CP}})^{\text{T}},$$

$$c_0 := (\omega^{\text{KP}}, -s_0^{\text{CP}}, \overbrace{0u_0}^{u_0}, \zeta, \overbrace{0w_0}^{w_0}, \overbrace{\varphi_{0,1}, \dots, \varphi_{0,z_0}}^{z_0})_{\mathbb{B}_0},$$

for $(t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}}$,

$$c_t^{\text{KP}} := (\overbrace{\omega^{\text{KP}} \vec{x}_t^{\text{KP}}}^{n_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0u_t^{\text{KP}}}^{u_t^{\text{KP}}}, \overbrace{0w_t^{\text{KP}}}^{w_t^{\text{KP}}}, \overbrace{\vec{\varphi}_t^{\text{KP}}}^{z_t^{\text{KP}}})_{\mathbb{B}_t^{\text{KP}}}$$

for $i = 1, \dots, L^{\text{CP}}$,

if $\rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}} := (v_{i,1}^{\text{CP}}, \dots, v_{i,n_t^{\text{CP}}}^{\text{CP}}) \in \mathbb{R}^{n_t^{\text{CP}}} \setminus \{\vec{0}\})$,

$$\theta_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}, \vec{\varphi}_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{z_t^{\text{CP}}},$$

$$c_i^{\text{CP}} := (\overbrace{(s_i^{\text{CP}} \vec{e}_{t,1}^{\text{CP}} + \theta_i^{\text{CP}} \vec{v}_i^{\text{CP}})}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0u_t^{\text{CP}}}^{u_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0w_t^{\text{CP}}}^{w_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\vec{\varphi}_i^{\text{CP}}}^{z_t^{\text{CP}}})_{\mathbb{B}_i^{\text{CP}}},$$

if $\rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}})$, $\vec{\varphi}_i^{\text{CP}} \xleftarrow{\text{U}} \mathbb{R}^{z_t^{\text{CP}}}$,

$$c_i^{\text{CP}} := (\overbrace{(s_i^{\text{CP}} \vec{v}_i^{\text{CP}})}^{n_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0u_t^{\text{CP}}}^{u_t^{\text{CP}}}, \overbrace{0w_t^{\text{CP}}}^{w_t^{\text{CP}}}, \overbrace{\vec{\varphi}_i^{\text{CP}}}^{z_t^{\text{CP}}})_{\mathbb{B}_i^{\text{CP}}},$$

$$c_{d+1} := g_I^{\zeta} m,$$

return $\text{ct}_{(\Gamma^{\text{KP}}, \mathbb{S}^{\text{CP}})} :=$

$$(c_0; \Gamma^{\text{KP}}, \{c_t^{\text{KP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}}}; \mathbb{S}^{\text{CP}}, c_1^{\text{CP}}, \dots, c_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}}; c_{d+1}).$$

10

20

30

40

【数 1 6 9】

Dec(pk,

$$\text{sk}(\mathbb{S}^{\text{KP}}, \Gamma^{\text{CP}}) := (k_0^*; \mathbb{S}^{\text{KP}}, k_1^{\text{KP}}, \dots, k_{L^{\text{KP}}}^{\text{KP}}; \Gamma^{\text{CP}}, \{k_t^{\text{CP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}}}),$$

$$\text{ct}(\Gamma^{\text{KP}}, \mathbb{S}^{\text{CP}}) := (c_0; \Gamma^{\text{KP}}, \{c_t^{\text{KP}}\}_{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}}}; \mathbb{S}^{\text{CP}}, c_1^{\text{CP}}, \dots, c_{L^{\text{CP}}}^{\text{CP}}; c_{d+1}):$$

If $\mathbb{S}^{\text{KP}} := (M^{\text{KP}}, \rho^{\text{KP}})$ accepts $\Gamma^{\text{KP}} := \{(t, \vec{x}_t^{\text{KP}})\}$

and $\mathbb{S}^{\text{CP}} := (M^{\text{CP}}, \rho^{\text{CP}})$ accepts $\Gamma^{\text{CP}} := \{(t, \vec{x}_t^{\text{CP}})\}$,

10

then compute $(I^{\text{KP}}, \{\alpha_i^{\text{KP}}\}_{i \in I^{\text{KP}}})$ and $(I^{\text{CP}}, \{\alpha_i^{\text{CP}}\}_{i \in I^{\text{CP}}})$ such that

$$\vec{1} = \sum_{i \in I} \alpha_i^{\text{KP}} M_i^{\text{KP}}, \text{ where } M_i^{\text{KP}} \text{ is the } i\text{-th row of } M^{\text{KP}}, \text{ and}$$

$$I^{\text{KP}} \subseteq \{i \in \{1, \dots, L^{\text{KP}}\}$$

$$| [\rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}} = 0]$$

$$\vee [\rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{KP}}) \in \Gamma^{\text{KP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}} \neq 0] \}, \text{ and}$$

$$\vec{1} = \sum_{i \in I} \alpha_i^{\text{CP}} M_i^{\text{CP}}, \text{ where } M_i^{\text{CP}} \text{ is the } i\text{-th row of } M^{\text{CP}}, \text{ and}$$

20

$$I^{\text{CP}} \subseteq \{i \in \{1, \dots, L^{\text{CP}}\}$$

$$| [\rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}} = 0]$$

$$\vee [\rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}}) \wedge (t, \vec{x}_t^{\text{CP}}) \in \Gamma^{\text{CP}} \wedge \vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}} \neq 0] \},$$

$$K := e(c_0, k_0^*).$$

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}}.$$

30

$$\prod_{i \in I^{\text{KP}} \wedge \rho^{\text{KP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{KP}})} e(c_t^{\text{KP}}, k_i^{\text{KP}}) \alpha_i^{\text{KP}} / (\vec{v}_i^{\text{KP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{KP}}).$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = (t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}}.$$

$$\prod_{i \in I^{\text{CP}} \wedge \rho^{\text{CP}}(i) = \neg(t, \vec{v}_i^{\text{CP}})} e(c_t^{\text{CP}}, k_i^{\text{CP}}) \alpha_i^{\text{CP}} / (\vec{v}_i^{\text{CP}} \cdot \vec{x}_t^{\text{CP}}),$$

40

$$\text{return } m' := c_{d+1} / K.$$

【0 0 9 6】

また、上記説明における暗号処理は、権限の委譲を行うことも可能である。権限の委譲とは、復号鍵を有する者がその復号鍵よりも権限の弱い下位の復号鍵を生成することである。ここで、権限が弱いとは、復号できる暗号化データが限定されるという意味である。

例えば、第1階層目（最上位）においては、 $t = 1$ の基底 B_t と基底 B_t^* とを用い、第2階層目においては、 $t = 1, 2$ の基底 B_t と基底 B_t^* とを用い、 \dots 、第 k 階層目においては、 $t = 1, \dots, k$ の基底 B_t と基底 B_t^* とを用いる。用いる基底 B_t と基底 B_t^* とが増える分、属性情報が多く設定されることになる。したがって、より復

50

号鍵の権限が限定されることになる。

【 0 0 9 7 】

次に、実施の形態における暗号処理システム 1 0 (鍵生成装置 1 0 0、暗号化装置 2 0 0、復号装置 3 0 0) のハードウェア構成について説明する。

図 1 3 は、鍵生成装置 1 0 0、暗号化装置 2 0 0、復号装置 3 0 0 のハードウェア構成の一例を示す図である。

図 1 3 に示すように、鍵生成装置 1 0 0、暗号化装置 2 0 0、復号装置 3 0 0 は、プログラムを実行する CPU 9 1 1 (Central・Processing・Unit、中央処理装置、処理装置、演算装置、マイクロプロセッサ、マイクロコンピュータ、プロセッサともいう) を備えている。CPU 9 1 1 は、バス 9 1 2 を介して ROM 9 1 3、RAM 9 1 4、LCD 9 0 1 (Liquid Crystal Display)、キーボード 9 0 2 (K / B)、通信ボード 9 1 5、磁気ディスク装置 9 2 0 と接続され、これらのハードウェアデバイスを制御する。磁気ディスク装置 9 2 0 (固定ディスク装置) の代わりに、光ディスク装置、メモリカード読み書き装置などの記憶装置でもよい。磁気ディスク装置 9 2 0 は、所定の固定ディスクインタフェースを介して接続される。

【 0 0 9 8 】

ROM 9 1 3、磁気ディスク装置 9 2 0 は、不揮発性メモリの一例である。RAM 9 1 4 は、揮発性メモリの一例である。ROM 9 1 3 と RAM 9 1 4 と磁気ディスク装置 9 2 0 とは、記憶装置 (メモリ) の一例である。また、キーボード 9 0 2、通信ボード 9 1 5 は、入力装置の一例である。また、通信ボード 9 1 5 は、通信装置の一例である。さらに、LCD 9 0 1 は、表示装置の一例である。

【 0 0 9 9 】

磁気ディスク装置 9 2 0 又は ROM 9 1 3 などには、オペレーティングシステム 9 2 1 (OS)、ウィンドウシステム 9 2 2、プログラム群 9 2 3、ファイル群 9 2 4 が記憶されている。プログラム群 9 2 3 のプログラムは、CPU 9 1 1、オペレーティングシステム 9 2 1、ウィンドウシステム 9 2 2 により実行される。

【 0 1 0 0 】

プログラム群 9 2 3 には、上記の説明において「マスター鍵生成部 1 1 0」、「情報入力部 1 3 0」、「復号鍵生成部 1 4 0」、「鍵配布部 1 5 0」、「公開パラメータ取得部 2 1 0」、「情報入力部 2 2 0」、「暗号化データ生成部 2 3 0」、「データ送信部 2 4 0」、「復号鍵取得部 3 1 0」、「データ受信部 3 2 0」、「スパンプログラム計算部 3 3 0」、「補完係数計算部 3 4 0」、「ペアリング演算部 3 5 0」、「メッセージ計算部 3 6 0」等として説明した機能を実行するソフトウェアやプログラムやその他のプログラムが記憶されている。プログラムは、CPU 9 1 1 により読み出され実行される。

ファイル群 9 2 4 には、上記の説明において「公開パラメータ p_k 」、「マスター鍵 s_k 」、「暗号化データ $c_t (K_P, S_{CP})$ 」、「復号鍵 $s_k (S_{KP}, C_P)$ 」、「アクセスストラクチャ S_{KP}, S_{CP} 」、「属性の集合 K_P, C_P 」、「メッセージ m 」等の情報やデータや信号値や変数値やパラメータが、「ファイル」や「データベース」の各項目として記憶される。「ファイル」や「データベース」は、ディスクやメモリなどの記録媒体に記憶される。ディスクやメモリなどの記憶媒体に記憶された情報やデータや信号値や変数値やパラメータは、読み書き回路を介して CPU 9 1 1 によりメインメモリやキャッシュメモリに読み出され、抽出・検索・参照・比較・演算・計算・処理・出力・印刷・表示などの CPU 9 1 1 の動作に用いられる。抽出・検索・参照・比較・演算・計算・処理・出力・印刷・表示の CPU 9 1 1 の動作の間、情報やデータや信号値や変数値やパラメータは、メインメモリやキャッシュメモリやバッファメモリに一時的に記憶される。

【 0 1 0 1 】

また、上記の説明におけるフローチャートの矢印の部分は主としてデータや信号の入出力を示し、データや信号値は、RAM 9 1 4 のメモリ、その他光ディスク等の記録媒体や IC チップに記録される。また、データや信号は、バス 9 1 2 や信号線やケーブルその他

の伝送媒体や電波によりオンライン伝送される。

また、上記の説明において「～部」として説明するものは、「～回路」、「～装置」、「～機器」、「～手段」、「～機能」であってもよく、また、「～ステップ」、「～手順」、「～処理」であってもよい。また、「～装置」として説明するものは、「～回路」、「～機器」、「～手段」、「～機能」であってもよく、また、「～ステップ」、「～手順」、「～処理」であってもよい。さらに、「～処理」として説明するものは「～ステップ」であっても構わない。すなわち、「～部」として説明するものは、ROM 913に記憶されたファームウェアで実現されていても構わない。或いは、ソフトウェアのみ、或いは、素子・デバイス・基板・配線などのハードウェアのみ、或いは、ソフトウェアとハードウェアとの組み合わせ、さらには、ファームウェアとの組み合わせで実施されても構わない。ファームウェアとソフトウェアは、プログラムとして、ROM 913等の記録媒体に記憶される。プログラムはCPU 911により読み出され、CPU 911により実行される。すなわち、プログラムは、上記で述べた「～部」としてコンピュータ等を機能させるものである。あるいは、上記で述べた「～部」の手順や方法をコンピュータ等に行わせるものである。

【符号の説明】

【0102】

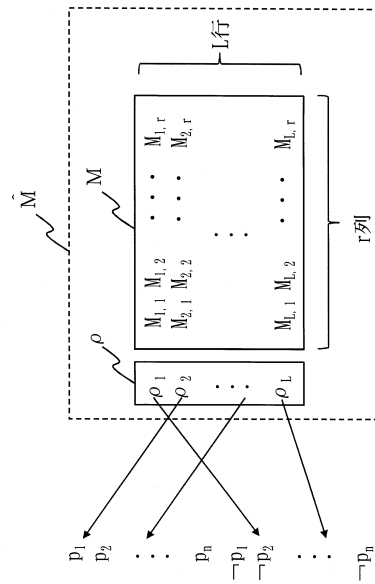
10 暗号処理システム、100 鍵生成装置、110 マスター鍵生成部、120 マスター鍵記憶部、130 情報入力部、131 KP情報入力部、132 CP情報入力部、140 復号鍵生成部、141 fベクトル生成部、142 sベクトル生成部、143 乱数生成部、144 主復号鍵生成部、145 KP復号鍵生成部、146 CP復号鍵生成部、150 鍵配布部、200 暗号化装置、210 公開パラメータ取得部、220 情報入力部、221 KP情報入力部、222 CP情報入力部、223 メッセージ入力部、230 暗号化データ生成部、231 fベクトル生成部、232 sベクトル生成部、233 乱数生成部、234 主暗号化データ生成部、235 KP暗号化データ生成部、236 CP暗号化データ生成部、237 メッセージ暗号化データ生成部、240 データ送信部、300 復号装置、310 復号鍵取得部、320 データ受信部、330 スパンプログラム計算部、331 KPスパンプログラム計算部、332 CPSパンプログラム計算部、340 補完係数計算部、341 KP補完係数計算部、342 CP補完係数計算部、350 ペアリング演算部、360 メッセージ計算部。

10

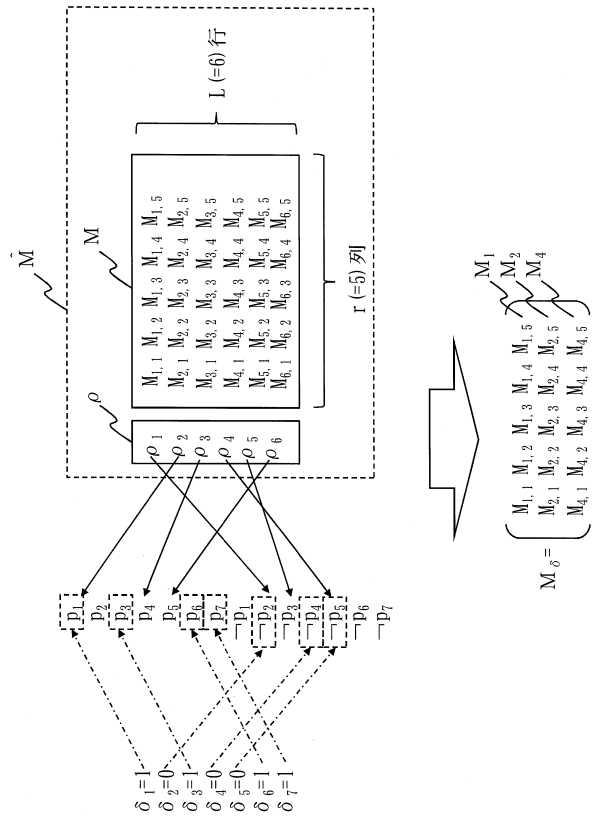
20

30

【図 1】



【図 2】



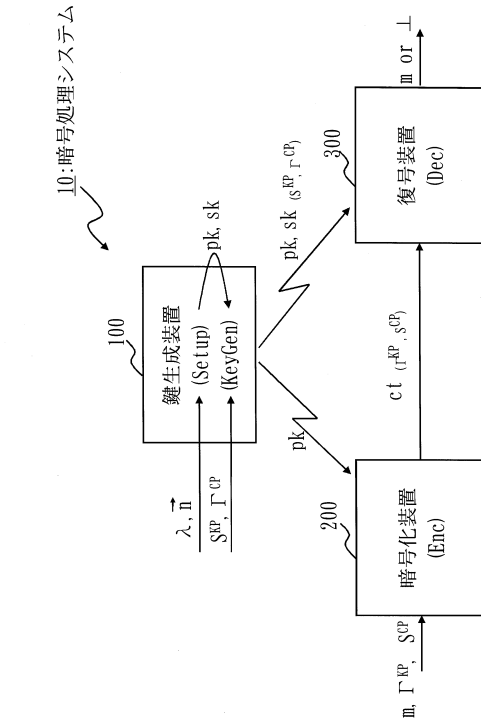
【図 3】

$$s_0 = \begin{bmatrix} \underbrace{f_1, \dots, f_r}_{r \text{ 列}} \end{bmatrix} = \sum_{k=1}^r f_k$$

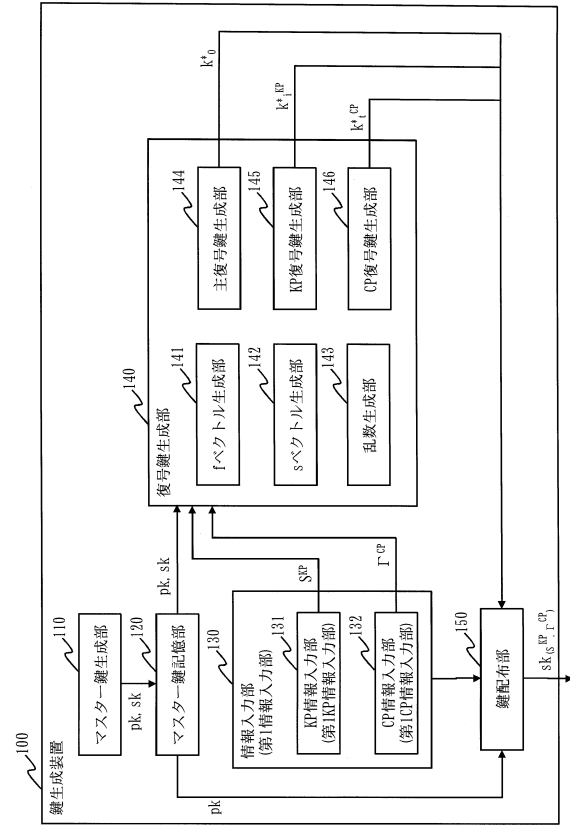
【図 4】

$$s^{-T} = \begin{bmatrix} M_{1,1} & M_{1,2} & \dots & M_{1,r} \\ M_{2,1} & M_{2,2} & \dots & M_{2,r} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ M_{L,1} & M_{L,2} & \dots & M_{L,r} \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} f_1 \\ f_2 \\ \vdots \\ f_r \end{bmatrix}$$

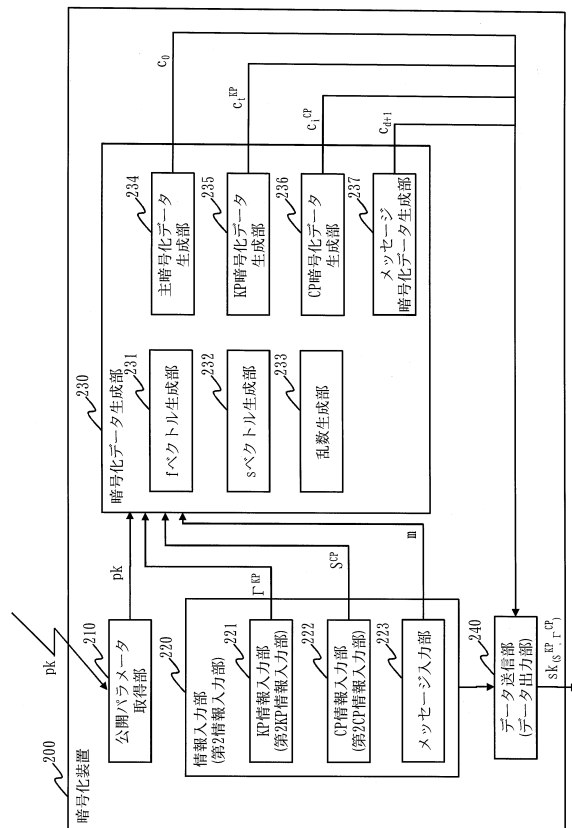
【 図 5 】



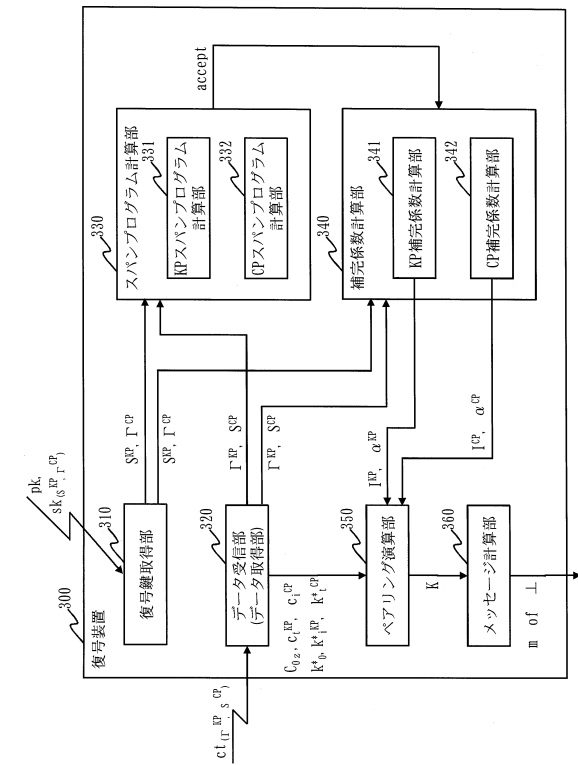
【 図 6 】



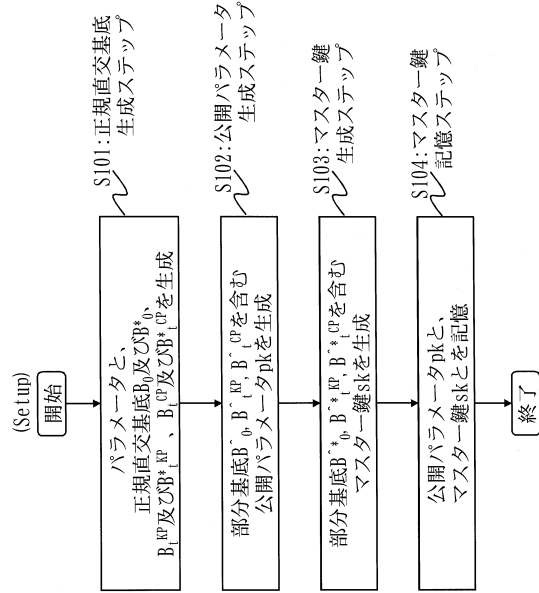
【 図 7 】



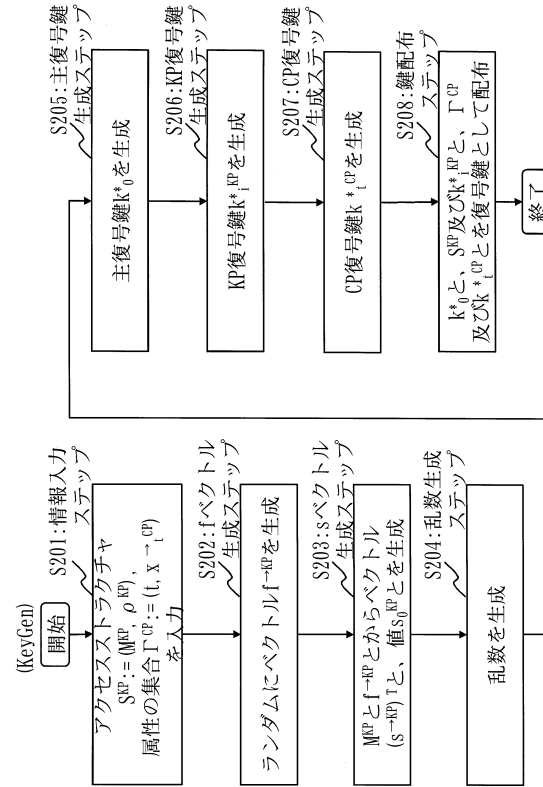
【 図 8 】



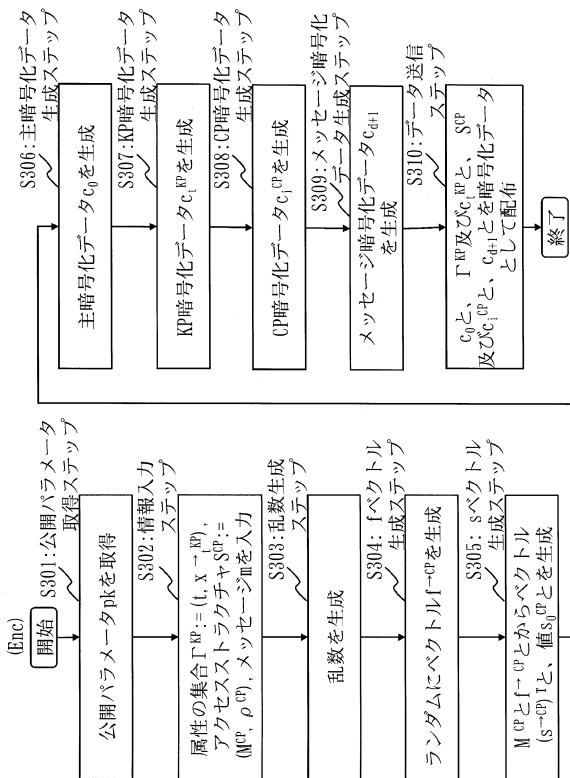
【図 9】



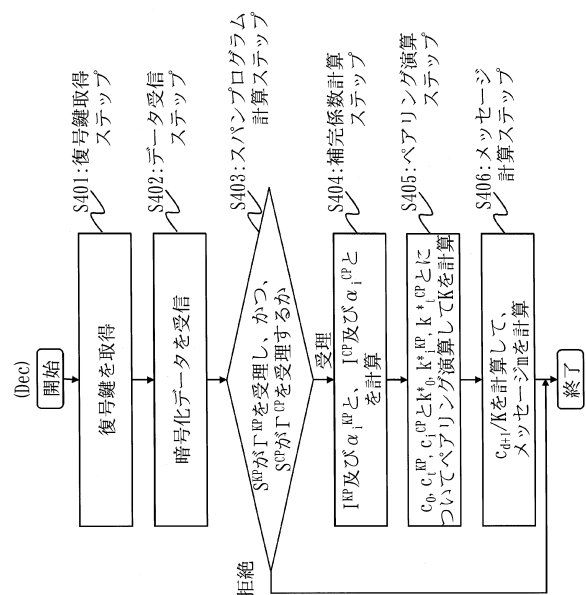
【図 10】



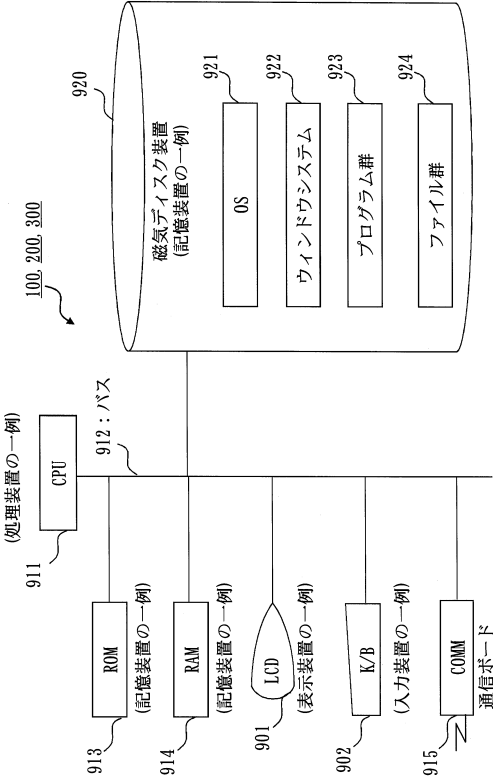
【図 11】



【図 12】



【図 13】



フロントページの続き

(72)発明者 岡本 龍明

東京都千代田区大手町二丁目3番1号 日本電信電話株式会社内

審査官 打出 義尚

(56)参考文献 Tatsuaki Okamoto, Katsuyuki Takashima, Fully Secure Functional Encryption with General Relations from the Decisional Linear Assumption, 2010年11月5日, pp. 1 - 49, URL, <http://eprint.iacr.org/eprint-bin/getfile.pl?entry=2010/563&version=20101105:113344&file=563.pdf>

Nuttapong Attrapadung, Hideki Imai, Dual-Policy Attribute Based Encryption, 2009年
暗号と情報セキュリティシンポジウム SCIS 2009 [CD-ROM], 電子情報通信
学会 情報セキュリティ研究専門委員会, 2009年1月20日, pp. 1 - 6

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G09C 1/00